２０２２年度　３月修了　修士論文

得点の起点となったプレーを伝えるサッカー中継

Focus on the Trigger Play to Score in Football Broadcasting Programs

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻　トップスポーツマネジメントコース

5022A321-0

福西　崇史

研究指導教員：　平田　竹男　教授

目次

第１章　背景 1
第１節　サッカーW 杯の試合中継の変化 1
第１項　日本におけるサッカーW 杯の中継 1
第２項　歴代の W 杯の視聴率 2
第３項　　OTT の台頭 3
第２節　筆者の立場と問題意識 3
第１項　サッカー解説の変化 3
第２項　得点の起点の解説の重要性 4
第３項　研究の問題意識 4
第３節　先行研究 5
第４節　目的 5
第２章　研究方法 6
第１節　カタール W 杯アジア最終予選日本代表全 12 得点の調査 6
第２節　カタール W 杯本大会日本代表全 5 得点の調査 6
第３節　サッカー中継番組制作者へのインタビュー調査 6
第４節　海外のサッカー番組の調査 6
第５節　　YouTube チャンネルの調査 6
第３章　結果 7
第１節　カタール W 杯アジア最終予選全 12 得点の起点 7
第１項　第 2 節中国戦大迫選手の得点（1 点目） 7
第２項　第 4 節豪州戦田中選手の得点（2 点目） 10
第３項　第 4 節戦豪州戦オウンゴール(3 点目) 14
第４項　第 5 節ベトナム戦伊東選手の得点(4 点目) 19
第５項　第 6 節オマーン戦伊東選手の得点(5 点目) 23
第６項　第 7 節中国戦大迫選手の得点(6 点目) 27
第７項　第 7 節中国戦伊東選手の得点(7 点目) 33
第８項　第 8 節サウジアラビア戦南野選手の得点(8 点目) 36
第９項　第 8 節サウジアラビア戦伊東選手の得点(9 点目) 42
第１０項　第 9 節豪州戦三笘選手の得点(10 点目) 48
第１１項　第 9 節豪州戦三笘選手の得点(11 点目) 53
第１２項　第 10 節ベトナム戦吉田選手の得点(12 点目) 57
第１３項　カタール W 杯アジア最終予選全 12 得点のまとめ 62
第２節　カタール W 杯本大会全 5 得点の起点 63
第１項　ドイツ戦堂安選手の得点(1 点目) 63

第２項　ドイツ戦浅野選手の得点(2 点目)....67
第３項　スペイン戦堂安選手の得点(3 点目)....71
第４項　スペイン戦田中選手の得点(4 点目)....77
第５項　クロアチア戦前田選手の得点(5 点目)....82
第６項　カタールＷ杯本大会全５得点のまとめ....86
第７項　得点場面以外のボランチのプレーに対する言及....87
第３節　TV 番組制作者へのインタビュー....93
第１項　リプレイ映像の制作の方法....93
第２項　起点の場面のリプレイ映像の抽出....93
第３項　ハイライト番組で起点の解説を行う可能性について....94
第４節　海外のサッカー番組....95
第１項　チャンピオンリーグ決勝 2021－2022　リバプール対レアルマドリード　59 分ヴィニシウスの得点....95
第２項　イギリス BBC「Match of the day」の調査....97
第３項　その他海外のサッカー番組について....99
第５節　YouTube 番組....101
第１項　Ｊリーグの公式 You Tube チャンネル担当者インタビュー(2022 年 12 月 13 日)　101
第２項　筆者の You Tube チャンネルの課題....101
第４章　考察....102
第１節　得点の起点の解説の実施状況....102
第２節　リプレイ映像の改善....102
第３節　実況者と解説者の連携による起点の解説....103
第４節　番組制作関係者の意思統一....103
第５節　ハイライト番組の可能性....103
第６節　OTT 配信の可能性....104
第７節　得点の起点となった選手に注目を集める方法....104
第８節　研究の限界....104
第５章　結論....106
謝辞....107
参考文献....108
付録....110
第１節　テレビ番組制作デスクＡ氏インタビュー(2022 年 11 月 8 日　２７分５１秒)　110
第２節　テレビ番組制作ディレクターB 氏インタビュー(2022 年 11 月 24 日)....116
第３節　Ｊリーグ担当者インタビュー内容　(2022 年 12 月 13 日)....122

図表目次

表 1　W 杯のテレビ中継の推移.....1
表 2　W 杯の視聴率の推移.....2
表 3　サッカー人口の推移（万人）.....4
表 4　日本代表 FIFA ランキングの推移(2002 年～2022 年).....4
表 5　第 2 節中国戦の大迫選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(DAZN)...9
表 6　第 4 節豪州戦の田中選手の得点場面における実況者・解説者の言及内容.....12
表 7　第 4 節豪州戦ハーフタイムの実況者・解説者の言及内容(出典：DAZN).....13
表 8　第 4 節豪州戦の得点場面（オウンゴール）における実況者・解説者の言及内容(DAZN).....17
表 9　第 4 節豪州戦の得点場面（オウンゴール）における実況者・解説者の言及内容(テレビ朝日).....17
表 10　第 5 節ベトナム戦の伊東選手の決勝ゴールにおける実況者・解説者の言及内容(DAZN).....21
表 11　第 6 節オマーン戦の伊東選手の決勝ゴールに対する実況者・解説者の言及内容(DAZN).....26
表 12　第 7 節中国戦の PK を獲得し大迫選手が先制した場面に対する実況者・解説者の言及内容(DAZN).....30
表 13　第 7 節中国戦の PK を獲得し大迫選手が先制した場面に対する実況者・解説者の言及内容(テレビ朝日).....31
表 14　第 7 節中国戦の伊東選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(DAZN).....34
表 15　第 7 節中国戦の伊東選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(テレビ朝日).....35
表 16　第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点場面に対する実況者・解説者の言及内容（DAZN）.....39
表 17　第 8 節サウジアラビア戦の試合中のスローVTR における実況者・解説者の言及内容(DAZN).....40
表 18　第 8 節サウジアラビア戦のハーフタイム解説における実況者・解説者の言及内容(DAZN).....40
表 19 第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点場面に対する実況者・解説者の言及内容（テレビ朝日）.....41
表 20　第 8 節サウジアラビア戦の伊東選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(DAZN).....45
表 21　第 8 節サウジアラビア戦のハイライトにおける伊東選手の得点に対する実況

者・解説者の言及（DAZN） 46
表 22　第 8 節サウジアラビア戦の伊東選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（テレビ朝日）.....46
表 23　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点に対する実況者・解説者の言及（DAZN） ..51
表 24　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点に対する実況者・解説者の言及(DAZN) 56
表 25　第 10 節ベトナム戦の吉田選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（DAZN) 60
表 26　第 10 節ベトナム戦のハイライトにおける実況者･解説者の言及内容（DAZN） 61
表 27　第 10 節ベトナム戦の吉田選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(テレビ朝日）.....61
表 28　カタール W 杯アジア最終予選全 12 得点の起点.....62
表 29　ドイツ戦堂安選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(ABEMA) 65
表 30　ドイツ戦堂安選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（NHK） 66
表 31　ドイツ戦の浅野選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(ABEMA)....69
表 32 ドイツ戦の浅野選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(NHK).....70
表 33　スペイン戦の堂安選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（ABEMA） 75
表 34　スペイン戦の堂安選手の得点に対する実況者･解説者の言及内容（フジテレビ） 75
表 35　スペイン戦の田中選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（ABEMA） 79
表 36　スペイン戦の田中選手の得点に対する実況者･解説者の言及内容（フジテレビ） 81
表 37　クロアチア戦の前田選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(ABEMA) 84
表 38　クロアチア戦の前田選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(フジテレビ) 84
表 39　カタール W 杯本大会全 5 得点の起点 86
表 40　カタール W 杯ドイツ戦　試合中のボランチのプレーへの言及（ABEMA） ..87
表 41　カタール W 杯ドイツ戦　試合中のボランチのプレーへの言及（NHK） 88
表 42　図２５から２６におけるゴールシーンにおける実況解説 96

図 1　第 2 節中国戦の大迫選手の決勝ゴール(出典：DAZN).....7
図 2　第 2 節中国戦の大迫選手の得点のリプレイ映像（１つめの映像）（出典：DAZN） 8

図 3　第 2 節中国戦の大迫選手の得点のリプレイ映像（4 つめの映像）（出典：DAZN）.....8
図 4　第 4 節豪州戦田中選手の先制ゴール(出典：DAZN) 10
図 5　第 4 節豪州戦の田中選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）.....11
図 6　第 4 節豪州戦の田中選手のフリーランニング(出典：DAZN).....12
図 7　第 4 節豪州戦の浅野選手のシュートシーン(出典：DAZN) 14
図 8　第 4 節豪州戦のオウンゴールの場面(出典：DAZN) 14
図 9　第 4 節豪州戦の吉田選手のロングフィード(出典：DAZN) 15
図 10　第 4 節豪州戦のオウンゴールのリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）.....16
図 11　第 5 節ベトナム戦の伊東選手の決勝ゴール(出典：DAZN) 19
図 12　第 5 節ベトナム戦の得点の起点となった大迫選手のポストプレー(出典：DAZN).....19
図 13　第 5 節ベトナム戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN).....20
図 14　第 5 節ベトナム戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：DAZN).....20
図 15　第 5 節ベトナム戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：DAZN).....21
図 16　第 6 節オマーン戦の得点の起点となった中山選手のボール奪取の瞬間(出典：DAZN).....23
図 17　第 6 節オマーン戦の伊東選手の決勝ゴール(出典：DAZN) 23
図 18　第 6 節オマーン戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN).....25
図 19　第 6 節オマーン戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：DAZN).....25
図 20　第 6 節オマーン戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：DAZN).....26
図 21　第 7 節中国戦の酒井選手から伊東選手にパスを出す場面(出典：DAZN) 27
図 22　第 7 節中国戦の PK 獲得の場面(出典：DAZN).....28
図 23　第 7 節中国戦のハンドの瞬間(出典：DAZN) 28
図 24　第 7 節中国戦の得点の起点となった遠藤選手が反転をして前を向いた場面(出典：DAZN).....29
図 25　第 7 節中国戦の大迫選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）.....29

図 26　第 7 節中国戦の伊東選手のヘディングゴール(出典：DAZN).....33
図 27　第 7 節中国戦の伊東選手の得点のリプレイ映像 (1 つめの映像) (出典：DAZN) 34
図 28　第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の先制点（出典：DAZN） 36
図 29　起点となったボランチ遠藤選手が伊東選手に縦パスを入れる瞬間（出典：DAZN） 37
図 30　第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点のリプレイ映像 (1 つめの映像) (出典：DAZN).....38
図 31　第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点のリプレイ映像 (2 つめの映像) (出典：DAZN).....38
図 32　第 8 節サウジアラビア戦の伊東選手の得点（出典：DAZN） 42
図 33　第 8 節サウジアラビア戦の得点の起点となった組織的な守備の場面（出典：DAZN） 43
図 34　第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点のリプレイ映像 (1 つめの映像) (出典：DAZN).....44
図 35　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点（1 点目）（出典：DAZN） 48
図 36　第 9 節豪州戦の得点の起点となった守田選手の動き出しの瞬間(出典：DAZN) 49
図 37　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像 (1 つめの映像) (出典：DAZN) 50
図 38　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像 (2 つめの映像) (出典：DAZN) 50
図 39　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像 (3 つめの映像) (出典：DAZN) 51
図 40　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点（2 点目）（出典：DAZN） 53
図 41　第 9 節豪州戦の得点の起点となった守田選手のドリブルの瞬間（出典：YouTube） 54
図 42　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像 (1 つめの映像) (出典：DAZN) 54
図 43　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像 (2 つめの映像) (出典：DAZN) 55
図 44　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像 (3 つめの映像) (出典：DAZN) 55
図 45　第 10 節ベトナム戦の吉田選手の得点（出典：DAZN） 57
図 46　第 10 節ベトナム戦の得点の起点となった吉田選手ドリブルの場面（出典：DAZN） 58

図 47　第 10 節ベトナム戦の吉田選手の得点のリプレイ映像（１つめの映像）（出典：DAZN）.....59
図 48　第 10 節ベトナム戦の吉田選手の得点のリプレイ映像（２つめの映像）（出典：DAZN）.....59
図 49　ドイツ戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（１つめの映像）（出典：ABEMA）.....63
図 50　ドイツ戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（２つめの映像）（出典：ABEMA）.....64
図 51　ドイツ戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：ABEMA）.....64
図 52　ドイツ戦の浅野選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：ABEMA）.....68
図 53　ドイツ戦の浅野選手の得点のリプレイ映像（２つめの映像）（出典：ABEMA）.....68
図 54　ドイツ戦の浅野選手の得点のリプレイ映像（３つめの映像）（出典：ABEMA）.....69
図 55　スペイン戦堂安選手の得点の起点となった組織的守備(出典：ABEMA) 72
図 56　スペイン戦堂安選手の得点の起点となった組織的守備(出典：ABEMA) 72
図 57　スペイン戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（１つめの映像）（出典：ABEMA）.....73
図 58　スペイン戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：ABEMA）.....73
図 59　スペイン戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：ABEMA）.....74
図 60　スペイン戦の得点の起点となった権田選手がボールを蹴る場面(画面右下)とメイン画面(画面左上)（出典：ABEMA）.....77
図 61　スペイン戦の田中選手の得点のリプレイ映像（１つめの映像）（出典：ABEMA）.....78
図 62　スペイン戦の田中選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：ABEMA）.....78
図 63　スペイン戦の田中選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：ABEMA）.....79
図 64　クロアチア戦の前田選手の得点のリプレイ映像(1 つめの映像)(出典:ABEMA).....82
図 65　クロアチア戦の前田選手の得点のリプレイ映像(2 つめの映像)(出典:ABEMA).....83

図 66　クロアチア戦の前田選手の得点のリプレイ映像(3 つめの映像)(出典:ABEMA) 83
図 67　　チャンピオンリーグ決勝２０２１－２０２２　リバプール vs レアルマドリード　59’ヴィニシウスの得点（出典：YouTube）.....95
図 68　ボランチが関与したプレー（出典：YouTube）.....96
図 69　イギリス BBC「Match of the day」「イギリス国営放送、『BBC』 で放送されている週末のサッカー番組」(出典：BBC) 97
図 70　Match of the day 2008 年 8 月 30 日放送（出典：YouTube）.....98
図 71　Match of the day 2022 年 10 月 30 日放送 99

第１章　　背景

第１節　　サッカーW 杯の試合中継の変化

第１項 日本におけるサッカーW 杯の中継

日本におけるサッカーW 杯の中継は 1970 年のメキシコ大会から始まった。当時はまだ生放送ではなくテレビ東京（東京１２ch）の番組「ダイヤモンドサッカー」内において中継録画によって 52 週に渡って放送されていた。テレビ東京は 1978 年の西ドイツ大会においてもダイヤモンドサッカー内で 1 年半かけて中継録画による放送を行ったが、日本における生放送での放送開始は同じく 1974 年の西ドイツ大会の決勝戦、テレビ東京によるものであった。1978 年からは NHK が放送を開始、この年から 1998 年までの 6 大会の放送権を取得、日本では独占的に放送を行った。2002 年の日韓大会からはジャパンコンソーシアム(JC)という NHK と民放との共同による制作体制となった。1970 年メキシコ大会から 2022 年カタール大会までの中継の現状は以下の通りである。

表 1　W 杯のテレビ中継の推移

大会	中継形態	中継局	放送試合数（うち生放送）
1970 年メキシコ	録画	テレビ東京	32（０）
1974 年西ドイツ	録画、生放送	テレビ東京	38（１）
1978 年アルゼンチン	録画、生放送	NHK	9（２）
1982 年スペイン	生放送	NHK	19（19）
1986 年メキシコ	生放送	NHK	17（17）
1990 年イタリア	生放送	NHK	52（52）
1994 年アメリカ	生放送	NHK	52（52）
1998 年フランス	生放送	NHK	64（64）
2002 年日韓	生放送	JC スカパー	JC 40（40） スカパー64（64）
2006 年ドイツ	生放送	JC スカパー	JC 64（64） スカパー 64（0）
2010 年南アフリカ	生放送	JC スカパー	JC 44（44） スカパー64（64）
2014 年ブラジル	生放送	JC	64（64）
2018 年ロシア	生放送	JC	64（64）
2022 年カタール	生放送	ABEMA	ABEMA　64（64）

		NHK テレビ朝日 フジテレビ	NHK　21（21） テレビ朝日 10（10） フジテレビ 10（10）

第２項 歴代のＷ杯の視聴率

1993 年のＪリーグ開幕と同時に日本におけるサッカーへの関心は高まり、1998 年のフランス大会への初出場以来Ｗ杯における日本代表戦の視聴率は日本のスポーツ中継の歴史においても上位となっている。先般行われた 2022 年カタールＷ杯でもコスタリカ戦が世帯視聴率 42.9%、推計約 6,080 万人が視聴されていた。

表 2　Ｗ杯の視聴率の推移

大会	対戦相手	放送局	番組平均世帯視聴率（%）
1998 年フランス	アルゼンチン	NHK 総合	60.5
	クロアチア	NHK 総合	60.9
	ジャマイカ	NHK 総合	52.3
2002 年日韓	ベルギー	NHK 総合	58.8
	ロシア	フジテレビ	66.1
	チュニジア	テレビ朝日	45.5
	トルコ	NHK 総合	48.5
2006 年ドイツ	豪州	NHK 総合	49.0
	クロアチア	テレビ朝日	52.7
	ブラジル	NHK 総合	37.2
2010 年南アフリカ	カメルーン	NHK 総合	45.5
	オランダ	テレビ朝日	43.0
	デンマーク	日本テレビ	40.9
	パラグアイ	TBS	57.3
2014 年ブラジル	コートジボワール	NHK 総合	46.6
	ギリシャ	日本テレビ	33.6
	コロンビア	テレビ朝日	37.4
2018 年ロシア	コロンビア	NHK 総合	48.7
	セネガル	日本テレビ	30.9
	ポーランド	フジテレビ	44.2
	ベルギー	NHK 総合	36.4

2022 年カタール	ドイツ	NHK 総合	36.8
	コスタリカ	テレビ朝日	42.9
	スペイン	フジテレビ	28.7
	クロアチア	フジテレビ	34.6

第 3 項 OTT の台頭

J リーグの試合中継が 2017 年から DAZN で全試合配信がされて以降、サッカーの試合が従来の地上波での中継に加えて、OTT でも配信されることになった。サッカーW 杯においては、2018 年ロシア大会までは地上波で放送がされていたが、2022 年カタール W 杯のアジア予選では放映権の高騰の影響もありテレビ朝日がホーム戦のみ、DAZN がホーム戦、アウェイ戦も含めた全試合独占配信を行った。W 杯の本大会においてもドイツ戦が NHK、コスタリカ戦がテレビ朝日、スペイン戦がフジテレビ、クロアチア戦がフジテレビであったが OTT の ABEMA は日本戦含む全試合配信を行った。テレビ視聴率は上述したように高い視聴率を記録したが、ABEMA においてもドイツ戦が行われた 11 月 23 日の 1 日の視聴者数が 1,000 万人を超え、開局以来の最高数値となり、コスタリカ戦 1,400 万人、スペイン戦 1,700 万人を突破し、クロアチア戦が 2,343 万人を記録したとされている。

第 2 節　筆者の立場と問題意識

筆者はプロサッカー選手としてサッカーW 杯に 2002 年日韓大会、2006 年ドイツ大会にボランチとして出場し、引退後は、サッカー解説者として 2010 年、2014 年、2018 年、2022 年 W 杯の NHK 解説を行っている。

第 1 項 サッカー解説の変化

サッカー解説は、J リーグが開幕した 1990 年代のサッカー中継では実況者がオフサイドのルール説明をすることや解説者もドリブルやシュートの技術を説明するような基本的な解説をしていたが、今や相手の背後を取る動きや守備の陣形等の戦術の解説をすることが当たり前になってきている。その背景には上記の通り 1998 年フランス W 杯に初出場や 2002 年日韓 W 杯開催を端とするサッカー人口の拡大、FIFA ランクの向上にあるように日本サッカー界自体の競技レベルの向上があげられ、所謂サッカーへのリテラシー向上が挙げられる。

実際に W 杯での日本代表に活躍に比例してサッカー人口も 2012 年までは右肩上がりに増加し 582 万人まで増加し、その後は減少傾向に転じたが 2018 年に再び上昇し 436 万人

いる状況である。

表 3　サッカー人口の推移（万人）
出典：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査報告書」（2000~2018）

年	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018
推定人口（万人）	219	272	376	349	455	478	582	415	353	436

2022 年カタール大会での記憶も新しいが、日本代表はスペイン代表、ドイツ代表という W 杯優勝経験のあるチームに勝利したとおり確実にレベルアップをしている。FIFA ランクにおいても以下の通り着実に順位を上げている。（各年 12 月末現在の順位）

表 4　日本代表 FIFA ランキングの推移(2002 年～2022 年)
出典：FIFARanking.net (https://fifaranking.net/nations/jpn/ranking_d.php)

年	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
順位	22	17	47	35	29	22	54	45	50	27	20

このようにサッカー人口の拡大やサッカー日本代表自体のレベルアップといった、勝利、普及、資金のトリプルミッションの好循環が、サッカー解説の内容に対しても影響を与えていることが考えられる。

第 2 項 得点の起点の解説の重要性

筆者の W 杯 4 大会の解説の経験においても視聴者が解説者に求める内容が得点者やアシストの解説のみならず、その前の効果的なプレーについての解説も求めるようになってきており、その傾向は回を重ねるごとに高まっている状況である。そこで、得点の起点の解説の機会を増やすことが重要であると考えている。特に、筆者が経験したボランチというポジションは、攻撃の起点となるプレーや攻守の切替えや守備での貢献が多く、また得点やアシストとは異なり得点の起点となるプレーはサッカーの記録としても残らないことからメディア等から注目を受けることも多くはなかった。しかし、得点の起点の解説の需要が高まれば、得点やアシストをした選手だけでなく、ボランチの選手をはじめ得点の起点になった選手のプレーにも注目が集まることが期待される。

第 3 項 研究の問題意識

サッカー中継において得点の起点となるプレーにも焦点を当てた解説やコンテンツを提供することができれば、番組の質を高めることが期待されるだけでなく、その効果として日

本のサッカー界を、欧州サッカーのように中盤での攻防や効果的なボール回しで観客席から拍手が起きるような環境に成熟させることが可能であると考えている。しかし、現状のサッカー番組ではどのような映像が用いられ、実況、解説者がどのような言及を行っているか分からない状況である。そこで、TV 中継の得点シーンの解説では得点の起点となるプレーについて、実況者・解説者はどのように言及しているかを知りたいと思ったことが本研究の動機である。

第 3 節　先行研究

三宅(2003)は、実況者は放送全体の進行の役割を持ち、解説者は振られた話題に対して専門的な批評やコメントをする役割を持つことを指摘していることや、多々良(2015)は専門家を重視する実況者と解説者の立場の違いを示されていたが、いずれも両者の関係性を示すものに留まっていた。伊藤(2019)は歴代五輪の名実況における成功要因を、事前の準備と試合中継本番に取り組んだことから明らかにしたことであった。そこで、本研究では、サッカー中継で最も注目される得点シーンにおいて、実況者・解説者が得点の起点となるプレーに対してどのように言及をしているのかに焦点を当てた。

第 4 節　目的

サッカー中継の得点場面におけるリプレイ映像の内容と実況者、解説者の言及内容を明らかにし、得点の起点となったプレーを解説できる機会を増やす方法を探ることを目的とする。

第２章　　研究方法

第１節　　カタールＷ杯アジア最終予選日本代表全 12 得点の調査

全 10 試合のうち日本代表が得点した 8 試合 12 得点における起点について調査し、起点から得点までプレーの内容の分析、起点からアシストまでのプレー回数（以下、起点数）、リプレイ映像の内容と、起点となったプレーに対するリプレイ映像の有無、起点となったプレーに対する実況者、解説者の言及の有無の調査を行った。なお、実況者、解説者の言及内容は、OTT 配信を行った DAZN と地上波放送を行ったテレビ朝日それぞれの言及内容の逐語録を作成し分析を行った。

第２節　　カタールＷ杯本大会日本代表全 5 得点の調査

第 1 節と同様の方法で、2022 年カタールＷ杯本大会日本代表全 5 得点の調査を行った。本大会の試合中継は、OTT 配信は ABEMA、地上波はドイツ戦が NHK、コスタリカ戦がテレビ朝日、スペイン戦とクロアチア戦がフジテレビであり、それぞれの言及内容の調査を行った。

第３節　　サッカー中継番組制作者へのインタビュー調査

サッカー中継番組の制作デスク A とディレクターB に対して、試合中のリプレイシーンやハイライトシーンの採用基準等の番組の製作過程に関する質問と、得点の起点となるプレーを解説する上での課題や解決策に関する質問を行った。

第４節　　海外のサッカー番組の調査

イギリス、スペイン、ドイツの地上波で放送されているサッカー番組の放送局、放送時間、番組の内容の調査等を行った。

第５節　　YouTube チャンネルの調査

サッカー解説を行う個人の YouTube チャンネルや J リーグや JFA の公式チャンネルの番組の内容の調査を行った。また J リーグの You Tube チャンネル担当者にもインタビュー調査を行った。

第 3 章　　結果

第 1 節　　カタール W 杯アジア最終予選全 12 得点の起点

第 1 項 第 2 節中国戦大迫選手の得点（1 点目）

1)　得点場面の概要

伊東選手がスピードに乗ったドリブルで相手左 SB を抜き去り、伊東選手があげたクロスを大迫選手が走り込んで合わせて得点になった。

図 1　第 2 節中国戦の大迫選手の決勝ゴール(出典：DAZN)

2)　得点の起点

伊東選手のドリブル突破で相手を抜き去ったプレーが起点となり、そのプレーがアシストとなった。攻撃の起点者がアシストとなった。

3)　起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「伊東選手→大迫選手→ゴール」であり、起点数は 0 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　広い画角の伊東選手のドリブル突破の場面からの映像

図 2　第 2 節中国戦の大迫選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

② 背後からアップの画角の伊藤選手のドリブル突破の場面からの映像

③ ゴール裏からアップの画角の伊藤選手のドリブル突破の場面からの映像

④ 背後の画角から大迫選手がゴール前に走り込む場面からの映像

図 3　第 2 節中国戦の大迫選手の得点のリプレイ映像（4 つめの映像）（出典：DAZN）

5）　実況者・解説者の言及(DAZN)

解説の中村憲剛氏が伊東純也選手のドリブル突破と大迫選手が伊東選手に合わせてスプリントをかけたプレーについて「まーここ、伊東純也選手が幅を取って、1 対 1 の仕掛けですね。いやでも、この伊東純也選手が 1 対 1 になった瞬間に、大迫選手がスプリントをかけ

てるんですね。もう抜いてくると思ってるんで、これが大事なんですね。この信頼感というか、まー伊東純也だったら、ここを抜いて上げて来るだろうっていう、そういう信じた、ここですね。いやーいいゴールですね。ほんとに素晴らしいと思います。」と言及がされていた。

6） まとめ

実況者、解説者いずれも伊東選手のドリブル突破について言及をしており、リプレイ映像も伊東選手のドリブル突破からの映像であった。得点の起点がそのままアシストとなったプレーでもあり、得点場面の一連の解説の中で起点について言及がされていた。

表 5　第２節中国戦の大迫選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(DAZN)

解説中村「ウー・レイとエウケソンの２トップ、任せるという形なので、そこはしっかり吉田麻也選手がカバーしましたけど、ここをちゃんと切らさないことが大事です。」 実況桑原「さー伊東純也。」 解説岡田「いいですねー。」 実況桑原「折り返しに、大迫――。」 解説岡田「よっしゃー」 実況桑原「先制日本、４０分、ついにこじ開けました。暗雲を払拭するような１発、大迫勇也です。ようやく、憲剛さんきました。」 解説中村「いやー、大きいですね、この１点。まーここ、伊東純也選手が幅を取って、１対１の仕掛けですね。いやでも、この伊東純也選手が１対１になった瞬間に、大迫選手がスプリントをかけてるんですね。もう抜いてくると思ってるんで、これが大事なんですね。この信頼感というか、まー伊東純也だったら、ここを抜いて上げて来るだろうっていう、そういう信じた、ここですね。いやーいいゴールですね。ほんとに素晴らしいと思います。 解説岡田「まーさっきまであそこでセーフティにパスしてたのを無理して勝負してね、無理してっていうか、リスクを犯して勝負したのがよかったですね。」

第２項 第４節豪州戦田中選手の得点（2 点目）

1） 得点場面の概要

ボランチ守田選手がペナルティーエリアに向かって走り込んでいる南野選手へパス。ボールを受けた南野選手は前を向きドリブル突破をして折り返したボールを田中選手がゴール左隅にシュートを打ち得点。

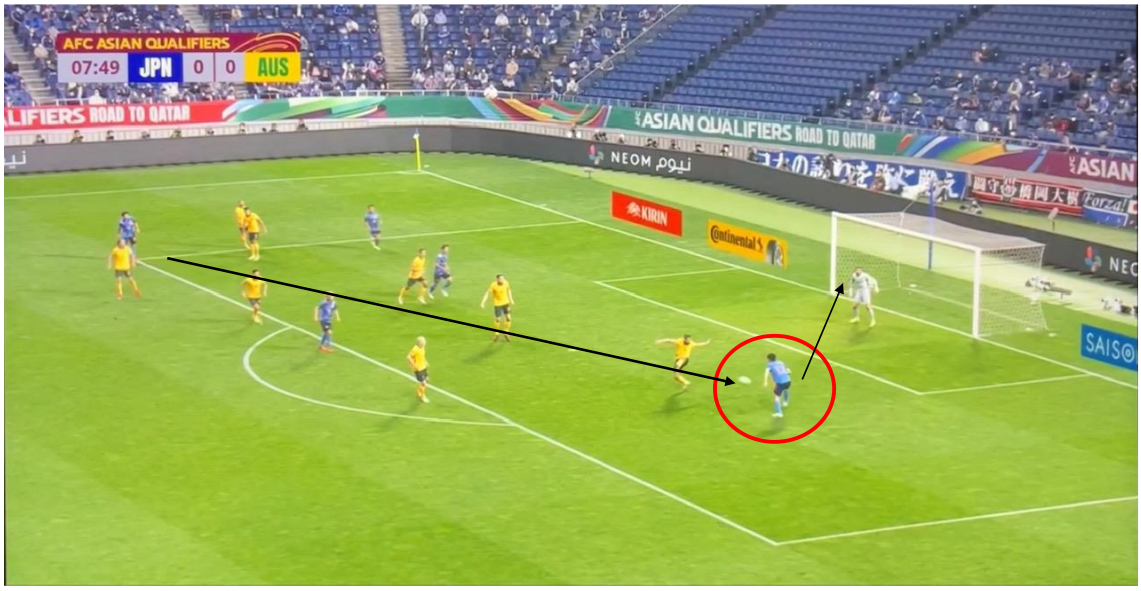

図 4　第４節豪州戦田中選手の先制ゴール(出典：DAZN)

2） 得点の起点

南野選手が前を向いてドリブル突破をしたことで、攻撃のスイッチが入ったことが起点となった。中央にいた田中選手が相手左 SB の視界から消えるような動きをして、相手の DF のミスを誘いフリーでシュートを打つことができた。攻撃の起点となったプレーがアシストになった得点であった。

3） 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「南野→田中→ゴール」であり起点数は 0 であった。

4） リプレイ映像の内容

① 広い画角の南野選手がドリブルで仕掛ける場面からの映像

図 5　第 4 節豪州戦の田中選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

② アップの画角の南野選手がクロスを上げる場面からの映像

③ 田中選手がゴールを決める瞬間のアップの映像

④ 田中選手のガッツポーズをする瞬間のアップの映像

5） 実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者の西岡氏は「南野から遠藤、（南野）半身で受けます、反転。ひきつけて逆サイドを見ます。おっ、入れ替わったチャンス、田中碧だ！」と言及し、「流し込みました、日本代表先制、田中碧。ワンチャンス、ファーストチャンスをいかしました。ちょうど今のは戸田さん、ボールが上手く抜けてきましたね。」と解説者の戸田和幸氏に話を振っていた。

解説者の戸田氏は「はい、抜けましたね。南野がうまく内側でうけたところから、反転をして、少しボールがディフェンスにあったと思いますけども。」と南野選手について言及し「そして、ボールが滑ったのかもしれませんけど、まあ序盤からあの少しベヒッチのところ、対応がうまくいってなかったところもありましたし、よく田中がここまで出てきましたね。」と田中選手のポジショニングについて言及がされていた。

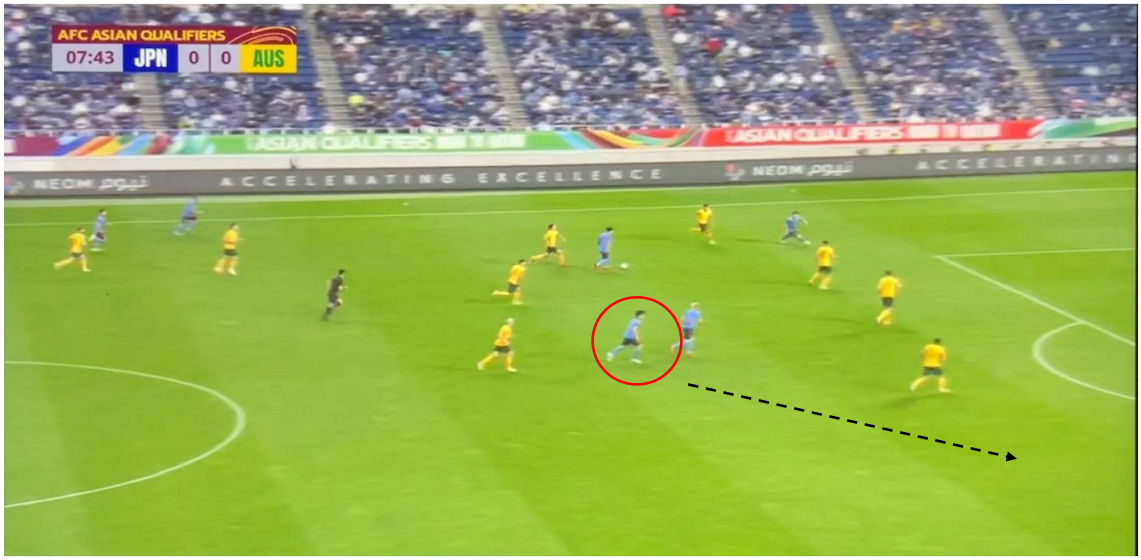

図 6　第 4 節豪州戦の田中選手のフリーランニング(出典：DAZN)

解説の岡田氏は「あのー南野があそこのペナルティーの角まで行ったじゃないですか。良くないときっていうのは、あそこで横パスとかバックパスでもうちょっとパス繋いだりするんですよ。ただ、アタック 3 分の 1、ラストゴール前に入ったときはね、ああやって思い切った勝負のことをしたほうが、絶対いいんですよ。ところがみんなもうちょっとセーフティなことをしちゃう傾向にあるんですよね。素晴らしかった。」と、南野選手がトラップをして前を向いたシーンについて言及し、またハーフタイムにおいても南野選手が前を向いた場面について解説を行った。

6)　まとめ

実況者は南野選手が起点となり得点に至った場面を言及した後、解説者の戸田氏に話を振り、解説者の戸田氏と岡田氏が南野選手のプレーについて解説を行った。リプレイ映像も南野選手のプレーから得点シーンまでを映していた。得点の起点がアシストの 1 つ前のプレーでもあり、得点場面の一連の解説の中で起点について言及がされていた。

表 6　第 4 節豪州戦の田中選手の得点場面における実況者・解説者の言及内容

実況西岡「南野から遠藤、（南野）半身で受けます、反転。ひきつけて逆サイドを見ます。おっ、入れ替わったチャンス、田中碧だ！」 解説戸田「よし！」 解説岡田「よっしゃー」 実況西岡「流し込みました、日本代表先制、田中碧。ワンチャンス、ファーストチャンスをいかしました。ちょうど今のは戸田さん、ボールが上手く抜けてきましたね。」 解説戸田「はい、抜けましたね。南野がうまく内側でうけたところから、反転をして、少

しボールがディフェンスにあったと思いますけども。」
実況西岡「そうですね。」
解説戸田「そして、ボールが滑ったのかもしれませんけど、まあ序盤からあの少しベヒッチのところ、対応がうまくいってなかったところもありましたし、よく田中がここまで出てきましたね。」
解説岡田「ねー碧がよく決めたよ、このシュートね。ほんとに。」
実況西岡「えー」
解説岡田「あのー南野があそこのペナルティーの角まで行ったじゃないですか。良くないときっていうのは、あそこで横パスとかバックパスでもうちょっとパス繋いだりするんですよ。ただ、アタック３分の１、ラストゴール前に入ったときはね、ああやって思い切った勝負のことをしたほうが、絶対いいんですよ。ところがみんなもうちょっとセーフティなことをしちゃう傾向にあるんですよね。素晴らしかった。」
実況西岡「そうですね。代表キャリア、フル代表は３試合目で初ゴールに田中碧はなります。」

表 7　第４節豪州戦ハーフタイムの実況者・解説者の言及内容(出典：DAZN)

解説岡田「でもね、僕さっき、南野初めて向いたって前向いてんだよね。
この前に縦パス来たときに前を向いたのがすごく大きいと思って。
で、切り替えして横や外のパスをするんじゃなくて、ここで勝負のパスをしたよね。こういうことが起こるんだな。」
実況西岡「そうですねー」
解説岡田「ええー」
実況西岡「ちょっとワンタッチあって方向変わり、うまく入れ替わる。」
解説岡田「このトラップからのシュートやっぱり素晴らしいですよ。」
実況西岡「はい」
解説岡田「パーフェクトに近い得点だと思います。」

第 3 項 第 4 節戦豪州戦オウンゴール(3 点目)

1) 得点場面の概要

最後尾にいた吉田選手からの相手 DF の裏に抜けるロングフィードを浅野選手が受けてシュート。打ったボールが相手 DF の足に当たり軌道が変わり、高く浮いたボールを相手 GK が弾いたボールがポストに当たり、そのボールが相手 DF に当たってオウンゴールになった。

図 7　第 4 節豪州戦の浅野選手のシュートシーン(出典：DAZN)

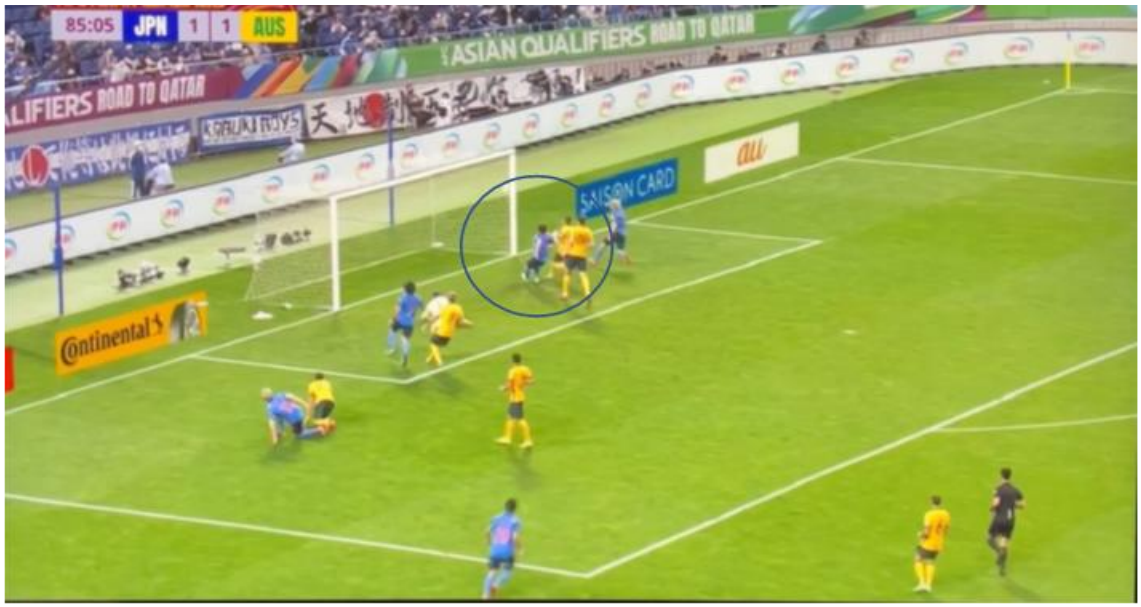

図 8　第 4 節豪州戦のオウンゴールの場面(出典：DAZN)

2)　得点の起点

吉田選手のロングフィードが相手 DF の裏を取ったことが起点となり、浅野選手のシュートチャンスを作った。

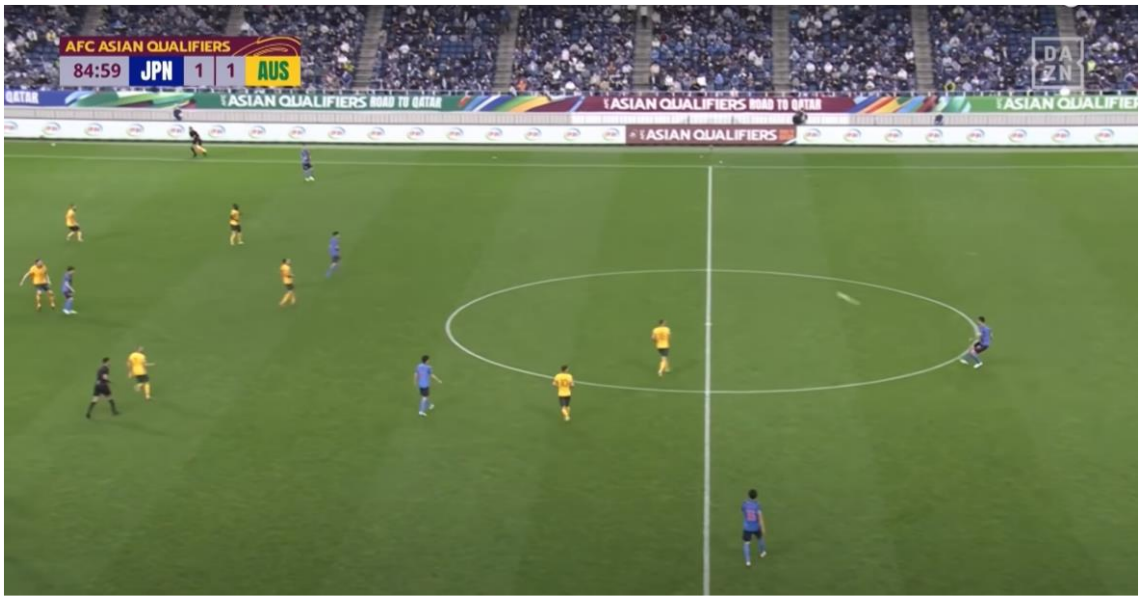

図 9　第 4 節豪州戦の吉田選手のロングフィード(出典：DAZN)

3)　起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「吉田→浅野→相手 GK→ゴール」であり、起点数は 0 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　オフサイドラインが見える広い画角から吉田選手のロングフィードをする場面の映像

図 10　第 4 節豪州戦のオウンゴールのリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

②　ゴール裏のクレーンカメラから浅野選手のシュートを打つ場面の映像

③　シュートを打った浅野選手がアップになりガッツポーズをした映像

④　森保監督の表情を捉えた映像

5)　実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者の西岡氏は「吉田が長いボール。柔らかいタッチで受けて、浅野がループでいくーー。抜けたー。ゴールイン。」と言及し、解説者の岡田氏が「ねー。いや、でもね、相手にあたってキーパー取れなかったですねー。」とオウンゴールについて言及がされていた。

6)　実況者・解説者の言及（テレビ朝日）

実況者の寺川氏は「前を向くトラップ浅野シュート。入った。入ったー。日本勝ち越した。」と言及し、解説者の松木氏「いいトラップとね、当たってるんだね。ディフェンスに当たってるから変化したんだね。ボールがね。」と言及した。解説者の中田浩二氏も「ファーストタッチ素晴らしかったですよね。前向けたのが良かったですし、気持ちですよね。」と言及がされていた。

7)　まとめ

実況者と解説者の言及内容は、DAZN の場合、実況者は吉田選手のプレーについて言及したが、解説者はオウンゴールについて言及がされていた。テレビ朝日の場合、実況者は吉

田選手のプレーについて言及することはなく、浅野選手のプレーについて言及がされていた。解説者の松木氏と中田氏も浅野選手のプレーについて言及がされていた。リプレイ映像は、オフサイドか否かが分かる場面と、オウンゴールとなった場面が誰にどう当たったのかを分かるような映像であった。得点場面自体は、オウンゴールでもあり、必ずしも得点の起点を遡る必要がない得点であった。

表 8　第 4 節豪州戦の得点場面(オウンゴール)における実況者･解説者の言及内容(DAZN)

実況西岡「吉田が長いボール。柔らかいタッチで受けて、浅野がループでいくーー。抜けたー。ゴールイン。」 解説岡田「よし！」 実況西岡「浅野拓磨が浮かせてきました。苦しいゲーム２対１勝ち越し。今のは岡田さん、ふるかと思ったら、」 解説岡田「ねー。いや、でもね、相手にあたってキーパー取れなかったですねー。」 実況西岡「デフレクションがあったんでしょうか？」 解説岡田「あったと思いますよ。」 実況西岡「あっ、あたってますね。」 解説岡田「あれで、キーパーのタイミングずれたですね。」 解説戸田「最後、ベヒッチがクリアしようと思って蹴ったボールが入っちゃった。」 実況西岡「そうですねー。時計は８６分。横内コーチと握手しました、森保監督。」

表 9　第 4 節豪州戦の得点場面（オウンゴール）における実況者・解説者の言及内容(テレビ朝日)

解説松木：オーストラリア動いてますね。 実況寺川：前を向くトラップ浅野シュート。入った。入ったー。 日本勝ち越した。 解説松木：よしよしよしよし。 実況寺川：逆境で迎えたオーストラリア戦。 追いつかれたあと、今日の日本には勝ち越す力がありました。 浅野が打ったシュート、綺麗ではなかったかもしれない。 ただ見事にゴールネットをゆらしてみせました。 解説松木：いいトラップとね、当たってるんだね。ディフェンスに当たってるから変化したんだね。ボールがね。 実況寺川：そして最後も跳ね返ったところ、相手のベヒッチにあたってゴールネットが揺れたというな形でした。 ただ、もうかたはどうあれ松木さん、この時間帯に勝ち越しました。 解説松木：これはもう形なんかどうでもいいよ。ほんとに。

あれはだって狙ったシュートだからさ。

解説中田浩二：ファーストタッチ素晴らしかったですよね。前向けたのが良かったですし、気持ちですよね。
解説松木：気持ちだね。ただまだ時間あるからな。
実況寺川：時間は 86 分後半の 41 分を過ぎたところです。
勝たなければ、勝つことで、この最終予選ワールドカップに向けた道を切り開くことができる。

第 4 項 第 5 節ベトナム戦伊東選手の得点(4 点目)

1) 得点場面の概要

相手選手との競り合いで遠藤選手がヘディングで大迫選手にボールが渡り、大迫選手が半身でキープしたところを南野選手が裏に抜け出し、大迫選手からボールを受ける。
南野選手からのクロスを伊東選手が合わせて得点

図 11　第 5 節ベトナム戦の伊東選手の決勝ゴール(出典：DAZN)

2) 得点の起点

大迫選手がキープしたことで相手 DF を引き付けることに加えて、南野選手が走り込む時間を作ったことが得点の起点となった。

図 12　第 5 節ベトナム戦の得点の起点となった大迫選手のポストプレー(出典：DAZN)

3） 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「大迫→南野→伊東→ゴール」であり起点数は 1 であった。

4） リプレイ映像の内容

① 南野選手が抜け出してドリブルをしている場面のアップの映像。

図 13 第 5 節ベトナム戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

② ①のシーンの引きの画で得点するまでの映像を映した。

図 14 第 5 節ベトナム戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：DAZN）

③　大迫選手が南野選手に出した直後のアップの映像

図 15　第 5 節ベトナム戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：DAZN）

5）　実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者が「フリックしたボールを大迫ポスト、南野が来た、大きめに出して伊東を見た。伊東に折り返した～」と言及し、さらに「日本先制しました。大迫収めて、南野出てきて、最後はスピードスターの伊東純也。」と起点から得点までの流れについて言及がされていた。解説者の中村憲剛氏と松井大輔氏は「（解説中村）いいですね～、まず、大迫のポストプレーからですからね。しっかりと 3 バックのセンターの選手が背負いながら、南野がウィングバックとセンターバックの間に出てきますから。よーは瞬間的には 3 対 3 になっていってるんですよ。」「（解説松井）裏に抜け出すのも、早かったですからね、やっぱり。」「（解説中村）そこで、やっぱり大迫への信頼感はあったと思いますね。ここは出たあとですけど、ここに出た瞬間に伊東純也フルスプリントで全速力で、ここまででてきてますから。」と言及がされていた。

6）　まとめ

実況者は得点の起点となる大迫選手のプレーについて言及し、解説者も起点の大迫選手とアシストの南野選手、得点者の伊東選手の関係について言及がされていた。リプレイ映像は 3 つめのリプレイ映像で一瞬であるが大迫選手から南野選手にパスを出した場面が映っていたがキープの場面までは映っていなかった。得点の起点がアシストの 1 つ前のプレーでもあり、得点場面の一連の解説の中で起点について言及がされていた。

表 10　第 5 節ベトナム戦の伊東選手の決勝ゴールにおける実況者・解説者の言及内容(DAZN)

実況下田「フリックしたボールを大迫ポスト、南野が来た、大きめに出して伊東を見た。

伊東に折り返した～」
解説松井「キター、ナイスー」

実況下田「日本先制しました。大迫収めて、南野出てきて、最後はスピードスターの伊東純也。
日本先制 17 分 0 － 1 です。」
解説松井「早めにとっていいですね～」
解説中村「いいですね～、まず、大迫のポストプレーからですからね。しっかりと 3 バックのセンターの選手が背負いながら、南野がウィングバックとセンターバックの間に出てきますから。よーは瞬間的には 3 対 3 になっていってるんですよ。」
解説松井「裏に抜け出すのも、早かったですからね、やっぱり。」
解説中村「そこで、やっぱり大迫への信頼感はあったと思いますね。ここは出たあとですけど、ここに出た瞬間に伊東純也フルスプリントで全速力で、ここまででてきてますから。」
解説松井「すごい、やっぱりあの～芝生が悪いのでボコボコしてますね、ボンボン」
解説中村「やっぱ、南野も気を使って、ずいぶんボール見て、ホヴォホヴォずいぶんボール見てますから。ただ、見た分正確に届きましたよね。あの、3 トップになった効果は出たかなとは思いますね。これは。」
解説松井「伊東純也は速いね～ｗ」
解説中村「彼はほんとに速いの、多分ベトナムの選手もあまり見たことがないスピードだと思いますよ。」

第 5 項 第 6 節オマーン戦伊東選手の得点(5 点目)

1) 得点場面の概要

日本が左サイドからの攻撃で相手にボールを奪われたが中山選手がボールを奪い返し、ボール持った中山選手が中にクロスを上げるフェイクをかけ、三笘選手にパスを繋ぎ、三笘選手が折り返したところを伊東選手が合わせて得点。

図 16　第 6 節オマーン戦の得点の起点となった中山選手のボール奪取の瞬間(出典：DAZN)

図 17　第 6 節オマーン戦の伊東選手の決勝ゴール(出典：DAZN)

2) 得点の起点

中山選手がボールを奪取した後にクロスを上げるフェイントを入れたことで相手 DF のマークのタイミングがずれたプレーが起点となり、三笘選手のクロスに伊東選手が抜け出して合わせることができた。

3) 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「中山→三笘→伊東→ゴール」であり、起点数は 1 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　オフサイドラインが見えるような広い画角の中山選手から三笘選手にパスを出した直後の映像

図 18　第 6 節オマーン戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

②　中山選手から三笘選手にボールが渡る瞬間のアップのシーンを中山選手の背後から取るような後ろからの画角で、伊東選手の得点までの映像

図 19　第 6 節オマーン戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：DAZN）

③　中山選手がフェイクをかけた瞬間のアップのシーンから伊東選手の得点までの映像

図 20　第 6 節オマーン戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：DAZN）

④　三笘選手が折り返した瞬間から伊東選手が合わせて得点した場面のアップの映像

⑤　伊東選手のガッツポーズのアップの映像

5）　実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者の西岡氏は「拾う（中山）、三笘が運んで折り返し～伊東純也」と言及し、解説者の佐藤寿人氏は「伊東のポジションもそうですけど、まあー最終的に三笘のクロスのひとつ前ですよね。あの、ひとつずれたタイミングでパスを入れたことで、オマーンの守備陣形の対応が遅れましたよね。」と得点の起点について言及がされていた。またリプレイ映像②③を見ながら解説佐藤「そうですね、このタイミングがずれてましたね。あとはオフサイドがどうかという判断になりますけどね。」と再度中山選手の起点について言及がされていた。

6）　まとめ

実況者も解説者も得点の起点について言及し、リプレイ映像の 1 つ目から 3 つ目まで中山選手のプレーからの映像であり、解説者の佐藤氏が中山選手の起点についてリプレイシーンを見ながら解説を加えていた。得点の起点がアシストの 1 つ前のプレーでもあり、得点場面の一連の解説の中で起点について言及がされていた。

表 11　第 6 節オマーン戦の伊東選手の決勝ゴールに対する実況者・解説者の言及内容(DAZN)

実況西岡「拾う（中山）、三笘が運んで折り返し～伊東純也」
解説佐藤「よっしゃー」
解説岡田「よっしゃー」
実況西岡「伊東純也押し込んで、日本先制。よく入ってきました。」
解説佐藤「伊東のポジションもそうですけど、まあー最終的に三笘のクロスのひとつ前で

すよね。あの、ひとつずれたタイミングでパスを入れたことで、オマーンの守備陣形の対応が遅れましたよね。」
実況西岡「はい」
解説佐藤「一つ前誰ですかね？」
解説岡田「中山が仕掛けて出して、あの、純也結構ミス多かったんだけど、最後点決めましたね。」
解説佐藤「そうですね、いいポジション取りましたね。」
解説岡田「やっぱ、持ってるね。」
解説佐藤「そうですね、このタイミングがずれてましたね。あとはオフサイドがどうかという判断になりますけどね。」
実況西岡「外側から入ってきました。」
解説岡田「いや、これはないでしょ。」
解説佐藤「そうですね。いやーいいポジション取りましたね。」
実況西岡「ベトナム戦に続いて、伊東純也が仕事をしました。」

第 6 項 第 7 節中国戦大迫選手の得点(6 点目)

1) 得点場面の概要

酒井選手からボールを受けた伊東選手の折り返しに対して、相手ボランチの選手が遅れて伊東選手へ寄せに行きスライディングをしたが伊東選手の折り返しが手に当たり PK を獲得。大迫選手が PK を決め得点した。

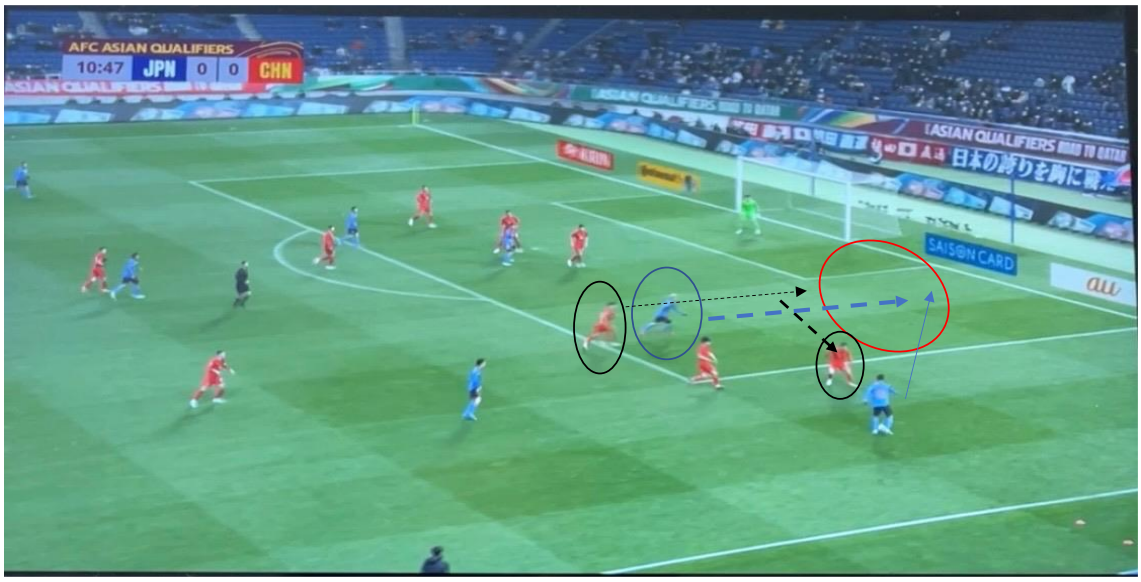

図 21　第 7 節中国戦の酒井選手から伊東選手にパスを出す場面(出典：DAZN)

図 22　第 7 節中国戦の PK 獲得の場面(出典：DAZN)

図 23　第 7 節中国戦のハンドの瞬間(出典：DAZN)

2)　得点の起点

守田選手が狭い局面でも遠藤選手にパスを入れたことと、遠藤選手が前を向いて相手ボランチと左 SB を引き寄せたことが起点となり、外の酒井選手をフリーにさせて相手 CB も引き出し、空いたスペースを伊東選手が使うことで PK を奪うことができた。

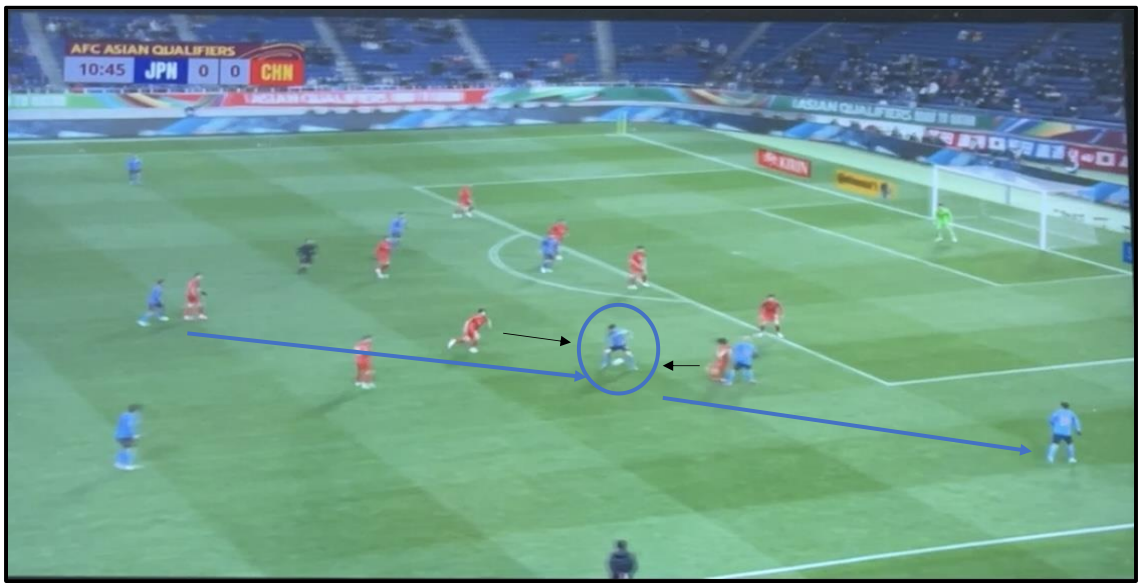

図 24　第 7 節中国戦の得点の起点となった遠藤選手が反転をして前を向いた場面(出典：DAZN)

3)　起点から得点までのプレーの起点数

起点から得点までのプレーは「守田→遠藤→酒井→伊東→ハンド→PK→大迫→ゴール」であり、起点数は 3 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　遠藤選手が酒井選手にパスを出した瞬間のアップの映像

図 25　第 7 節中国戦の大迫選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）(出典：DAZN)

② ゴールライン側から伊東選手がクロスを上げるアップのシーンから相手の手にボールが当たるまでをスローの映像

5) 実況者・解説者の言及(DAZN)

実況桑原氏が「今のは、憲剛さん、いわゆるハーフスペースと言われるところの深いところをうまくとりましたね。」と「ハーフスペース」というサッカー専門用語を用いて言及がされていた。そして、解説者の中村憲剛氏は「そうですね。その前に遠藤航に入れた、守田の斜めのくさびが非常によかった。そして、遠藤航が一回で前を向いて、酒井にパス。その酒井にパスをしている間に伊東純也がポケットにランニングすると、まあ～その 4 バックのラインを崩すには非常にいい崩しだったと思います。」と攻撃の起点について言及がされていた。

6) 実況者・解説者の言及(テレビ朝日)

ピッチ実況吉野氏が「今ちょうど目の前だったんですけど、完全に手に当たったように見えましたね。」という言及し、解説者の内田氏が「スライディングの時に手を上げているので、故意じゃなければっていうのはあるんですけど、これはもう手が上がった状態で当たってるので、PK だと思います。」とハンドの場面について言及がされていた。また解説内田氏が「今みたいにツータッチぐらいでこうバンバンはたいてくると、相手もずれるので、PK になりましたけど、そこまでの流れっていうのは非常に良かったと思います。」とハンドに至るまでの展開については言及がされていたが、得点の起点を具体的に解説するには至っていなかった。

7) まとめ

リプレイ映像には守田選手から遠藤選手へのパスが映っていなかったが、DAZN では実況者の桑原氏が起点となったプレーについて専門用語を用いて言及し、さらに解説者の中村氏に話を振ったことで中村氏が守田選手の遠藤選手の起点となったプレーについて解説をすることができていた。一方で、テレビ朝日ではハンドになったリプレイ映像に基づいて実況者、解説者がハンドの場面について言及がされていた。得点の起点は、アシストから 3 つ前のプレーであり、起点の場面を遡る必要があったが DAZN の場合はリプレイ映像がない中で言及がされていた。一方地上波ではリプレイ映像に基づいてハンドの場面について言及をしており、DAZN とテレビ朝日で言及内容に差が見られた。

表 12　第 7 節中国戦の PK を獲得し大迫選手が先制した場面に対する実況者・解説者の言及内容(DAZN)

解説中村「どこが開くかってところを、必然的に自分たちのところで、探しながら今やってますからね。」 実況桑原「ええー。今は高い位置を取った酒井宏樹に対してサイドハーフの⑧ハオ・ジュンハイがついてます。酒井。背後に出て、伊東純也折り返し。」

解説中村「ハンド。ハンドじゃないですか？」
実況桑原「PK です。スライディングアタックにいった際のハンドを取ったようです。当然、PK かどうかですから、VAR チェックが入っております。ただ、上げた腕に当たったように見えたので、どうでしょう？これは PK でしょうね。」
解説佐藤「まあーはい、あたってますね。」
実況桑原「はい。」
解説佐藤「まあーしっかり幅を取ったところで酒井選手が受けて、そして、伊東純也選手が斜めの動きでしっかり受けましたからね。」
実況桑原「今のは、憲剛さん、いわゆるハーフスペースと言われるところの深いところをうまくとりましたね。」
解説中村「そうですね。その前に遠藤航に入れた、守田の斜めのくさびが非常によかった。そして、遠藤航が一回で前を向いて、酒井にパス。その酒井にパスをしている間に伊東純也がポケットにランニングすると、まあ～その 4 バックのラインを崩すには非常にいい崩しだったと思います。」

実況桑原「さー、ボールをセットしたのは大迫勇也。序盤に最高のチャンスが巡ってきました日本代表。（間があいて）前回の対戦でもこの大迫の決勝ゴールで日本は勝利しています。ピー、決めましたー大迫勇也。」

表 13　第 7 節中国戦の PK を獲得し大迫選手が先制した場面に対する実況者・解説者の言及内容(テレビ朝日)

実況寺川：遠藤。もう 1 度戻してこの位置に板倉です。
センターバックの板倉中を使う守田。田中碧もバスコースを作りに行きます。
斜めのボール。
解説内田：いいんじゃない。
実況寺川：遠藤航から右サイド酒井宏樹、もう 1 度斜めのボール、伊東純也クロスを上げる、コーナーキックです。
ピッチ実況吉野：寺川さん。これハンドかもしれませんね。
実況寺川：ハンドがありましたか。あー、日本にペナルティーキックです。
前半の立ち上がり間もなく 11 分というところ。

ピッチ実況吉野：今ちょうど目の前だったんですけど、完全に手に当たったように見えましたね。

解説内田：スライディングの時に手を上げているので、故意じゃなければっていうのはあるんですけど、これはもう手が上がった状態で当たってるので、PK だと思います。
実況寺川：伊東純也のクロスボールに相手の 4 番オーシンチョウ、手が当たりました。

ペナルティーキックの判定です。
解説松木：今のダイレクトだったんでね。良かったですね。
これ当たったですよね。

解説内田：今みたいにツータッチぐらいでこうバンバンはたいてくると、相手もずれるので、PK になりましたけど、そこまでの流れっていうのは非常に良かったと思います。
実況寺川：ワールドカップを目指す中で勝利が絶対というホーム 2 連戦。
まず、前半の立ち上がり日本はペナルティーキックを獲得しています。
キッカーは大迫勇也です。

第 7 項 第 7 節中国戦伊東選手の得点(7 点目)

1) 得点場面の概要

スローインのリターンを受けた中山選手が相手 DF を交わしてあげたクロスに走り込んできた伊東選手がヘディングで合わせて得点

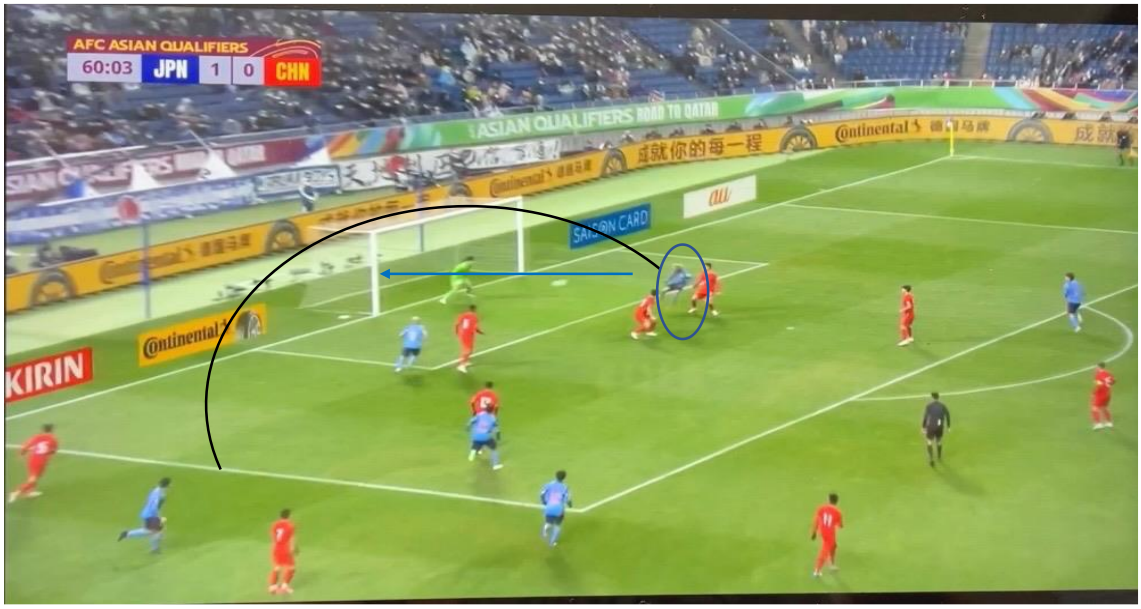

図 26　第 7 節中国戦の伊東選手のヘディングゴール(出典：DAZN)

2) 得点の起点

中山選手のクロスが起点となり、そのまま伊東選手の得点のアシストとなった。

3) 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「中山→伊東→ゴール」であり起点数は 0 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　ゴール裏のクレーンカメラからアップの画角の中山選手がクロスを上げる直前の場面の映像

図 27　第 7 節中国戦の伊東選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

②　①と同様の場面をサイドライン裏の画角からのアップの映像

③　伊東選手がヘディングをする直前の場面を背後からのアップの映像

5)　実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者の桑原氏が「ヘディングー。伊東純也―、結果を出しました、伊東純也。ドンピシャヘッドです。」と言及し、解説者の佐藤寿人氏が「中山のクロスでしょう。」と言及がされていた。

6)　実況者・解説者の言及(テレビ朝日)

実況の寺川氏が「日本に追加点がもたらされました。変わって入った中山のクロスからでした。」と言及し、解説者の松木氏が「良いボールだったね。」と言及がされていた。

7)　まとめ

中山選手のクロスの質が高かったこともあり DAZN もテレビ朝日も実況者、解説者が中山選手のプレーに言及をしていた。リプレイ映像も繰り返し中山選手のクロスを映していた。得点の起点がそのままアシストとなったプレーでもあり、起点という視点は必ずしも必要はなく、得点場面について言及すべき得点であった。

表 14　第 7 節中国戦の伊東選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(DAZN)

実況桑原「ヘディングー伊東純也―、結果を出しました、伊東純也。ドンピシャヘッドです。」

解説佐藤「中山のクロスでしょう。」
解説中村「非常に良かったですね。」
実況桑原「早速中山雄太、結果を残しました。アシスト記録です。」
解説佐藤「ファーストプレーじゃないですか。入ってすぐ、こういう形で仕事できるって言うのは、非常に良い準備ができているってところもありますし、伊東もね、こうしっかりマークをはずしてスペースを見つけてはいってきましたから。」
実況桑原「はい」
解説佐藤「そうですね、入り方とキッカーの質ですよね。」
解説中村「2 人、柏で一緒にやってますからね。」
解説佐藤「まーそうですね。」
解説中村「そこの呼吸みたいなはあるかもしれないですけど、中山は時間があったとはいえ、非常にクオリティー高い、まークロスというかパスに近かったですね。」
解説佐藤「そうですね。」
解説中村「あれはフォワードからすると、」
解説佐藤「いやーもうありがとうございますってかんじですよね。」

表 15　第 7 節中国戦の伊東選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(テレビ朝日)

実況寺川：いいボールだ。
解説松木：ナイスナイスナイス
実況寺川：途中出場、中山雄太のクロスに伊東純也ヘディング合わせました。
解説松木：いやいや稲妻純也。今日はヘディングだね。
実況寺川：伊東純也は最終予選 3 試合連続ゴールです。
解説松木：素晴らしい。よかったよかった。

実況寺川：日本に追加点がもたらされました。
変わって入った中山のクロスからでした。
解説松木：良いボールだったね。
実況寺川：これで２－０。大きな大きな 1 点に松木さんなりそうですね。
解説松木：いや、大きいね。ただね、今もう顔面にぶつけた感じだから伊東選手もね、伊東痛いって言ってんじゃないかな。
解説内田：しっかり叩きましたからね、ヘディング。

第８項 第８節サウジアラビア戦南野選手の得点(8 点目)

1） 得点場面の概要

右サイドを走り込んだ伊東選手に酒井選手が裏に抜けるようなパスを出し、相手 CB がカバーリングをしに伊東選手に寄せてきたが伊東選手が走り勝ち、伊東選手が折り返したところを南野選手が合わせて得点。

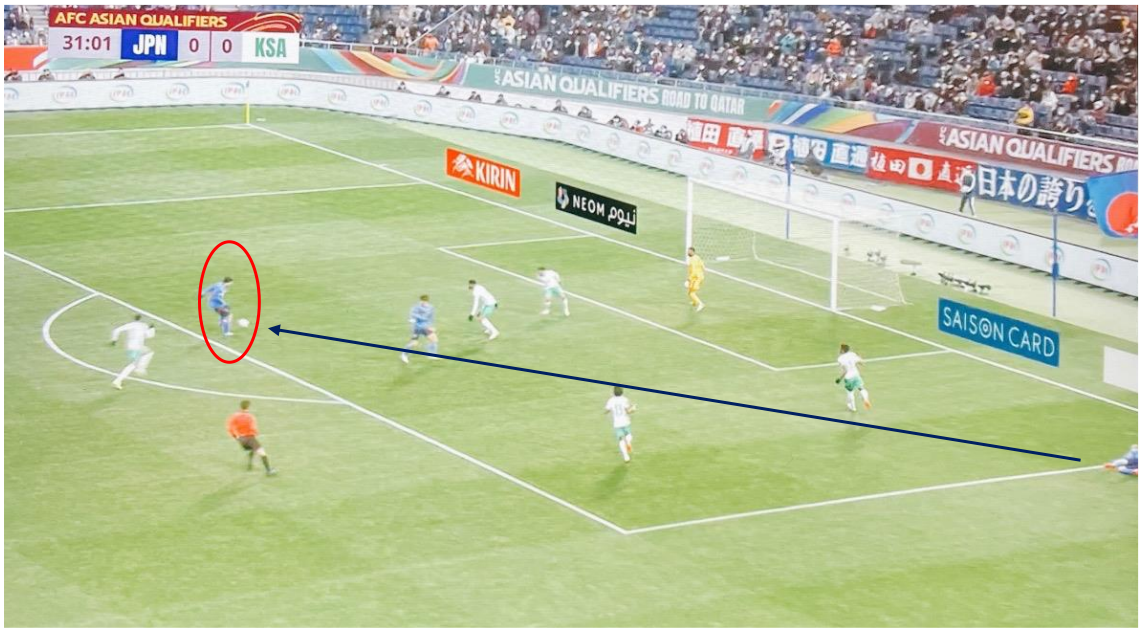

図 28　第８節サウジアラビア戦の南野選手の先制点（出典：DAZN）

2） 得点の起点

遠藤選手がボールを奪った際にボール確実に繋ぐ選択肢として横パスやバックパスもあったが、縦パスを入れたことが起点となり相手陣形が崩れ、スペースが生まれてカウンター攻撃から得点が生まれた。

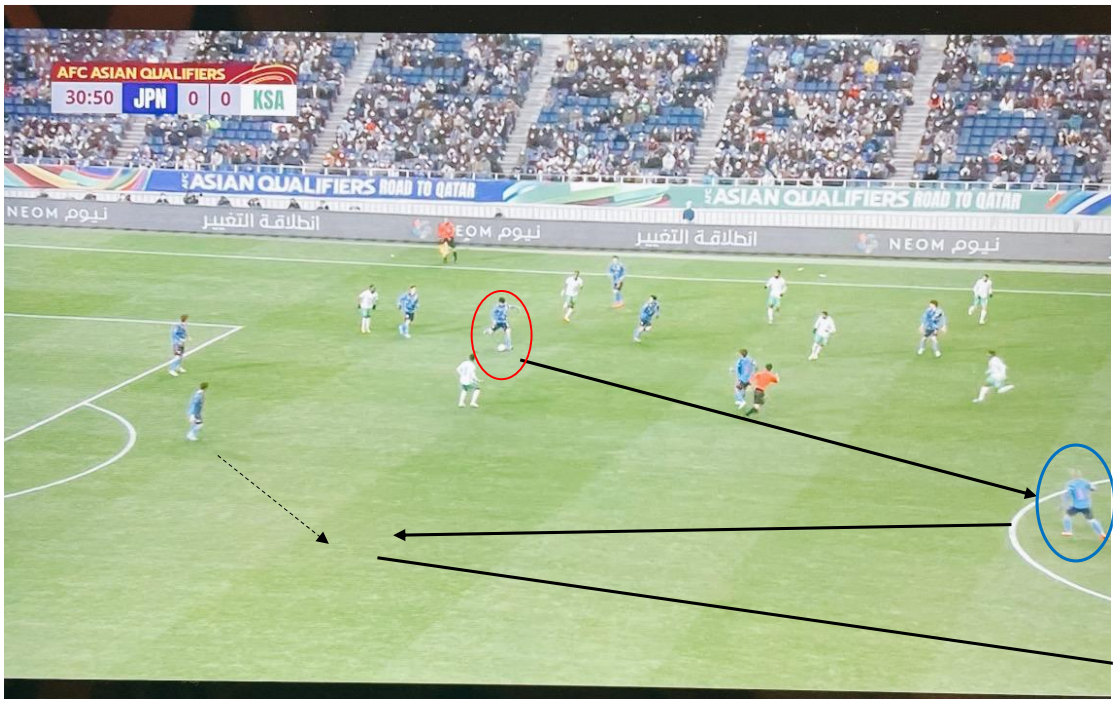

図 29　起点となったボランチ遠藤選手が伊東選手に縦パスを入れる瞬間（出典：DAZN）

3） 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「遠藤→伊東→酒井→伊東→南野→ゴール」であり、起点数は 3 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　ゴール裏から広い画角の伊東選手がドリブル突破する場面の映像

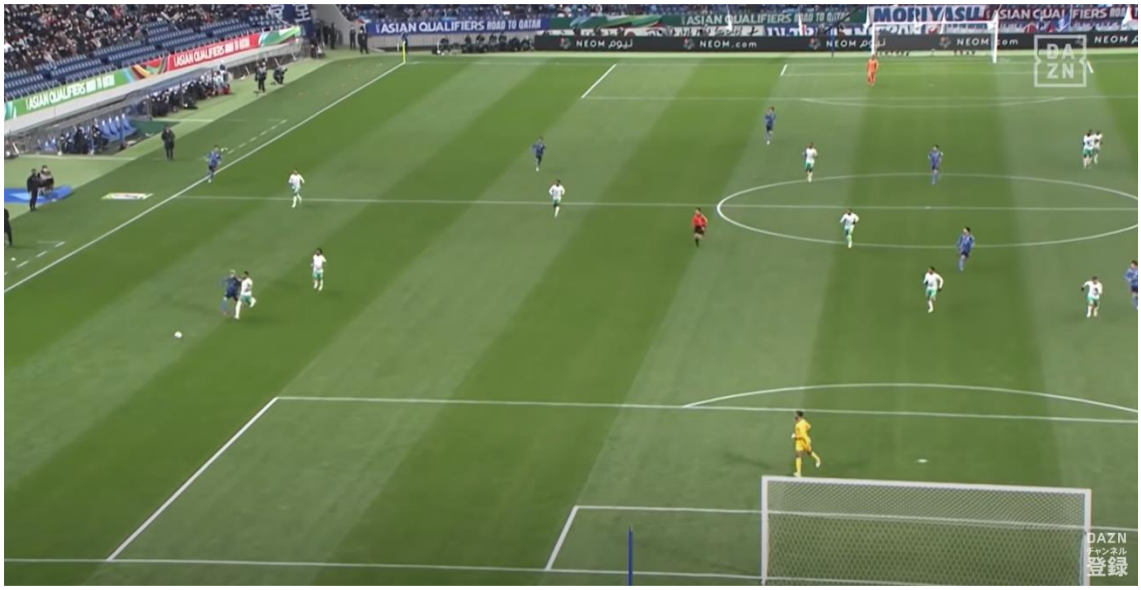

図 30　第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

②　伊東選手が相手 DF を競り合う場面をサイドライン側からアップで映し、南野選手の得点までを映した。

図 31　第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：DAZN）

③　南野選手がボールを受けた瞬間の背後からアップの映像

④　南野選手と伊東選手のガッツポーズの映像

5）　実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者の野村氏が「このスローインからというところですが、遠藤。伊東へ。酒井に渡す。伊東純也走っている。そのスペースへとボールが出る。が競争になりますが伊東純也。伊東から中へのボール、大迫スルー、そして南野。かわしてシュートだー、どうかなー、キター。」と述べた。解説者の岡田氏は「いやー伊東純也よく走り勝ったねー。」と言及し、佐藤氏も「いや、そうですね。ほんといい形で酒井から縦パス出ましたけど、このカバー入られたところで競り負けるかなと思いましたけど、前に出てしっかりクロス上げましたし、あとはこの南野、落ち着いてましたね。」と言及がされていた。

6）　実況者・解説者の言及(テレビ朝日)

実況者が「実況吉野：遠藤から伊東純也、落として酒井。伊東が走る。その伊東を使う。長い距離を走っています。」と言及し、「（解説中田浩二）落ち着いてましたね。ディフェンダーが飛び込んできたのをうまくかわしましたね。」「（実況吉野）キーパーに当たっていましたが、松木さん気持ちで押し込んだゴール。」「（解説松木）：もう、稲妻純也から南野と。完璧だね。」「（実況吉野）南野本人にとっても苦しんでいた、この時間の中で、内田さん、このゴールは大きいでしょうね。」「（解説内田）あの中国戦含めやっぱ彼の中では葛藤あったと思います。」と得点場面について言及がされていた。

7）　まとめ

DAZN でもテレビ朝日も実況者が試合の流れの中で起点となった場面について述べたが、得点を振り返る際には、いずれも解説者は伊東選手が相手に競り勝った場面について言及がされており、起点への言及はなかった。リプレイ映像も伊東選手が競り勝った場面からであった。得点の起点がアシストの 3 つ前であり、得点場面から遡る必要がある得点場面であったが、伊藤選手が競り勝った場面が注目された得点であった。

表 16　第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点場面に対する実況者・解説者の言及内容（DAZN）

実況野村「このスローインからというところですが、遠藤。伊東へ。酒井に渡す。伊東純也走っている。そのスペースへとボールが出る。が競争になりますが伊東純也。伊東から中へのボール、大迫スルー、そして南野。かわしてシュートだー、どうかなー、キター。」 解説佐藤「よし」 実況野村「ゴールイン、日本先制。」 解説佐藤「いやー素晴らしい形でしたね。」 実況野村「チャンスをものにしました、日本です。」

解説岡田「いやー伊東純也よく走り勝ったねー。」
解説佐藤「いや、そうですね。ほんといい形で酒井から縦パス出ましたけど、このカバー入られたところで競り負けるかなと思いましたけど、前に出てしっかりクロス上げましたし、あとはこの南野、落ち着いてましたね。」
解説岡田「南野本領発揮だね。ようやくだー。」
実況野村「はい。」
解説岡田「ほんとに。」
解説佐藤「まあ、やはりこう、中央の位置でこういった形でボールを受けると、やはり彼の強みが出ますよね。まあ、もちろんその前に大迫が入って、おとりになりましたから。」
解説岡田「かなり日本の攻撃の流れが良くなってきていましたよね。そこでのこの得点ってのは、ものすごく大きいですよ。」
実況野村「ああー」
解説岡田「あれで点が入らないと、また流れが戻ってしまうとこだったんだけど、、、」
解説佐藤「まあ、よく酒井も選択しましたね。」
実況野村「南野の得点。最終予選では得点がなかった南野。この大一番で先制点です。」

表 17　第 8 節サウジアラビア戦の試合中のスローVTR における実況者・解説者の言及内容(DAZN)

実況野村「改めて先程の得点シーンです。」
解説佐藤「まあ、伊東がよく競り勝ちましたし、南野も落ち着いてましたよね。」
解説岡田「やっぱり、あのゴール前いくと、冷静さがでるよねー。」
解説佐藤「そうですねー」
解説岡田「サイドというより中で活躍するんだねーやっぱり。」

表 18　第 8 節サウジアラビア戦のハーフタイム解説における実況者・解説者の言及内容(DAZN)

矢部「酒井選手からこれは誰も勝てないです、勝っちゃうんですよ。」
解説中村「まだ 5 番の選手がイエローカードをもらってたというのも大きいです。」
矢部「その伏線がまたねー。」
解説中村「よく切り返しましたよね、南野ねー。」
矢部「やりました。」
解説中村「これも当たってるんですけどね。キーパーナイスなんですけども、もう気持ちですね。」
矢部「気持ちで入るの、いやーやっぱり伊東選手のあのスピードとあの南野選手の落ち着

き。」
解説中村「よかったですねー。」
矢部「1 回切り返せてたのは大きいですね。」
解説中村「大きいです。」

表 19 第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点場面に対する実況者・解説者の言及内容（テレビ朝日）

実況吉野：遠藤から伊東純也、落として酒井。伊東が走る。
その伊東を使う。長い距離を走っています。
解説松木：おおーいけるね。
解説内田：そこだ。

実況吉野：フリーだ。かわした、南野。入ったー。
日本の 10 番がこの大一番で見事に決めてくれた。
伊東のスピード、そして南野の決定力。
日本がサウジアラビア相手に 1 点を先制しました。

解説松木：見事だね。
実況吉野：内田さん、見事な攻撃でした。
解説内田：最初ね、伊東純也選手、このボールきついかなと思ったんですけど、
このカバーに負けずに。
実況吉野：そしてここで大迫がスルーして、中田浩二さん、最後、南野落ち着いてましたね。
解説中田浩二：落ち着いてましたね。
ディフェンダーが飛び込んできたのをうまくかわしましたね。
実況吉野：キーパーに当たっていましたが、松木さん気持ちで押し込んだゴール。
解説松木：もう、稲妻純也から南野と。完璧だね。
実況吉野：南野本人にとっても苦しんでいた、この時間の中で、内田さん、このゴールは大きいでしょうね。
解説内田：あの中国戦含めやっぱ彼の中では葛藤あったと思います。

第９項 第８節サウジアラビア戦伊東選手の得点(9 点目)

1） 得点場面の概要

日本が相手陣地の右サイドでボールを奪われた直後にボランチ守田選手が守備を開始し、守田選手に続く形でエリア付近にいた伊東選手もプレッシャーをかける。相手選手はドリブルで伊東選手のプレッシャーを回避するが、伊東選手のプレッシャーが自陣に引かずに相手陣地中央付近で待ち構えていたボランチ遠藤選手、田中選手のところ誘導される形となり遠藤選手が相手ボールを奪取。遠藤選手が奪ったボールを相手エリア中央付近にいた南野選手へ繋ぎ、さらに南野選手から左サイドを上がってきた長友選手に繋いだ。長友選手が縦に仕掛けずにクロスを上げ、守備から攻撃に切替えていた伊東選手がボールを受け豪快なミドルシュートをゴール左へ蹴り込んで得点。

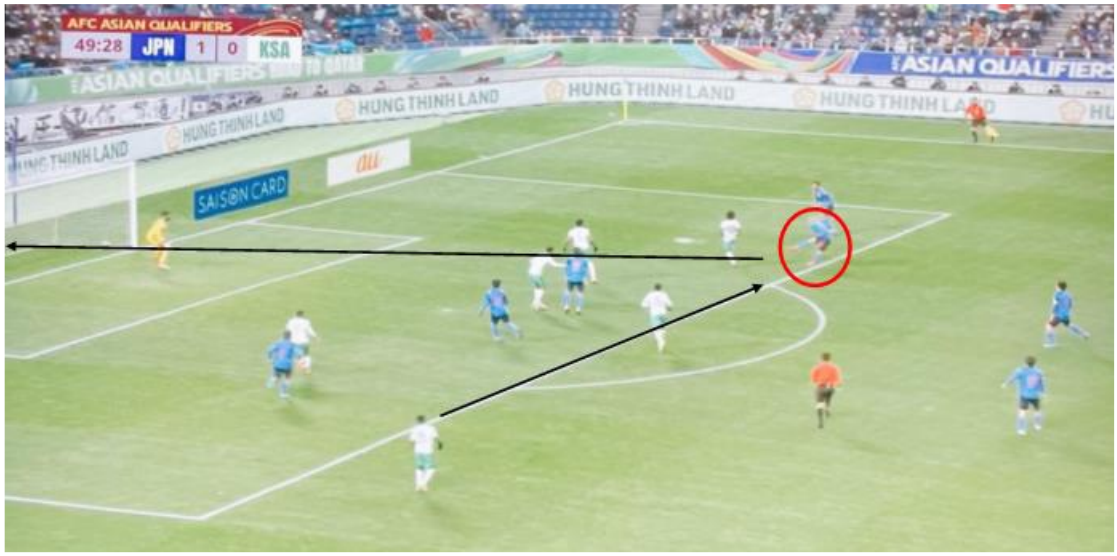

図 32　第８節サウジアラビア戦の伊東選手の得点（出典：DAZN）

2） 得点の起点

相手にボールを奪われてからすぐにボランチ守田選手が守備に入り伊東選手も反応、遠藤選手も引かずに高い位置でボールを奪った組織的守備が起点となり、伊東選手が守備からすぐにシュートが打てる位置に切替えができていたことが得点の要因となった。

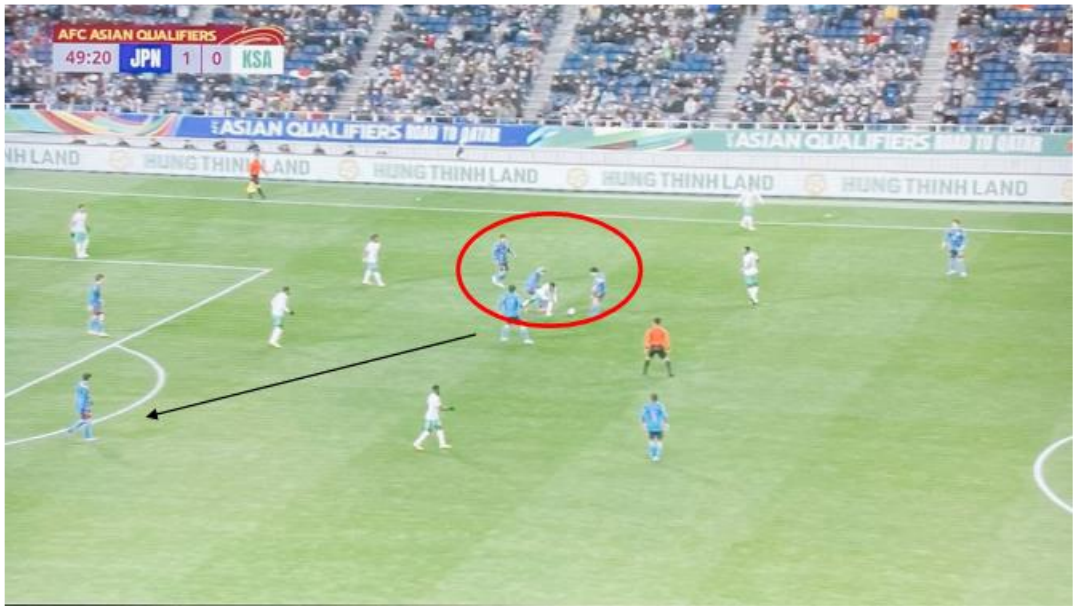

図 33　第8節サウジアラビア戦の得点の起点となった組織的な守備の場面(出典:DAZN)

3） 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「守田=伊東=遠藤→南野→長友→伊東→ゴール」であり、起点数は 4 であった。

4） リプレイ映像の内容

① ゴール裏のアップの画角の長友選手から伊東選手にボールが渡る場面の映像

図 34 第 8 節サウジアラビア戦の南野選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

② 伊東選手がシュート打つ直前の場面を背後の画角からアップの映像
③ 伊東選手がシュート打つ直前の場面をゴール裏の①とは別の画角からアップの映像
④ 伊東選手のガッツポーズの映像

5） 実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者の野村氏が「すぐにプレスバック。そして伊東もいく。更には遠藤で、ボールを奪った。遠藤から南野。左は長友上がってきている。長友から中へ、伊東。シュートはー、見事なゴール。突き刺さりました。伊東純也 4 戦連発。」と起点となった組織的な守備について「プレスバック」というサッカー専門用語を用いて言及がされていた。解説者の佐藤寿人氏は「もうこれは崩しとかではなくて、ほんと個人の能力ですよね。」と言及し、「サウジアラビアが攻撃に仕掛けたことの守備の強度ですからね。まあ、それが最終的に伊東のもとにボールがこぼれて。まあ、長友のクロスかどうかわからないですけど、いい形でボールが繋がりましたよね。」と起点となった組織的な守備について言及がされていた。ハーフタイムの解説においても「この時間帯守備の強度非常に良かったですよね。」と再度守備につい

て言及がされていた。

6） 実況者・解説者の言及(テレビ朝日)

実況者の吉野氏が「日本のディフェンスです。取ればチャンス取った。チャンスになる。」と起点となった守備について言及しているが、選手の名前を挙げて具体的に言及はしていなかった。また「そして中田浩二さん。長友がその前、よく頑張りましたよね。」と長友選手にプレーについて言及し、「（解説中田浩二）いや、よく頑張りましたね。あそこ諦めるところなんですけどもね、しっかりと蹴りましたしね。また伊東純也のシュート、すごい綺麗でしたね。」「（解説松木）ワールドクラスだ。ワールドクラスで、超ワールドクラスだ。」と伊東選手の得点について言及がされていた。

7） まとめ

DAZN では伊東選手の得点についての言及に加えて、得点の起点となった組織的な守備に関する言及があった。一方で、テレビ朝日では実況者も解説者も組織的な守備についての言及はなく、伊東選手の得点について言及を行っていた。リプレイ映像も伊東選手のシュートを映すのみであった。得点の起点は、アシストから 4 つ前のプレーであり、起点の場面を遡る必要があったが DAZN の場合はリプレイ映像がない中で言及がされており、一方地上波ではリプレイ映像に基づいて得点場面について言及をしており、DAZN とテレビ朝日で言及内容に差が見られた。

表 20　第 8 節サウジアラビア戦の伊東選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(DAZN)

実況野村「すぐにプレスバック。そして伊東もいく。更には遠藤で、ボールを奪った。遠藤から南野。左は長友上がってきている。長友から中へ、伊東。シュートはー、見事なゴール。突き刺さりました。伊東純也 4 戦連発。」 解説佐藤「ゴラッソですねー。」 実況野村「そしてスタッフ控えの選手皆が集まります。日本 2 点目。」 解説佐藤「もうこれは崩しとかではなくて、ほんと個人の能力ですよね。」 解説岡田「いやでも、そこまで立ち上がりキックオフからずっと良かったですからね。いや、今日はいい時に点が入るね。」 解説佐藤「そうですね。まあ、サウジアラビアが攻撃に仕掛けたことの守備の強度ですからね。まあ、それが最終的に伊東のもとにボールがこぼれて。まあ、長友のクロスかどうかわからないですけど、いい形でボールが繋がりましたよね。いやー、あとはこのシュートテクニックが素晴らしいですね。4 試合連続ゴールですか？」 実況野村「はい。まあ前回大会は原口選手が最終予選 4 戦連発、元気さんに続きたいという話をしていましたけれども。伊東純也やってのけました。4 戦連発です。」

表 21　第 8 節サウジアラビア戦のハイライトにおける伊東選手の得点に対する実況者・解説者の言及（DAZN）

実況野村「さらに５０分ですが、ここでマイボールになって、長友―」 解説岡田「ちょっと乱れたんですけどねーこのシュート。」 解説佐藤「すごいですよね」 解説岡田「このちょっと前からいい形で繋いでいたんですよね、ボールを。」 実況野村「見事なゴールでした、伊東純也。」 解説佐藤「この時間帯守備の強度非常に良かったですよね。」 実況野村「自身これで 4 試合連続ゴールになりました。」 解説岡田「これは取れないなー。」 解説佐藤「そうですね。」 実況野村「追加点が入って２対０」

表 22　第 8 節サウジアラビア戦の伊東選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(テレビ朝日)

実況吉野：グラウンダーのボール。中には大迫、そして南野が待っていました。 日本のディフェンスです。 取ればチャンス取った。チャンスになる。 解説松木：これだ。 実況吉野：長友粘って伊東。シュート。決まったー。 立ち上がり伊東純也にゴールが生れました。 解説松木：稲妻くんすごいね。 実況吉野：稲妻の如く、今度はシュートで突き刺した。 最終予選 4 試合連続ゴール。 頼れる男伊東純也が日本に追加点をもたらしました。 内田さん、後半の 5 分という時間帯でした。 解説内田：素晴らしいですね。 立ち上がりだったんで打っていいと思いましたけども。素晴らしいですね、これは。 実況吉野：そして中田浩二さん。 長友がその前、よく頑張りましたよね。 解説中田浩二：いや、よく頑張りましたね。 あそこ諦めるところなんですけどもね、しっかりと蹴りましたしね。 また伊東純也のシュート、すごい綺麗でしたね。 解説松木：ワールドクラスだ。ワールドクラスで、超ワールドクラスだ。 中田浩二：ちょうどゴール裏から綺麗に見えましたね。

解説松木：糸引いてんだよ。
実況吉野：松木さん、本当にこれ大事な 2 点目が入りましたね。
解説松木：見事ですよね。
もうほんとにクロスボールも素晴らしいボールを蹴りますけども、見事なシュート。

第１０項　　第 9 節豪州戦三笘選手の得点(10 点目)

1)　得点場面の概要

右 SB の山根選手が相手エリア外のタッチライン沿いでボールを保持。山根選手がエリア内中央にいるボランチ守田選手にパス。ボールを受けた守田選手は相手 CB を背にしてキープ。守田選手を挟み込もうと相手のボランチが守田選手に寄せに行く。守田選手がキープをしている間に相手 CB の背後にできたスペースに山根選手が走り込み、守田選手が山根選手にパス。守田選手が相手ボランチを引き付けてできたスペースに三笘選手が走り込み山根選手の折り返しを三笘選手が合わせて得点。

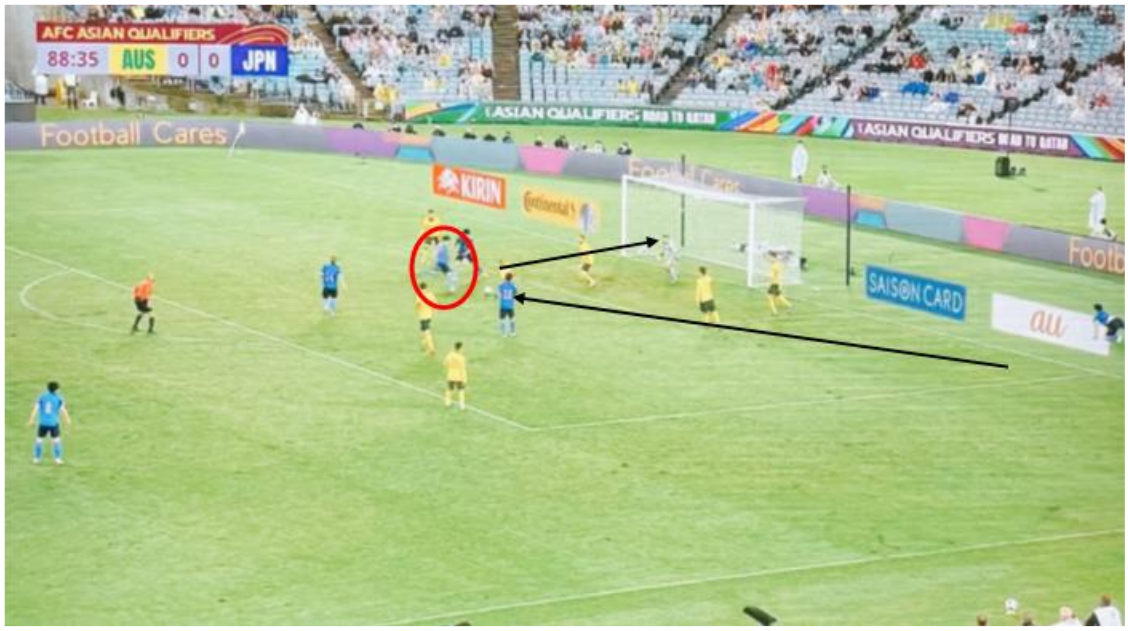

図 35　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点（1 点目）（出典：DAZN）

1)　得点の起点

ペナルティーエリア内にいた守田選手が山根選手の方に向かってボールを受けに動き山根選手から受けたボールをキープし相手 DF とボランチ 2 人引き付けスペースを作り、さらに山根選手が走る込む時間を作ったことが起点となり、得点に至った。

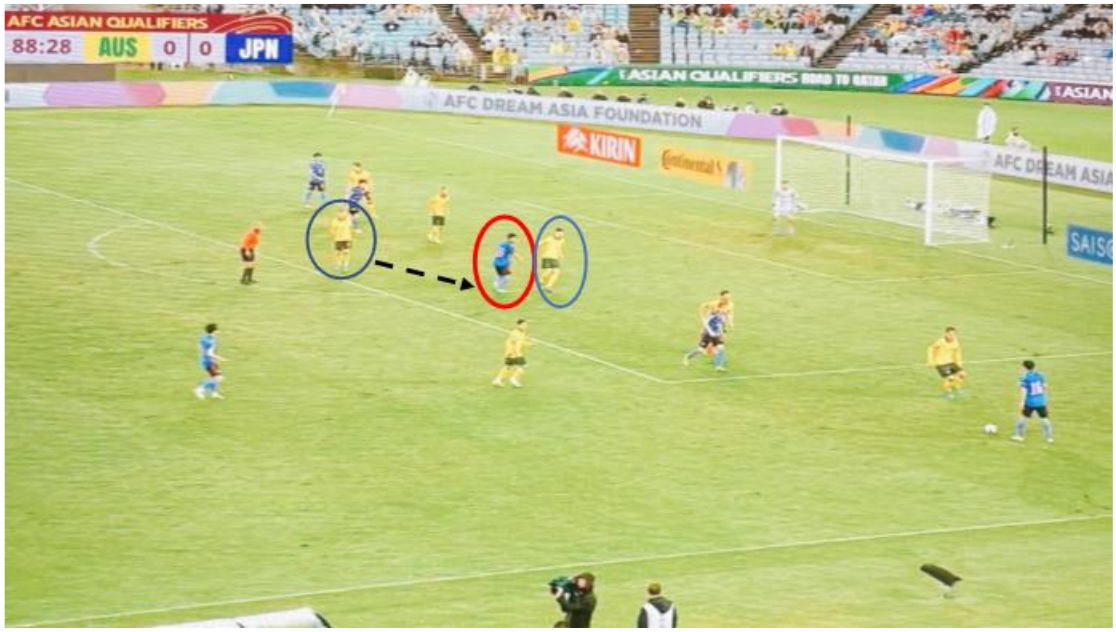

図 36　第 9 節豪州戦の得点の起点となった守田選手の動き出しの瞬間（出典：DAZN）

2)　起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「守田⇨山根→守田→山根→三笘→ゴール」であり、起点数は 3 であった。

3)　リプレイ映像の内容

①　サイドライン側から広い画角の山根選手がパスを受ける場面の映像

図 37　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

②　ボールを受けた守田選手場面のアップの映像

図 38　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：DAZN）

③　②と同様の場面が背後からアップで映した。

図 39　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：DAZN）

4）　実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者の西岡氏が「右、山根は高い位置をとっています。中で守田、上田。原口。間で受ける、半身で守田。山根戻す。ルーズだ。シュートだ。ゴール。」と言及し、「まず、ボックス内半身で憲剛さん、守田が受けて、そこから崩していきましたね。」と起点について言及した上で、解説者の中村氏に話を振り、中村は「まあ山根ですかね。幅を高い位置で取ったところから、ここですねー。ここで受けて、下げるのかなーと思った瞬間に守田と、まあイメージあったんでしょうね。で、ちょっと長いかなーと思ったんですが頑張って。」と山根選手と守田選手のプレーについてリプレイ映像を見ながら言及がされていた。

5）　まとめ

実況者の西岡氏が起点となった守田選手、山根選手のプレーについて言及し、解説者の中村憲剛氏に話を振っていたことに加え、広い画角で起点となった守田選手の動きが分かるリプレイ映像もあった状態で中村氏が起点についての言及がされていた。得点の起点がアシストの 3 つ前であり、得点場面から遡る必要がある得点場面であったが、実況者が起点となったプレーについて言及し、解説者に話を振っていたこと、リプレイ映像の起点となったプレーから広い画角の映像があったことで得点の起点について言及ができていた。

表 23　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点に対する実況者・解説者の言及（DAZN）

実況西岡「右、山根は高い位置をとっています。中で守田、上田。原口。間で受ける、半身で守田。山根戻す。ルーズだ。シュートだ。ゴール。」 解説中村「キター。」 実況西岡「三笘です。先制日本。」 解説岡田「三笘―。」

実況西岡「つなぎながら最後は見事崩してみせました。」
解説中村「これは大きいですね。」
実況西岡「まず、ボックス内半身で憲剛さん、守田が受けて、そこから崩していきましたね。」
解説中村「まあ山根ですかね。幅を高い位置で取ったところから、ここですねー。ここで受けて、下げるのかなーと思った瞬間に守田と、まあイメージあったんでしょうね。で、ちょっと長いかなーと思ったんですが頑張って。」
解説岡田「よく戻したねー」
解説中村「よく戻しましたねー。で、三笘も諦めずにというか、足を止めずに、マイナスなところに反応しましたからね。これは監督采配ズバリ。的中ですね。」
解説岡田「はい」
実況西岡「はい、全てフロンターレホットライン。よく最後三笘振りました。」
解説岡田「あーここ」
実況西岡「最後のクロス前のパス、守田から山根の所の VAR チェックが入ってます。」
解説中村「ないですねー」
解説岡田「これはないですね。」
解説中村「ないんじゃないですか」
解説岡田「こりゃーない」
解説中村「だけどこれ、よく三笘マイナスを反応しましたね。」
実況西岡「0 対 1 先制しました。」

第１１項　　第 9 節豪州戦三笘選手の得点(11 点目)

1)　得点場面の概要

アディショナルタイムの時間に守田選手が相手陣地の右サイドから中央までドリブルで運び左サイドの三笘選手にパス。三笘から左 SB の中山選手にバックパスをし、パスを出した三笘選手はタッチライン沿いにポジションを取る。パスを受けた中山選手は中央寄りに位置する原口選手にパスをし、中山選手は中央に向かって走り抜ける。中山選手が中央に走り抜けたことで相手ボランチが引き付けられ、左サイドの三笘選手がフリーになる。原口選手からフリーの三笘選手にパスが渡り、三笘選手がドリブル突破から得点。

図 40　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点（2 点目）（出典：DAZN）

2)　得点の起点

アディショナルタイムの守田選手が右サイドから中央にドリブルで運んだことで、時間を使い且つ陣形を整えながら攻撃に映ることが起点となった。

図 41　第 9 節豪州戦の得点の起点となった守田選手のドリブルの瞬間（出典：You Tube）

3）　起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「守田→三笘→中山→原口→三笘→ゴール」であり起点数は 3 であった。

4）　リプレイ映像の内容

①　逆サイドラインから画角の広い三笘選手がドリブル突破する場面の映像

図 42　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：DAZN）

② ①と同様の場面のゴール裏のアップの画角からの映像

図 43　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：DAZN）

③ ①②と同様の場面の背後の画角からの映像

図 44　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：DAZN）

5）　実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者の西岡氏が「森保監督の声が響いてます。ためて守田スタミナがあります。ああー追い越しません中山。」と言及し、解説者の中村も「いやーこれはジョーカーですねー、ほんとに。そこにいたるまでの守田の運びが非常によかったですねー。」と言及がされていた。

6） まとめ

リプレイ映像は三笘選手の得点場面であったが、実況者も解説者も守田選手の起点となったプレーについて言及をしていた。得点の起点がアシストの 3 つ前であり、得点場面から遡る必要がある得点場面であったが、実況者と解説者のやり取りを通じて得点場面から遡って言及をすることができていた。

表 24　第 9 節豪州戦の三笘選手の得点に対する実況者・解説者の言及(DAZN)

実況西岡「森保監督の声が響いてます。ためて守田スタミナがあります。ああー追い越しません中山。」 解説中村「ああーはい。」 実況西岡「原口、したたかに時間をすすめます。三笘、いくカットイン。」 解説中村「おおー」 実況西岡「自分で運んでシュートだー。」 解説 2 人「おおー」 解説中村「すごい。」 実況西岡「ワールドカップ行きを確信しました、森保監督。」 解説岡田「この時間でここまで仕事するってたいしたもんだねー、三笘。」 解説中村「すごいですねー。まあ、J リーグ一緒にやってる時からこのシーンは何回も見てきましたけど、この大舞台でこれ決めるかーという感じですねー。落ち着いてましたね。」 実況西岡「ええー、この止まった状態からの初速の速い。」 解説中村「ここもう一個、2 つ目、2 速はいるんですね。」 実況西岡「はい」 解説中村「いやーこれはジョーカーですねー、ほんとに。そこにいたるまでの守田の運びが非常によかったですねー。あっ、決まりましたねー。」 実況西岡「終わりました。0 対 2、三笘の 2 得点、ワールドカップ行きが決定しました。」

第１２項　　第 10 節ベトナム戦吉田選手の得点(12 点目)

1)　得点場面の概要

自陣センターサークル付近で相手 FW への縦パスをカットした吉田選手が、そのまま相手陣地に向かってドリブル。吉田選手のドリブルに対して相手 DF ラインが自陣のエリア付近まで下がる。吉田選手から左サイドにいた久保選手へパスし、吉田選手はそのまま相手のエリア内に走り込む。左サイドの久保選手が縦にドリブルを仕掛けようとすることで DF ラインが更にゴール前まで下がり、エリア外の中央付近にスペースが生まれた。その空いたスペースにボランチの原口選手が後ろから走り込んだところに、久保選手がパスをして原口選手がシュート。相手 GK が弾いたところを詰めていた吉田選手が得点した。

図 45　第 10 節ベトナム戦の吉田選手の得点（出典：DAZN）

2)　得点の起点

吉田選手がパスカットをしてそのままドリブルで前線まで上がったことで相手 DF ラインが下がったことが起点となり、原口選手がシュートを打てるスペースが空き、こぼれ球を吉田選手自身が合わせることができた。

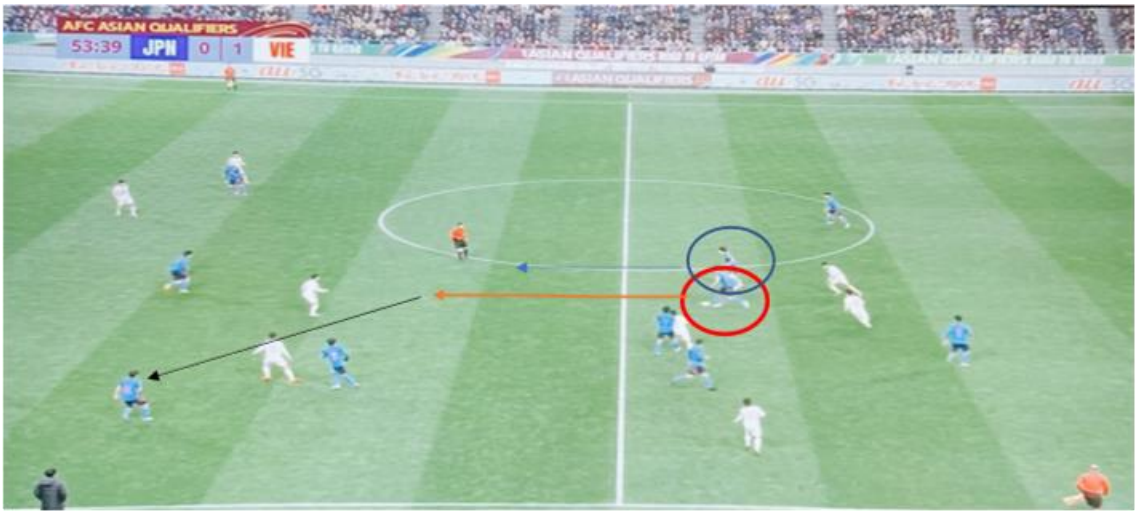

図 46　第 10 節ベトナム戦の得点の起点となった吉田選手ドリブルの場面（出典：DAZN）

3) 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「吉田→久保→原口→相手 GK→吉田→ゴール」であり、起点数は 3 であった。

4) リプレイ映像の内容

① ゴール裏からアップの画角の久保選手がクロスを上げる場面の映像

図 47 第 10 節ベトナム戦の吉田選手の得点のリプレイ映像(1 つめの映像)(出典:DAZN)

② 原口選手がシュートを打つ場面をサイドライン側の画角からアップで映し、吉田選手の得点までの映像

図 48 第 10 節ベトナム戦の吉田選手の得点のリプレイ映像(2 つめの映像)(出典:DAZN)

③　相手ゴールキーパーが弾いた瞬間からアップの映像
④　吉田選手と森保監督のアップの映像

5)　実況者・解説者の言及(DAZN)

実況者の下田氏は「キャプテンきた。今度は久保がここです。三笘がどうする。外を回った。久保がいいとこ入れてきました。原口、原口打ってきたー。こぼれ球―。キャプテンがいた。キャプテンがいた。日本同点、吉田麻也。難産でしたがようやくベトナムゴールをこじ開けました。日本同点、吉田で１対１です。」と言及し、解説者の佐藤氏も「この同点ゴールの起点も吉田のパスカットから始まっていますから、まあそれを最終的に自分が仕上げるってところになりますよね。」と言及がされていた。

6)　実況者・解説者の言及(テレビ朝日)

実況者の吉野氏は「実況：吉田。相手の縦パスをカットして久保を使っていきます。そのまま吉田は前線に上がってきている。原口。シュートを打ってきた。こぼれた。吉田麻也―。」と言及し、解説者の松木氏は「いや、今ね、自らね、インターセットして、サイドにボールを散らして、そっから中へ入ってきましたからね。もうストライカー以上のね、鋭い動きでしたよ。」と言及がされていた。

7)　まとめ

リプレイ映像には吉田選手の起点となる場面は映っていなかったが、DAZN もテレビ朝日も実況者、解説者が吉田選手の起点となったプレーについて言及をしていた。得点の起点がアシストの 3 つ前であり、得点場面から遡る必要がある得点場面であったが、起点となった吉田選手が得点したこともあり実況者と解説者のやり取りを通じて得点場面から遡って言及をすることができていた。

表 25　第 10 節ベトナム戦の吉田選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(DAZN)

実況下田「キャプテンきた。今度は久保がここです。三笘がどうする。外を回った。久保がいいとこ入れてきました。原口、原口打ってきたー。こぼれ球―。キャプテンがいた。キャプテンがいた。日本同点、吉田麻也。難産でしたがようやくベトナムゴールをこじ開けました。日本同点、吉田で１対１です。」 解説戸田「確かに難産でしたね。」 解説佐藤「そうですね。崩したというよりかは、こじ開けたということになりますよね。」 実況下田「これですね」 解説戸田「ストライカー以上にストライカーらしいと言うか、、、」 実況下田「ほんとですねー」 解説佐藤「そうですね、得点を求めてましたよね。」 解説戸田「こぼれろ、こぼれろと信じて走っていましたよね。」 実況下田「はい」 解説佐藤「この同点ゴールの起点も吉田のパスカットから始まっていますから、まあそ

れを最終的に自分が仕上げるってところになりますよね。」
実況下田「あとは久保がマイナスに原口につけたパスもいい球が1本通りました。」

表 26　第10節ベトナム戦のハイライトにおける実況者・解説者の言及内容（DAZN）

実況下田「久保が左に流れて平行に入れて、原口のシュートのこぼれ、これを佐藤さん吉田が奪ったあと出てってとったと。」
解説佐藤「そうですね。相手からのパスカットをして、そのまま前方にパスをして自分が前にポジションを取りましたし、まあこういったところセカンドボールへの反応は、ストライカー並みでしたね。

表 27　第10節ベトナム戦の吉田選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(テレビ朝日)

実況吉野：吉田。相手の縦パスをカットして久保を使っていきます。
そのまま吉田は前線に上がってきている。原口。シュートを打ってきた。
こぼれた。吉田麻也―。
解説松木：やっしゃー

実況吉野：頼れるキャプテンが、ここで同点ゴール。ここぞの場面でキャプテンが決めました。
解説松木：いや、今ね、自らね、インターセットして、サイドにボールを散らして、そっから中へ入ってきましたからね。もうストライカー以上のね、鋭い動きでしたよ。

実況吉野：2年5カ月ぶり。
キャプテンの吉田にゴールがうまれました。
いや、内田さん、この吉田のゴール、改めてご覧になってどうでしょう。

解説内田：よくつめたと思いますし、久保選手が引きつけた後、
ちょっとマイナス目でね、原口選手、いいところでもらえたので、
形としては良かったと思います。

第１３項　　カタールＷ杯アジア最終予選全 12 得点のまとめ

全 12 得点のうち起点数 1 未満が 6 得点あったが、得点場面の一連の解説の中で起点について言及されており、必ずしも起点を遡る必要はない得点であった。起点数 3 以上の 6 得点には起点を遡らないと言及ができない得点であり、DAZN では 6 得点のうちリプレイ映像に起点があったのは 1 得点のみで実況者・解説者の言及があり、リプレイ映像がない 5 得点のうち 4 得点に起点の言及があった。地上波では放送があった 4 得点のうち 1 得点に起点の言及があった。

第 9 節豪州戦の三笘選手の得点場面は、得点に起点のプレーのリプレイ映像もあり実況者・解説者も起点の言及が行われ全ての要素が揃っていた得点場面であった。一方でリプレイ映像がない場面であっても実況者と解説者とのやり取りの中で得点の起点の言及がされていた。地上波の場合、リプレイ映像に基づいて得点場面について言及をしていた。

表 28　カタールＷ杯アジア最終予選全 12 得点の起点

試合結果	起点から得点までのプレー内容	起点数	映像	地上波		DAZN	
				実況	解説	実況	解説
2節中国戦(A) 1-0◯	伊東(FW)→大迫→G	0	◯	＼	＼	◯	◯
4節豪州(H) 2-1◯	南野(FW)→田中→G	0	◯	◯	◯	◯	◯
	吉田(DF)→浅野→相手→G	1	◯	−	−	◯	−
5節ベトナム(A) 1-0◯	大迫(FW)→南野→伊東→G	1	◯	＼	＼	◯	◯
6節オマーン(A) 1-0◯	中山(DF)→三笘→伊東→G	1	◯	＼	＼	◯	◯
7節中国(H) 2-0◯	守田(MF)→遠藤→酒井→伊東→ハンド→大迫(PK)→G	4	−	−	−	◯	◯
	中山(DF)→伊東→G	0	◯	◯	◯	◯	◯
8節サウジ(H) 2-0◯	遠藤(MF)→伊東→酒井→伊東→南野→G	3	−	◯	−	◯	−
	守田(MF)=伊東=遠藤→南野→長友→伊東→G	4	−	−	−	◯	◯
9節豪州(A) 2-0◯	守田(MF)⇨山根→守田→山根→三笘→G	3	◯	＼	＼	◯	◯
	守田(MF)→三笘→中山→原口→三笘→G	3	−	＼	＼	◯	◯
10節ベトナム(H) 1-1▲	吉田(DF)→久保→原口→相手GK→吉田→G	3	−	◯	◯	◯	◯

(A):アウェイ戦　(H)ホーム戦　→:パス　=:守備　⇨:フリーランニング　G:ゴール　＼:中継なし

第２節　　カタールＷ杯本大会全５得点の起点

第１項 ドイツ戦堂安選手の得点(1 点目)

1)　得点場面の概要

左サイドから三笘選手がドリブルで持ち込み相手を引きつけて、南野選手にパス。パスを受けた南野選手はシュートを打ち、相手 GK がはじいたところを堂安選手が押し込んで得点。

2)　得点の起点

三笘選手の相手を引きつけたドリブルが得点の起点となった。

3)　起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「三笘→南野→相手 GK→堂安→ゴール」であり起点数は 2 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　広い画角から三笘選手がボールを受ける場面からの映像

図 49　ドイツ戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（１つめの映像）（出典：ABEMA）

② 別の角度から広い画角で三笘選手がボールを受ける場面からの映像

図 50　ドイツ戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（2つめの映像）（出典：ABEMA）

③ アップの画角でゴール裏から相手 GK がボールを弾く場面からの映像。

図 51　ドイツ戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（3つめの映像）（出典：ABEMA）

④ 堂安選手のガッツポーズのアップ

⑤ ベンチの選手が堂安選手に駆け寄るアップのシーン

⑥ 観客席でファンが喜ぶシーン

5） 実況者・解説者の言及(ABEMA)

実況者の寺川氏が「左サイドに三笘が開いています」「得意のし掛け、ドリブルもあるのか、中に中にいく南野」と起点となった三笘選手について言及し、解説本田選手が「いいっすね。これとにかく後半まだ向こうが修正できない間にシンプルに左を使うということを

徹底するですね。三笘さんが持った時にサポート行かなくても良い。今みたいな感じで仕掛けさせる。それで最後の最後で動けば良いです。このシーン良いシーンです。みんなサポート行ってないです。最後に中入った時に動き出した。」とリプレイ映像を見ながら言及がされていた。

6) 実況者・解説者の言及(NHK)

実況者の曽根氏が「さあ三笘です。ドリブル得意、中に入ってスルーパス。南野」と起点となった三笘選手について言及し、解説者の福西氏が「ペナルティーエリアに入って南野がしっかりと枠に入れる。そして浅野もつめてましたし、その後に堂安が来てるというところ、点を取りにいったというところですよね。」と言及がされていた。

7) まとめ

ABEMA の場合は、起点となった三笘選手のプレーについて言及していたが、NHK では得点の要因について言及をしており、ABEMA と地上波で差異があった。リプレイ映像は、最初の映像と 2 つめの映像が得点の起点となった三笘選手のドリブルの場面から映し出されていた。得点の起点がアシストの 1 つ前のプレーでもあり、且つゴール前の展開でもあったことから、起点という視点は必ずしも必要はなく、得点場面について言及すべき得点であった。

表 29　ドイツ戦堂安選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(ABEMA)

実況寺川：左サイドに三笘が開いています
解説本田：よし三笘さんに預けろ。仕掛けろ仕掛けろ。サポートいかんでええ。
実況寺川：得意のし掛け、ドリブルもあるのか、中に中にいく南野
解説本田：イェス中入れろ
実況寺川：堂安が決めたー
解説本田：きましたねー
実況寺川：日本同点に追いつきました
解説本田：これまだあるぞ
実況寺川：ドイツを相手に我慢して我慢して日本は同点に追いつきました
解説本田：いいっすね。これとにかく後半まだ向こうが修正できない間にシンプルに左を使うということを徹底するですね。三笘さんが持った時にサポート行かなくても良い。今みたいな感じで仕掛けさせる。それで最後の最後で動けば良いです。このシーン良いシーンです。みんなサポート行ってないです。最後に中入った時に動き出した。
実況寺川：左サイドで三笘が崩して最後は堂安が決めました
解説本田：素晴らしい
実況寺川：あの本田さん
解説本田：はい

実況寺川：試合前堂安話していました。「俺しかいないと思っている。点を取る準備をしっかりしたい。 解説本田：まさにもってるってやつですね 実況寺川：ええ。何かかつてたくさん本田さんかつてそういうシーンをたくさん見てきましたけど 解説本田：いやぁ決めるんすよね。決めるやつが 実況寺川：ここにボールがこぼれてきました 解説本田：素晴らしい。今何分ですか？ 実況寺川：今後半の 31 分です。この後の戦い方、本田さんどう考えれば良いですか？ 解説本田：追加点を狙いにいくのか。 実況寺川：逆転を狙いにいくのかそれとも、ドイツ相手にあまり無理をしない方が良いのか 解説本田：狙いにいきますけど、あまり無理はしない

表 30　ドイツ戦堂安選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（NHK）

実況曽根；さあ三笘です。ドリブル得意、中に入ってスルーパス。南野 実況曽根：追いつきました日本。堂安律が決めました。後半 30 分、日本にきていた時間帯。交代もはまりました。見事に決めました。追いつきました日本。優勝 4 回強豪ドイツ相手にこの初戦、1 対 1 日本同点に追いついてみせました。攻撃の選手を続々投入し超攻撃的な布陣をとってのこの形。 解説福西：ペナルティーエリアに入って南野がしっかりと枠に入れる。そして浅野もつめてましたしその後に堂安が来てるというところ、点を取りにいったというところですよね。 解説井原：ここで良いところに入っていきましたよね。 実況曽根：三笘、南野そして堂安が 解説福西：ノイヤーもすごい反応だなと思いましたけど 実況曽根：はい落ち着いて利き足の左足で流し込んでいきました。やりました日本。全員が堂安のもとに向かいました。残り 15 分プラスアディショナルタイムの攻防になります。さぁ日本 1 対 1 同点においつきました。

第２項 ドイツ戦浅野選手の得点(2 点目)

1) 得点場面の概要

セットプレーから板倉選手が相手 DF の裏にロングフィードを行い、ボールを受けた浅野選手が相手にドリブルで競り勝ちそのまま得点を決めた。

2) 得点の起点

板倉選手のセットプレーが起点となった。

3) 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「板倉→浅野→ゴール」であり、起点数は 0 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　広い画角で板倉選手がセットプレーでボールを蹴る場面からの映像

図 52　ドイツ戦の浅野選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：ABEMA）

②　浅野選手がボールを受ける場面からの映像

図 53　ドイツ戦の浅野選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：ABEMA）

③　浅野選手がシュートを打つ瞬間のゴール裏からのアップの映像

図 54　ドイツ戦の浅野選手の得点のリプレイ映像（3つめの映像）（出典：ABEMA）

5）　実況者・解説者の言及(ABEMA)

実況者、解説者ともに浅野選手の得点に対して言及した。

6）　実況者・解説者の言及(NHK)

実況者、解説者ともに浅野選手の得点に対して言及した。

7）　まとめ

ABEMA も NHK も板倉選手への言及はなく、浅野選手の得点について言及をしていた。リプレイ映像は最初の映像が広い画角でキッカーの板倉選手と得点をした浅野選手が映り込んでいた。得点の起点がセットプレーであり、且つそのままアシストとなったプレーでもあり、起点という視点は必ずしも必要はなく、得点場面について言及すべき得点であった。

表 31　ドイツ戦の浅野選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(ABEMA)

実況寺川：前を向く浅野が行く。スピード
解説本田：よーし
実況寺川：日本、日本逆転
解説本田：きたー
実況寺川：ドイツ相手に、ドイツ相手に日本が逆転！大歓声のカリファインターナショナルスタジアム
解説本田：これはもう
実況寺川：代わって入った堂安、浅野で逆転日本
解説本田：これもう守るだけっすねあと。ほんまに守るだけです。
実況寺川：まさにまさにサプライズを起こす。その時がきました。
解説本田：素晴らしい拓磨

実況寺川：浅野が決めました。さぁ本田さん後の時間の過ごし方ですね 解説本田：いやぁもう足止まっているんですよね。守備陣が徐々に 実況寺川：さらにここからはドイツは目の色を変えてくるはずです。 解説本田：いやいやもう

表 32 ドイツ戦の浅野選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(NHK)

実況曽根：良いタッチで浅野がいったー。 実況曽根：日本逆転。浅野がやりました。 解説福西：今のは素晴らしいコントロールから、キーパーの上は取れないですね。 実況曽根：勝ち越しに成功日本後半 38 分。湧き上がるカリファ国際スタジアム。優勝 4 回強豪ドイツ。日本勝ち越しに成功。ジャガーポーズが出ました。獰猛に襲いかかりました浅野。勝ち点 3 が大きく近づいてきました日本の初戦。

第３項 スペイン戦堂安選手の得点(3 点目)

1) 得点場面の概要

相手自陣右サイドでのボールポゼッションに対して、前田選手、鎌田選手、三笘選手がハイプレスをかけ、相手 GK へのバックパスにも前田選手がプレスをかけ、更に相手 GK から右サイドへの展開に対しても伊東選手がプレスをかけ、伊東選手がボール奪取、堂安選手にボールが渡り、ペナルティーエリア外からのミドルシュートで得点。

2)　得点の起点

前田選手、鎌田選手、三笘選手、伊東選手の組織的な守備が起点となった。

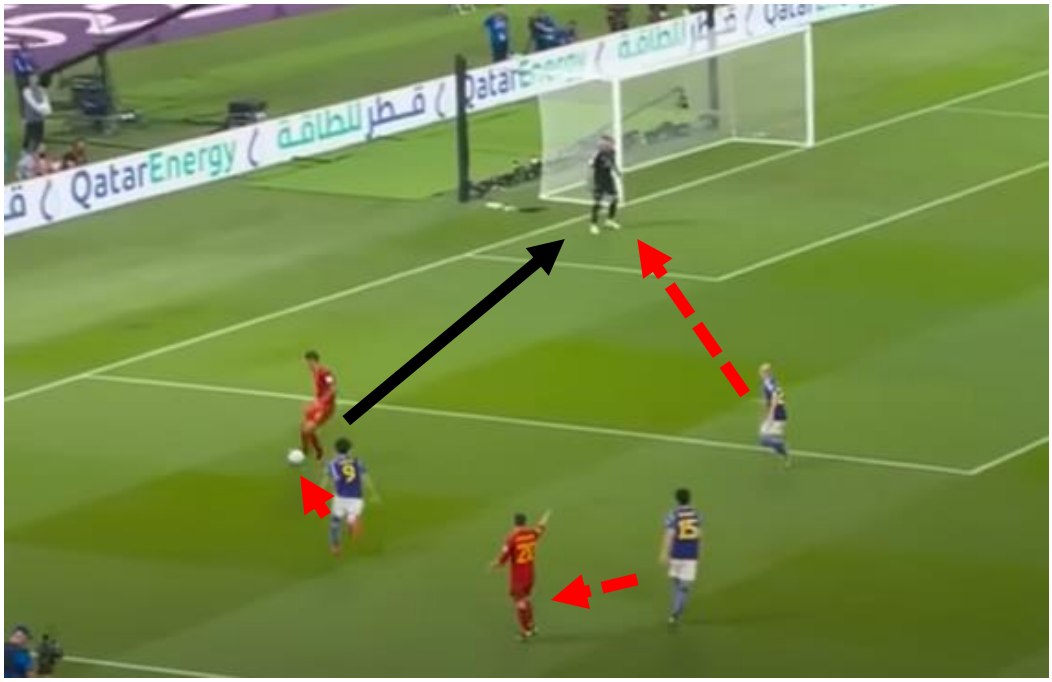

図 55　スペイン戦堂安選手の得点の起点となった組織的守備(出典：ABEMA)

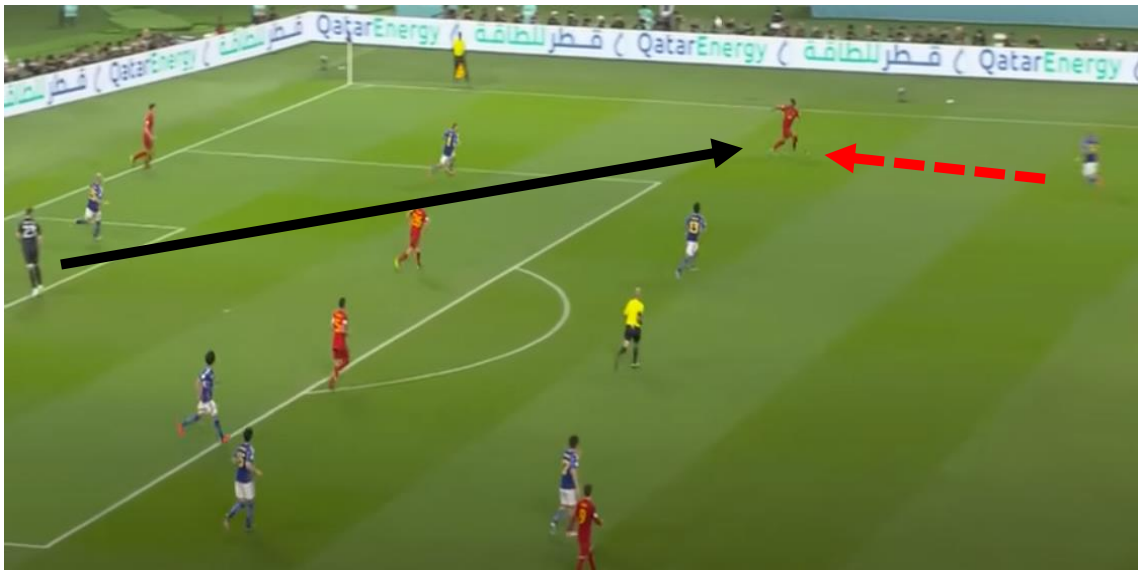

図 56　スペイン戦堂安選手の得点の起点となった組織的守備(出典：ABEMA)

3)　起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「前田=鎌田=三笘=前田=伊東→堂安→ゴール」であり、起点数は 4 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　三笘選手の守備の場面からの映像

図 57　スペイン戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（1つめの映像）（出典：ABEMA）

②　堂安選手のシュートシーンのアップの映像

図 58　スペイン戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（2つめの映像）（出典：ABEMA）

③　堂安選手のシュートシーンのゴール裏からの映像

図 59　スペイン戦の堂安選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：ABEMA）

④　森保監督をアップで映す

⑤　観客席をアップで映す

⑥　堂安選手と控えの選手をアップで映す

5）　実況者・解説者の言及(ABEMA)

実況者の寺川氏が「前から三笘のディフェンス。取りに行く。かなり激しくプレッシャーをかけにいきます。ゴールキーパーまで前田大然がおいかけていく。」と言及し、解説者の本田選手が「今ねもう相手がね。めっちゃ繋いできてたでしょ。サイドチェンジにゴールキーパーがビビらず繋いだときに、伊東さんがね。もう自分のマーク思いっきり捨てて前に出たんですよ。もうイチかバチかやったと思うんですけど。生まれましたよね。そこがまず堂安さん MVP は間違いないですけど。伊東さんのプレーにも注目して欲しいですね。ここ、ほら。」とリプレイ映像を見ながら言及がされていた。

6）　実況者・解説者の言及(フジテレビ)

実況者の中村氏が「鎌田いきます。三笘がスピードをもって追っていく、前田大然もいく、そしてここに伊東のプレッシャー」と言及し、解説者の小野伸二選手が「やっぱり三笘選手が 2 回追ったことによって相手にプレッシャーかけて、さらに逆サイド伊東選手。あそこを(相手に)抜かれてしまっては得点が生まれなかったので非常に良いプレッシャーからの得点だったと思います。」と言及がされていた。

7）　まとめ

リプレイ映像の 1 つめが得点の起点となった組織的守備からの映像であり、ABEMA もフジテレビも実況者、解説者が組織的守備について言及をしていた。得点の起点がアシストの 4 つ前であり、得点場面から遡る必要がある得点場面であったが、リプレイ映像の起点

となったプレーから広い画角の映像があったことで得点の起点について言及ができていた。

表 33　スペイン戦の堂安選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（ABEMA）

実況寺川：前から三笘のディフェンス。取りに行く。かなり激しくプレッシャーをかけにいきます。ゴールキーパーまで前田大然がおいかけていく。 解説本田：嘘でしょってぐらい 実況寺川：伊東純也が 解説本田：きた 解説本田：イェス 実況寺川：また堂安だ。 解説本田：きたよ 実況寺川：日本同点に追いついた。 解説本田：いやワンチャンやで。ワンチャンでいくんやって。 解説槇野：良い守備だ良い攻撃だ。ナイスゴール 実況寺川：前線からの厳しいプレッシャー 解説本田：今ねもう相手がね。めっちゃ繋いできてたでしょ。サイドチェンジにゴールキーパーがビビらず繋いだときに、伊東さんがね。もう自分のマーク思いっきり捨てて前に出たんですよ。もうイチかバチかやったと思うんですけど。生まれましたよね。そこがまず堂安さん MVP は間違いないですけど。伊東さんのプレーにも注目して欲しいですね。 実況寺川：ドイツ戦と同じ同点ゴールは堂安律から生まれました。 解説本田：ここ、ほら。 実況寺川：伊東純也がいきました。堂安が上手く抑えて。このシュートでした。 解説本田：いやぁこれを決められるっていうのは。（キーパー）さわってるんですけど、やっぱりワールドカップってこういうの入るんですよね。 実況寺川：さぁ日本同点に追いつきました 解説本田：いやぁあるぞ

表 34　スペイン戦の堂安選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（フジテレビ）

実況中村：鎌田いきます。三笘がスピードをもって追っていく、前田大然もいく、そしてここに伊東のプレッシャー 解説岡田：いいですね。 実況中村：日本奪った。 実況中村：またしても、またしても堂安が決めた。 解説小野：素晴らしいゴールですね。

実況中村：日本の期待に応える。後半の 5 分日本同点。追いつきました日本。またしても堂安律でした。なんという大舞台の強さ。逆境への強さなんでしょう。堂安の左足から日本同点ゴールが生まれました。
小野さん素晴らしいゴールです。
解説小野：やっぱり三笘選手が 2 回追ったことによって相手にプレッシャーかけて、さらに逆サイド伊東選手。あそこを(相手に)抜かれてしまっては得点が生まれなかったので非常に良いプレッシャーからの得点だったと思います。

第 4 項 スペイン戦田中選手の得点(4 点目)

1) 得点場面の概要

セットプレーから権田選手のロングフィードを伊東選手が受けて、そこから田中選手、堂安選手にボールが渡り、堂安選手のクロスを逆サイドから走り込んだ三笘選手が折り返して田中選手が押し込んで得点。VAR 判定の末得点として認められる。

2) 得点の起点

日本の左サイドに選手が集中していたが権田選手が逆サイドの伊東選手にロングフィードをしたことが起点となった。権田選手のプレーは、堂安選手の 1 点目の直後であり、ボールを蹴る瞬間は、メイン映像では得点を喜ぶ観客が映し出されており、映像自体がなかった。

図 60 スペイン戦の得点の起点となった権田選手がボールを蹴る場面(画面右下)とメイン画面(画面左上)(出典：ABEMA)

3) 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「権田→伊東→田中→堂安→三笘→田中→ゴール」であり、起点数は 4 であった。

4)　リプレイ映像の内容

①　田中選手から堂安選手にボールが渡る場面からの映像

図 61　スペイン戦の田中選手の得点のリプレイ映像（1つめの映像）（出典：ABEMA）

②　VAR となった三笘選手が折り返す場面の映像

図 62　スペイン戦の田中選手の得点のリプレイ映像（2つめの映像）（出典：ABEMA）

③　広い画角から堂安選手が折り返す場面の映像

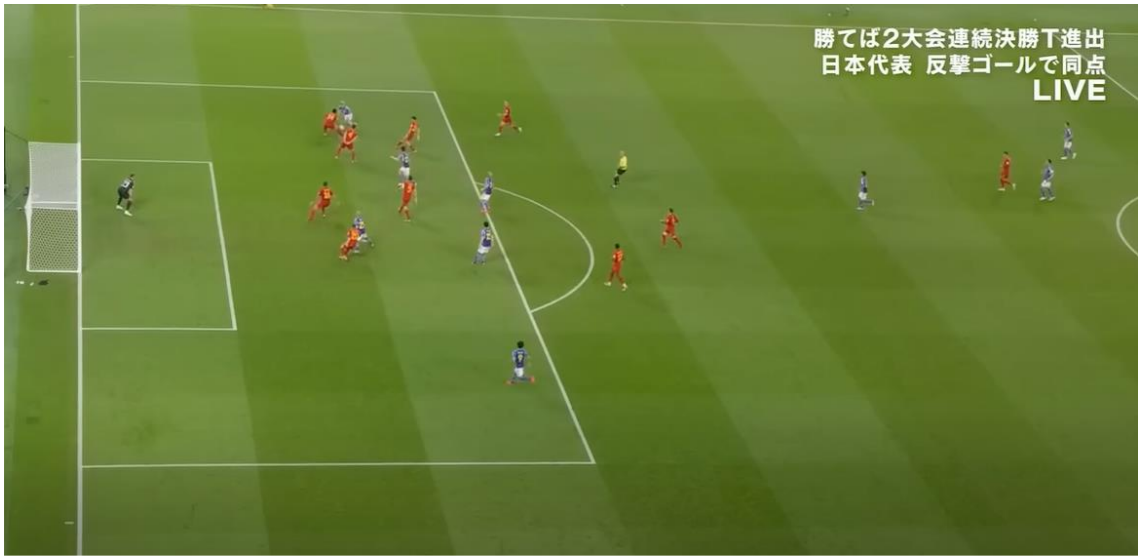

図 63　スペイン戦の田中選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：ABEMA）

5）　実況者・解説者の言及(ABEMA)

実況者・解説者ともに三笘選手の VAR について言及

6）　実況者・解説者の言及(フジテレビ)

実況者・解説者ともに三笘選手の VAR について言及

7）　まとめ

実況者、解説者は ABEMA もフジテレビも得点の起点に関する言及はなかった。リプレイ映像も起点の場面はなかった。得点の起点がアシストの 4 つ前であり、相手 DF に一度もボールを触られずに得点に至った場面であり得点場面から遡る必要がある得点場面であったが、1 点目の直後の得点であったため起点となった権田選手のプレーが映像に映っていなかったこと、加えて得点場面が VAR 判定となったこと、この得点が逆転ゴールでもあったことも重なり、得点の起点について言及ができていなかった。

表 35　スペイン戦の田中選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（ABEMA）

実況寺川：右サイド伊東純也。斜めのボール田中碧、堂安、堂安またいで縦にいって、中に預けたシュートは。入ったー。 解説本田：待て待て待て 実況寺川：ホイッスルはあるのか。 解説槙野：出てないぞ。出てないぞ。 解説本田：ちょ待って待って。なになにこれゴールキックってこと。 解説槙野：ラインは割ってないぞ。 解説本田：割ってない？じゃもう入ったやん。 解説槙野：俺の眼の前だったぞ今。 実況寺川：副審はフラッグは上げませんでした。ただゴールキーパーはゴールキックを主

張しています。
解説本田：いやいやいや。なになになに
実況寺川：今 VAR が発動しています。
解説槙野：ラインは割ってなかったですよ。
実況寺川：ゴールが認められるかどうか、というところです。ボールが全てラインから出なければ
解説本田：出てたったぽいでマキ
解説槙野：出てるの？
解説本田：これ出てるかもしれへん。これこそもう VAR やわ。でも出てたっぽいわ。
実況寺川：本大会はゴールラインテクノロジーも導入されているので。明確にボールが全てゴールラインの外に出ているかどうかというのは VAR をもってすると分かるはずです。今確認をしています。今日の主審は南アフリカのゴメスさんです。
解説本田：もう入らなかったら切り替えるしかしゃーない。
実況寺川：ただ試合が大きく動きはじめました。判定はどうでしょうか。ちょっと時間がかかっています。ボールが全部・・
解説本田：え、出てないかも。どう？
解説槙野：出てないでしょ
解説本田：出てないかも
実況寺川：かなり際どいところ
（中略）
解説本田：決まっていない方が良いという考え方もある
解説槙野：これは決まってた方が良いです
解説本田：いやいやそうなんやけど。そしたら守備に入るやん。で最後まで同点のチャンスをスペインに作られて引き分けで（決勝トーナメント）いかれへんって可能性があるわけやろ。守り続けるって方が良いのか。

実況寺川：田中碧のゴールになりました。田中碧のゴールが認められました。
解説槙野：出てないんです。
実況寺川：スペインに日本逆転。
解説本田：でも長いよここから。
実況寺川：ここから長い。あまりに長い。まだ後半の 10 分も経過していません。
解説槙野：ただ森保さんは冷静ですね。選手たちにポジションに戻れと。
解説本田：いやぁ。逆にルイス・エンリケちょっと焦っているんちゃう。まだ泣くの早いって。
実況寺川；日本サポーターの涙が見えます。ただただ。日本が目指しているのは決勝トーナメント進出で。その先のベスト 8 です。

表 36　スペイン戦の田中選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容（フジテレビ）

実況中村：伊東前、田中碧、もう一度堂安右足、折り返した。日本逆転 解説小野：出てなかったですか。なんか出てたような。 実況中村：いやフラッグが 解説岡田：いやいやフラッグが上がってない。 解説小野：ここからは出てたように見えたんですけど 実況中村：ビデオアシスタントレフェリー、VAR で確認が行われております。ボールがラインを超えていたかどうか。完全にラインをボールが超えていれば 解説小野：ギリギリのような 実況中村：少しでもボールがラインを超えていればという。畳み掛ける日本です。試合結果を左右する重大な得点において映像を分析しながら確認を行っております。ゴールかどうか今チェックが行われております。苦しかった前半から、さあこの後半 解説小野：ぎりぎりじゃないですか 実況中村：残っているようにもこの角度ですと見えますが。 実況中村：上から見てラインに少しでもボールが残っていればプレーは認められます。 解説小野：やっぱりあそこは(堂安の)左足のシュートをディフェンスは感じていたので、やはり左を警戒しましたよね。 解説岡田：三笘も良く折り返したよね。 実況中村：ゴールが認められました。 解説小野：素晴らしい 実況中村：田中碧に大きな大きな笑顔。日本スペインから勝ち越し 2 対 1 。みんなが繋いだボール。押し込んだ田中碧。さあ 2 対 1 日本逆転。魂を震わせる日本のプレーです。スタメン起用にこたえた田中碧

第 5 項 クロアチア戦前田選手の得点(5 点目)

1) 得点場面の概要

堂安選手のショートコーナーからゴール前の混戦を前田選手が押し込んで得点

2) 得点の起点

堂安選手のショートコーナーが起点となった。

3) 起点から得点までのプレーと起点数

起点から得点までのプレーは「堂安→鎌田→伊東→堂安→吉田→前田→ゴール」であり、起点数は 4 であった。

4) リプレイ映像の内容

① 広い画角からの堂安選手のショートコーナーの映像

図 64 クロアチア戦の前田選手の得点のリプレイ映像（1 つめの映像）（出典：ABEMA）

② 堂安選手がショートコーナーからクロスをあげる場面からのゴール裏からの映像

図 65　クロアチア戦の前田選手の得点のリプレイ映像（2 つめの映像）（出典：ABEMA）

③ こぼれ球から前田選手がシュートを打つ場面の映像

図 66　クロアチア戦の前田選手の得点のリプレイ映像（3 つめの映像）（出典：ABEMA）

5） 実況者・解説者の言及(ABEMA)

実況者・解説者ともに堂安選手のクロスと前田選手の得点に対して言及

6） 実況者・解説者の言及(フジテレビ)

実況者・解説者ともに堂安選手のクロスと前田選手の得点に対して言及

7） まとめ

リプレイ映像の 1 つめに広い画角の映像が使われ、クロスを上げる堂安選手と中で競り

合う選手の関係が見える映像が使われていた。得点の起点がセットプレーであり起点という視点は必ずしも必要はなく、得点場面について言及すべき得点であった。

表 37　クロアチア戦の前田選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(ABEMA)

解説本田：これね。ショートやったら良いと思う。 実況寺川：近くに鎌田がいます。 解説本田：多分ね。立ち位置見ても。これ多分対応できないですよ。 実況寺川：はいモドリッチがちょっとうかがうような感じでいますけども。 解説本田：そうそうそう。やってみ。 実況寺川：さらに近くに伊東純也がいます。ここでボールを受けます。下げて堂安。クロスボールを上げてきた。中央。前田大然 解説本田：きましたねー。ショートからの 実況寺川：日本先制点を奪いました 解説本田：クロスめっちゃ良かったです。 実況寺川：堂安のクロスボールから 解説本田：しかももう終わるんじゃないですか前半 実況寺川：最後は前田大然でした。前半の 43 分が過ぎたところです。 解説本田：素晴らしい 実況寺川：そしてもう一度吉田麻也が選手たちに声をかけます。奪いたかった先制点。このクロスボールに対して。見事に決めていきました。 解説本田：よしよし。時間帯がめっちゃ良いんじゃないですか。 実況寺川：吉田麻也の折り返しでした。 解説本田：これは同点万々歳と言っていて。1 対 0 で折り返せるって。もうそんな。 実況寺川：あ。ちょっと待ってください。オフサイド VAR が発動しています。 解説本田：誰っすか。 実況寺川：最初の吉田麻也の立ち位置かもしれません。堂安がクロスを上げる吉田の位置 解説本田：ないでしょ。ないでしょ。 実況寺川：一瞬気にはなりました。大丈夫です。ありません。ありません。日本先制点が認められました。

表 38　クロアチア戦の前田選手の得点に対する実況者・解説者の言及内容(フジテレビ)

実況西岡；鎌田の近くにいますが、ここはショートコーナーを選択。そして中に入れる。ここから壁を作ってきた。シュート。決まったー。前田。日本先制。日本のゴール。ついについに先制点です。決めたのは前田大然。オフサイドはどうでしょうか。こぼれて最後

は前田が押し込んでいきました。いや岡田さんやってくれました。前田です。
解説岡田：そうですね。最高の流れですね。
実況西岡：そして小野さん。これまでは攻撃ももちろんですが守備で走り回っていました。あっとしかしここはVARのチェックが入るでしょうか。
解説小野：いやでも出てなかったでしょう。
実況西岡：VARチェックが入ります。あのオフサイドのところですよね。堂安の左足のクロスのところ
解説小野：手前ですよね。
実況西岡：あっとしかし認められました。VARチェックの結果日本のゴール認められました。

第６項 カタールＷ杯本大会全５得点のまとめ

全５得点のうちドイツ戦の１点目はゴール前の展開であり、ドイツ戦の２点目とクロアチア戦の得点はセットプレーからの得点であったことから、これら 3 点は必ずしも起点を言及する必要がない得点であった。スペイン戦の 2 得点は得点の起点から遡る必要がある得点であったが、ABEMA とフジテレビで言及内容に差は特になかった。また、全５得点のうち 4 得点は起点がリプレイ映像に映り込んでおり、リプレイ映像の１つめが広い画角で且つ得点の起点となる場面からの映像が使われていた。スペイン戦の１点目はリプレイ映像を見ながら ABEMA もフジテレビも起点の言及ができていた。

表 39　カタールＷ杯本大会全５得点の起点

試合結果	時間	起点から得点までの流れ	起点数	映像	ABEMA 実況	ABEMA 解説	地上波 実況	地上波 解説
ドイツ 2-1〇	75分	**三笘**→南野→相手GK→堂安→G	2	◯	◯	◯	◯	−
	83分	**板倉**→浅野→G	0	◯	◯	−	◯	−
スペイン 2-1◯	48分	**前田=鎌田=三笘=前田=伊東**→堂安→G	4	◯	◯	◯	◯	◯
	51分	**権田**→伊東→田中→堂安→三笘→田中→G	4	−	−	−	−	−
クロアチア 1-1◯	81分	**堂安**→鎌田→伊東→堂安→吉田→前田→G	4	◯	◯	−	◯	−

→:パス　=:組織的な守備　G:ゴール

第７項 得点場面以外のボランチのプレーに対する言及

1） 実況者・解説者の言及(ABEMA)

表 40　カタールＷ杯ドイツ戦　試合中のボランチのプレーへの言及（ABEMA）

実況寺川：良いタッチで浅野がいったー。 実況寺川：日本逆転。浅野がやりました。 解説本田：今のは素晴らしいコントロールから、キーパーの上は取れないですね。 実況寺川：勝ち越しに成功日本後半 38 分。湧き上がるカリファ国際スタジアム。優勝 4 回強豪ドイツ。日本勝ち越しに成功。ジャガーポーズが出ました。獰猛に襲いかかりました浅野。勝ち点３が大きく近づいてきました日本の初戦。 ５７：００スローVTR。（前半７：１０のシーン）　２秒 実況寺川：遠藤航の守備でした。 解説本田：完璧です。 ５７：３５（前半８：１３）１２秒 実況寺川：遠藤航選手が非常にいい寄せ方をして、鎌田が挟むような形で奪いましたよね。 解説槙野：理想とする形ですし、仲間の選手たちもボールを奪った瞬間にしっかり走り出していますんで。 １：０３：２５(前半１４：０２)１１秒 解説本田：ギュンドアンとキミッヒを抑えられてないんですよね。 実況寺川：必ずどちらかが FW とボランチの間をウロウロするような形になっています。 １：１２：０１（前半２２：３８）１１秒 解説本田：ミュラーが引きます。それが結構厄介で田中さんが引っ張られていくんで、ほら、田中さんが１回開いてからもどってくるんで、すごい走らされているんですよ。 １：１２：４０（前半２３：１６）２９秒 解説本田：ギュンドアンうざいなー。 実況寺川：なるほど。かなり嫌なプレーをしてきている。 解説本田：かなりっすね。

実況寺川：どういったところでしょう。
解説本田：やっぱりね、どこで受けたら日本が嫌かをわかってますよね。
実況寺川：なるほど。
解説本田：ただ引くだけではなくて、引くときは引く、間でもらうときはもらう。
実況寺川：つまりですから、今ギュンドアンのもらい方、あとはさきほどのミュラーのちょっと嫌な開き方、そういった経験ある選手たちの動きにかなり日本は、実はじわじわと苦しめられている状況があるということですね。
解説本田：そうですね。

１：１４：４６（前半２５：２３）１４秒
解説本田：ほら、ここ、ミュラーが引いてもらうんですよねー
実況寺川：右サイドにミュラー引いてきます。
解説本田：これがね、田中さんにじわじわ効いてくるんですよね。
実況寺川：ここに毎回毎回田中碧がついてくるディフェンスをしなければいけない。そんな状況が続いているこの時間帯です。

１：２９：１２（前半３９：４８）３５秒
解説本田：5バックにして３ボランチにすればいいんですよ。そうすると左のボランチが簡単にミュラーのところに出ていけるんで、相手３バック気味に攻撃の時になるのは、前の２人で３人を追えばはめやすいかなって。
実況寺川：ダブルボランチ田中碧と遠藤航ですが、トップ下でプレーする鎌田、クラブではボランチとして経験を多く積んでいる選手で、そういった意味では鎌田を少し下げて、３ボランチにする形でもいいかもしれない。
解説本田：そうですね。それこそズーレに出たときにプレスがはめられるはずです。

（後半）
２：２６：５９（後半４１：５２）１秒
解説本田：もう一人前に出られへんかな、ボランチ

2)　実況者・解説者の言及(NHK)

表 41　カタールＷ杯ドイツ戦　試合中のボランチのプレーへの言及（NHK）

前半６：０７　２０秒
解説福西：基本的にはキミッヒボランチのところに田中碧、そして鎌田がギュンドアンのところと、いうところで言えばボランチのところは抑えにいけている。遠藤がミュラーが逃げたときに真ん中をあけるかどうかは気になるところですね。基本的にはあけないほ

うがいいのでマークの受け渡しをしっかりしたいですね。ここですね。

前半７：１０のプレー　　スローVTR　５秒
解説福西：最高の奪い方じゃないですか。
解説井原：そうですね。
実況曽根：鎌田大地でしたね。

前半８：４７　７：１０の相手 DF の裏をつくプレーについて　20 秒
解説福西：奪ったあとのところですよね。ギュンドアンが逆に展開しようとしたところをやめて真ん中をドリブル仕掛けてきたんですけど、遠藤が仕掛けを限定させながら、そして田中を（実際は鎌田）挟み撃ちにする。そして、その裏をつく伊東、そして前田と流れるような良い展開でした。

前半１０：５８　１秒
解説福西：（田中のプレーに）いい間合いですね。

前半１２：５７　24 秒
解説福西：嫌なのがここですね。ただ、今の寄せ方といい、遠藤が気にしながらポジションとってますから、いいと思います。
実況曽根：6 番同士ということになります。ドイツの 6 番キミッヒと日本の 6 番遠藤になります。
解説福西：（日本の右サイド）ただここに遠藤がいかなきゃいけなくなるんですよね。
実況曽根：ボランチの遠藤がカバーに行って、エリアの中に入ってくる。少し前があいてキミッヒのシュート。
解説福西：ナイスブロック。

前半１３：２７　1 分 16 秒
実況曽根：あの辺りの空きというご指摘があるのは、今また向こう側のサイドということになります。
解説福西：はい。ちょっと苦労してますね。これで遠藤が出ていくので、田中碧が中に絞らなきゃいけない。まあ久保が中に入れてるときはいいですけど、中にはいれてないときはうまく間を使われる可能性はありますね。
実況曽根：ボランチのところの関係です。今日のダブルボランチの関係は日本 6 番遠藤航と 17 番田中碧で組んでいます。
解説福西：あとミュラーがほんとに嫌なところにいるっていうか、外に流れてるんです、わざと。

実況曽根：ミュラーはドイツの 13 番。
解説福西：それを田中碧がついていかないといけないので、中盤のところを（相手が）あけるようにしている。ギュンドアンが出ていく。遠藤がじゃあついていく。今ハヴァーツが降りてこようとしている。
2 トップで限定しながら、右サイドにいかせるのか、左サイドにいかせるのか、そして最後の勝負をうまくずれながらといいますかね、こういうふうにみんなでずれながら守備をしていくというやり方にしていかなきゃしんどくなりますね。
実況曽根：非常に流動性を持ってドイツの前線からいわゆる 2 列目その下の、中盤の選手たちが動き回りますので、そこに対する守備の対応というものが少し厄介な部分が日本は立ち上がりにあります。まもなく前半の 15 分です。

前半４３：３６　1 分 3 秒
実況曽根：リュディガー、そしてやはりキミッヒがリズムを作りますね、福西さん
解説福西：やはりここで引き出されるので、田中碧が遅れちゃうんですよね。ここでまた当てますよ。
実況曽根：キミッヒに当てて一旦後ろへ
解説福西：これで遠藤が行かなきゃいけなくなるんで、その後ろをどう使うかという、ドイツにしては。
これをやらせたくないんですよ、ほんとは。
なのでそれを久保とか鎌田と前田で 3 人そこのボランチのコースを切っておく。
外で勝負して、ある程度とりどころを見つけるっていうことの方がしんどくはないかなと思います。
もうここも外に出さして取り所を定めていくほうがいい。中入れられると中絞らなきゃいけないんですよ、みんなが。
実況曽根：サイドが空いてくる。
解説福西：サイドが空いてくる。サイド使われる。また中へ絞らされる。
実況曽根：あーっと中に入ってチャンスになる、シュート。枠をそれました。
解説福西：もちろん自信があるから入れてるっいうこともありますんで。そこに日本のガツって当てられるぐらいの距離感でいきたいですね。

前半４６；１０　9 秒
実況曽根：またイルカイ・ギュンドアンに入る。テクニシャンの揃うドイツの中盤、キミッヒ。
何気ないパスなんですけど、非常にうまい。
解説福西：うまいですね～

前半４６：２５　８秒
解説福西：もうこれで外に出させて、しっかり田中碧はそのスペースにいたほうがいいですね。そして、ラインを上げたほうがいいっすね、これ。

後半０１：４１　５５秒
解説福西：遠藤のところで防がないといけない状況ですね。ただ、スピードに乗られてしまっているので、ここでもう外に行かせたいようなやり方はしてるのですが、かわされることがよくないので外に出させるっていうんだったら、もっとこうなんていうんですかね、おびきよせながらっていうかね、バックステップを踏みながらですけど。これ取りに行こうともし遠藤がしてるのであれば、ディフェンスラインを止めてでもいかないといけないといけないので、そういう部分は前半でラインが低いっていう気になったところの一つなので、ラインを上げることで、中盤の選手がいき切れることができるんですね。でも中盤が決めることではない、ディフェンスラインを上げてもらわない限りはうまく中盤はどうしようもない。いってしまうと後ろを使われるし、その後ろを使われないためにディフェンスラインを上げていうことをチームでしないといけないので、そこでもう少し指示してどんどん積極的にってことをしたほうがいいと思います。

後半０９：１６　２５秒
解説福西：いいと思います。田中も遠藤も今比較的センターサークルの近くにいます。
実況曽根：そして鎌田大地が裏へ飛び出していく形が２つほど続きました。それぞれのポジションが少し変化して来たことによって、ドイツもまだそこには十分対応しきれていない感じがあるのか。
解説福西：ある程度しきれてないと思いますよ。日本ペースですからね。

後半１４：１５のプレー　　スローVTR　４５秒
解説福西：遠藤が引き出されて、田中もボールサイドに行っているので、ここ中盤がっぽりあいているんですね。
解説井原：ボランチ２枚が同じところへ引き出されたので、危なかったですね。
実況曽根：それは福西さん、やむを得ないことなのか、もうちょっと改善のしようがあるんですか。
解説福西：とりにいかなきゃいけないということではやむを得ないんですけど、じゃあどこで取りたいかっていうところがちょっと狙いがわからないので、それをうまくドイツもかわしてきますよね。そうなってきたら、次の展開をどうするか、
（次のプレーにいっちゃったため、説明できず）

後半１６：１２　１５秒

解説福西：田中碧がここサイドでってことで取りに行ってるんですね。そしたら今もそうですけど、遠藤が１人で守ってる、なんですけどドイツの選手たちが今も間、間に入ってくるんですよ。今、キミッヒとミュラーのところ。

第３節　　TV 番組制作者へのインタビュー

第１項 リプレイ映像の制作の方法

リプレイ映像の制作方法は、演出の責任者であるディレクターと VTR 制作の担当スタッフがいた。会場で様々な角度から撮影をした VTR をそのスタッフ（以下、VTR スタッフ）が持っている。そして生中継の試合展開を見ながら、適宜シーンを切り出すようにディレクターから VTR スタッフに指示を出し、得点等に繋がった場合、そのシーンをリプレイ映像として映すようなことをしていた。試合内容を中継するのが最優先であるため試合展開が変わるなかでどのように入れるかを常にディレクターと VTR スタッフが探っており、良いプレーと思われる映像を切り出して持っていても、展開が変わってしまえば使えない場合が多い状況であった。

第２項 起点の場面のリプレイ映像の抽出

ディレクターであれば得点場面において起点からリプレイ映像を出そうという意識はあるとの指摘があった。ただし地上波の場合、サッカーに詳しくない人も視聴者することを踏まえた番組作りが求められ、映像制作の原則として１回の映像に対して、「強い絵」と言われるゴール前のシーン等を重ねていって肉付けしてくというのが VTR の基本的な考え方としてあった。その点を踏まえ、得点の起点となる場面を伝える一例として最初のリプレイ映像で画角を引いた映像を出すことで全体の動きが分かるような映像を出し、その後の映像はシュートシーン等の得点の場面を映すことが挙げられた。

試合中の解説の以外にもハーフタイムの 15 分の時間を有効活用する方法も挙げられた。その時間の中でポイントとなった場面を切り出して解説をすることの可能性はあるが、一方で試合後のハイライトの場合は時間がかなり限られているため起点の映像を映して解説を行うことの可能性は低い状況であった。

また、得点の起点となる場面を切り出すという場合、①その場面が起点であるかどうかの判断が難しいこと②試合を優先的に流すという限られた時間の中で起点を丁寧に説明する時間を確保できるかの時間的課題③解説者の得意な分野や専門性が異なるなかで起点の場面をリプレイで映したときに起点について解説ができる。の３点が指摘された。これら課題の解決策として、起点という解釈が伴う映像を切り出すということではなく、２つ３つ前の場面を切り出すという指示であれば結果として起点の場面を切り出す可能性が高まること、事前にディレクターと実況者、解説者と中継の狙いを決めて映像を切り出し、解説を行う方法があることも示された。

第３項 ハイライト番組で起点の解説を行う可能性について

試合中継番組とは別にハイライト番組で攻撃の起点の解説を行うことを考えた場合、プロデューサーやディレクターの判断で実施することは可能であることが示された。ただし、現行のハイライト番組の場合、番組の放送時間が 40 分で J1 の 9 試合を取り上げると、映像だけでほとんどの時間が使われてしまい、時間を取って起点の解説を行うという時間がハイライト番組においても現実的に確保できるのかの難しさがあることも指摘された。

第４節　　海外のサッカー番組

イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、いずれも国において試合中継での解説よりもハイライト番組で解説者がプレーに対する解説や、意見を述べていた。特にイギリス BBC では、ハイライト番組を週に 3 本、3 時間 40 分放送しており、その中でも「Mach of the Day」はサッカー討論番組として、得点シーンの解説をはじめ専門家同士での意見が交わされていた。

第１項 チャンピオンリーグ決勝 2021－2022　リバプール対レアルマドリード　59 分ヴィニシウスの得点

チャンピオンズリーグの中継では、日本の中継のように実況者と解説者の役割分担は特になく、解説者がプレーの細かな解説を行っていない状況であった。

図 67　　チャンピオンリーグ決勝２０２１－２０２２　リバプール vs レアルマドリード 59’ヴィニシウスの得点（出典：YouTube）

図 68　ボランチが関与したプレー（出典：YouTube）

表 42　図２５から２６におけるゴールシーンにおける実況解説

実況「カーマールがキャシーミロ、ファウル 30 発見。 レアルマドリードからのプレーの通過、彼は彼を引きずり、彼らは先に進む。ヴィニシウス」 実況「ジュニア　スナップ　ド　フランスは白い喜びで爆発し、ジュニアはチャンピオンズリーグ決勝の前でレアルマドリードに火をつける。」 解説「が、彼らはプレーを始めたばかりだ。本当に彼らはその中盤エリアでいくつかのポゼッションを獲得し、少し構築し始めた。」

第２項 イギリス BBC「Match of the day」の調査

イギリスでは土曜日に 3 時間 40 分、日曜日には 2 時間 30 分のサッカーのハイライト番組が放送されており、ハイライト番組の中で得点の解説等が行われていた。

図 69　イギリス BBC「Match of the day」「イギリス国営放送、『BBC』 で放送されている週末のサッカー番組」(出典：BBC)

【 土曜日 】［ 放送時間 ］ 3 時間 40 分
正午　　「Football Focus」（１時間）　　「試合の事前情報番組」。
午後４時、「Final　Score」　（１時間１０分）「試合終了後、速報ハイライト番組」。
午後１０時半 「Match of the Day」 （１時間半）
「試合のダイジェスト番組。　解説番組」。

【 日曜日 】［ 放送時間 ］ 2 時間 30 分
午前７時半 「Match of the Day （再放送）」 （１時間半）「前日の夜の再放送番組」。
午後１０時 「Match of the Day　２」 （１時間）「日曜日の試合のダイジェスト番組」。
MC は、元サッカーイングランド代表　ゲーリー・リネカー

図 70　Match of the day 2008 年 8 月 30 日放送（出典：YouTube）

MC ゲーリー・リネカー　＜ゲスト＞　アラン・シアラー（元イングランド代表）　マークローレンソン（元アイルランド代表）
放送内容としては、各試合のハイライト、監督インタビュー、各試合の分析。
当日の試合結果と解説内容は以下のとおり。

- エバートン　０－３　ポーツマス　（得点解説）
- ハル・シティ　０－５　ウィガン　（得点解説）
- ウエストハム　４－１　ブラックバーン　（オフサイドライン解説）
- アーセナル　３－０　ニューカッスル　（チャンスシーン解説）
- ミドルスブラ　２－１　ストーク　（分析なし）
- ボルトン　０－０　ウェストブロムウィッチ　（得点解説）

図 71　Match of the day 2022 年 10 月 30 日放送

(出典：https://www.footballorgin.com/bbc-match-of-the-day-motd-30-october-2022/)

MC ゲーリー・リネカー　＜ゲスト＞　アラン・シアラー（元イングランド代表）　イアン・ライト（元イングランド代表）

放送内容としては、各試合のハイライト、監督インタビュー、各試合の分析。

当日の試合結果と解説内容は以下のとおり。

- ブライトン　4－1　チェルシー　（守備解説）
- リバプール　1－2　リーズ　（リバプール守備改善解説）
- ボーンマス　2－3　トットナム　（攻撃解説）
- ニューカッスル　4－0　アストン・ビラ　（得点解説）
- レスター　0－1　マンチェスター・シティ　（レスターの守備解説）
- クリスタル・パレス　1－0　サウサンプトン　（エドゥアール 22 番 PAL 攻撃の動き方解説）
- ブレントフォード　1－1　ウォルバーハンプトン　（得点解説）
- フルハム　0－0　エバートン　（チャンスシーン解説）

第３項 その他海外のサッカー番組について

1)　ドイツのサッカー番組

・ARD スポーツスタジオ（ドイツ）

ドイツ国内で最も有名な FTA ハイライト ショーといわれており土曜日の午後 18 時 30 分に始まる。15 時 30 分キックオフのブンデスリーガの全 5 試合と金曜日の試合のハイライトが放送される。 番組は 18:00 に始まり、第 3 部、2. ブンデスリーガ、さらには女

子ブンデスリーガのハイライトも放送される。

・Sky Konferenz（ドイツ）
ドイツ国内で最も有名なライブ有料プログラムといわれている。土曜日の 15:30 に 5 つの同時間帯の試合をスタジアムからスタジアムへジャンプしてゴール、レッドカード、ペナルティーなど視聴者がみたいシーンを表示する。視聴者は選択した単一の試合のみを視聴することもできる。

・alle Spiele, alle Tore（ドイツ）
ブンデスリーガのトップ マッチは 18:30 の土曜日の夜の試合であるが、ドイツ国内では他の土曜日の試合も同様有料チャンネルである Sky のみで視聴できる。
Sky のハイライト ショーは「alle Spiele, alle Tore」と呼ばれているが、これは「すべての試合、すべてのゴール」という意味で、 1 人か 2 人の専門家（マテウスやハマンなどの元選手）が出演し解説する。

・aktuelles Sportstudio（ドイツ）
ZDF on FTA（ドイツの衛星放送）において 22:00 以降に始まる土曜日の夜のハイライトプログラム。金曜と土曜の試合のすべてのハイライト（18:30 を含む）が放送される。

・Doppelpass（ドイツ）
Sport 1 （ドイツの無料放送）で日曜の朝放送されるトークショー。このプログラムでは、さまざまな専門家やクラブの代表者までが、これまでの試合で何が起こったのかを 2 時間ディスカッションする。

2) フランスのサッカー番組

・Telefoot（フランス）
フランス国内で最も有名なプログラムといわれる。 毎週日曜よる 11 時から TF1（無料）で放送され放送時間は 60 分。

3) スペインのサッカー番組

・El Chiringuito de Jugones（スペイン）
ゴシップに関する内容の番組。 火曜日から木曜日に Mega TDT（無料）で放送され、放送時間は 165 分。

第５節　　YouTube 番組

第１項 J リーグの公式 You Tube チャンネル担当者インタビュー(2022 年 12 月 13 日)

J リーグ公式チャンネルで提供している「ジャッジリプレイ」はトライアルで行ったところ視聴者や関係者からの反響が大きく、企画として提案をした経緯があった。
映像制作ができる機能が J リーグにあるため、J リーグの企画としてトライアルで作って反響が良ければ、DAZN 等の OTT や TV 局に企画提案をしにいくことが可能であることが示された。
また個人の You Tube チャンネルでも費用を捻出すれば J リーグの映像素材を使うことは可能であるが、どこの場面を使用するか立ち会いの下で抽出をするためあまり現実的な選択肢ではなかった。

第２項 筆者の You Tube チャンネルの課題

筆者の You Tube チャンネルでは、日本代表戦を試合後に総評しているのだが、映像が使えないため、ホワイトボードを使ったり、言葉で伝えたりしなくてはいけないので詳しく伝えきれないのが現状である。

第４章　　考察

第１節　　得点の起点の解説の実施状況

得点の起点のリプレイ映像があれば、OTT でも地上波でも起点の解説が行われていたことから、リプレイ映像に起点が映り込むことが重要である。筆者の経験では、リプレイ映像があれば尚のこと起点の解説をすることで、その試合における両チームの戦術の違いや得点シーンまでのボール回しの意図など得点の生まれる過程を深堀して伝える機会を作ることができる。得点シーンの起点を解説することで、その試合のリズムや流れという別の視点を加えやすくなり、得点シーンのみならず試合全体に対しての理解をより深める解説が可能となると考える。

第２節　　リプレイ映像の改善

アジア最終予選のリプレイ映像では、得点を遡る必要がある 6 得点のうち 1 得点にしか得点の起点となるプレーがリプレイ映像に映り込んでいない状況であった。アジア最終予選の場合、リプレイ映像に特に法則性が見当たらなかった。その理由として、リプレイ映像の制作をホームの国の制作会社が制作する傾向にあることが考えられる。その点では、唯一映像があった豪州戦もアウェイゲームであり、豪州の現地の制作会社が作成した映像であることが考えられる。日本のホームゲームの 4 得点は広い画角の映像を使われている映像もあったが、多くがアシストの場面から映し出される傾向にあり得点の起点まで遡る映像はない状況であった。

一方でカタール W 杯本大会のリプレイ映像は、海外の会社が制作している映像であるが起点の場面から映し出され且つ画角の広い映像が用いられており、起点の解説がしやすい映像であった。またアジア最終予選のリプレイ映像と比較すると最初に画角の広い映像が出て次にアップの映像が出るということがある程度パターン化されている傾向もあったことから、得点場面ごとに映す映像を変えるのではなくある程度形式化されていることが予想される。

国際映像と比較するとこの点が日本のサッカー中継におけるリプレイ映像の課題と言える。また、番組制作者へのインタビュー結果から、アシストから遡るという指示が映像制作スタッフに出せば実現可能であるという回答が得られた。従って、今後、映像製作スタッフに対しアシストとなる場面の 3 つ、4 つ前の場面に遡っての映像の切り出しを標準とする指示が行われ、近い将来得点の起点がリプレイ映像に映り込むことがサッカー中継において常識化することが重要である。日本のサッカー中継、特に地上波においては放送時間の制約の問題もあるうえ、リプレイ映像を流すことで実際の試合で展開されている重要なシーンを取り逃がす危険性もあり、制約された時間や画面のなかで、いかに有用なリプレイ映像を制作できるのか、その工夫も課題として残される。解説者として言葉だけでは伝えきれない

ことが、リプレイ映像があることによって、より得点シーンへの意図や気持ちが視聴者に伝えることができ、それによってサッカーがわかりやすく理解しやすいのではないかと考える。

第３節　実況者と解説者の連携による起点の解説

仮にリプレイ映像がなくても実況者が解説者に話題を振るような連携が取れれば得点の起点の解説が可能である。日本のサッカーの実況は地上波テレビのアナウンサーが担当することが多く、いわゆるキー局では人数も多いため、それぞれ専門領域をもったスキルの高いアナウンサーも多い。従って、サッカー日本代表戦のような試合中継では実況者と解説者の連携によってリプレイ映像がなくても起点の解説ができる可能性が高い。一方でＪリーグのように特定の地域で放送される場合においては、人数の限られている地方局が放送を担当し、一人のアナウンサーがスポーツ中継だけでなく、一般のニュースや番組など掛け持ちしている場合があり、実況者がどこまで解説者にたいして話題を振るかなど綿密な打ち合わせを行うことが重要である。また、Ｊリーグの DAZN 中継において、J3 の試合に関しては、基本的に地方局のアナウンサーによる実況者一人での中継であり、解説者はいない状況である。このような場合、起点の解説は行うことは不可能である。しかし、J3 は地方クラブが多いがその地方での注目度は高く、日本全体のサッカーに関するリテラシーの向上をはかるためには、J3 であったとしても実況者と解説者のペアによる中継が望ましい。

第４節　番組制作関係者の意思統一

サッカー中継において得点の起点への言及を増やす為には、起点の言及が重要との番組関係者（特にディレクター、実況者、解説者）全員の意思統一が必要となる。ディレクターと実況者とのサッカーに関するリテラシーの違いが大きければ、中継にも大きく影響してしまうことがある。筆者の知る限りにおいては、番組中継開始前に打ち合わせはしているものの、起点に焦点を当てるような内容等について話題になったことはないため、打ち合わせの時間を有効活用し意思統一を図ることが重要である。

第５節　ハイライト番組の可能性

欧州のようにハイライト番組を充実させることも重要な方法であり、試合映像の権利を有するリーグ等の主催者や、放送局、OTT と連携しテレビだけでなく You Tube や SNS での配信も含めて幅広く検討すべきである。ハイライト映像が YouTube 等のアーカイブで残るメディアに掲載されることで、その試合に興味をもった視聴者がその実況解説を聞きながら何度も試合を見直すこともでき、サッカーに対しての理解をより深めるための環境が

整うと考える。インターネット上の動画は放送と違い時間等の制約が少なく、より具体的な解説を試合映像に対して付け加えることも可能となる。ハイライト番組を作るための映像制作ができる機能がJリーグにあるため、Jリーグの企画として解説番組を提供し、反応が良いものはDAZN等のOTTやTV局に発展させていくことを検討すべきである。

第6節　OTT配信の可能性

2022年W杯のABEMAでの配信では本田選手の解説が話題となった要因として本人の魅力に加えて実況者の寺川氏と解説者の本田選手が対話形式で進行したことが挙げられる。第1節で得点の起点を解説する上で、実況者と解説者の連携の重要性について指摘したが、今回のABEMAの取り組みは参考となる事例と言える。DAZNやABEMA等のOTTはコアなファンに魅力を伝えることが主の媒体であることから、既存の概念に囚われない中継のあり方を模索すべきであり、そこで生まれた好事例を地上波にも取り入れることで、より多くの人がサッカー中継を楽しむことができる環境作りを行うことが望ましいと考える。他方、地上波放送局においては、サッカーに詳しくない人にも分かりやすい内容を伝えることが本来的な役割であり、今回の調査でアジア最終予選では地上波は得点場面を解説する傾向にあったが、得点場面の魅力を視聴者に伝えることも重要な視点である。

第7節　得点の起点となった選手に注目を集める方法

サッカーにはMOM(Man of the Mach)やMVP等の試合で注目された選手に賞を与えるような攻撃の起点となった選手に賞を与える取り組みを提案したい。筆者が経験したボランチというポジションは、攻撃の起点となるプレーや攻守の切替えや守備での貢献が多く、また得点やアシストとは異なり得点の起点となるプレーは、サッカーの記録としても残らないことが多く、メディア等から注目を受けることも多くはなかった。賞を設けることで、選手もそれを目指すことにもなるうえ、ファンもメディアも注目をするようになり、それによって指導者や保護者も選手を観る視点が養われることが期待されることから、Jリーグのようなトップチームだけでなく、少年サッカーのグラスルーツから浸透させることを考えたい。

第8節　研究の限界

この研究においては、カタールW杯アジア最終予選、W杯カタール大会の日本代表戦の地上波番組、インターネット番組等のメディア調査を主体としているため、他の大会や他の国の代表戦や他のサッカーが盛んな地域における中継実態は調査していない。また、ヨーロッパにおいても全てのサッカー番組を調査していないため、すべてのサッカー番組の実態

は把握されていない。

第 5 章　　結論

日本サッカーの将来のためには得点シーンのみならず起点となったプレーに焦点を当てることが重要である。リプレイ映像の工夫等によりサッカー中継の実況、解説において得点の起点となったプレーへの言及増加が可能である。サッカー界としても中継や報道を容易とするように、起点者を記録に残すなどの工夫が必要である。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、指導教員の平田竹男先生には構想の段階から様々な面においてご指導を賜りましたこと御礼申し上げます。

本研究を通じて 2022 年カタール W 杯アジア最終予選から本大会に至るまでの得点場面を振り返ることができ、筆者が長年取り組んできたサッカー中継の解説業に対して反省点や改善点に気付くことができました。2022 年カタール W 杯本大会の年に入学を認めて下さった教授に重ねて御礼を申し上げます。

副査の中村好男先生、児玉ゆう子先生、畔蒜洋平先生には、幅広い視点からのアドバイスや論文作成において細かいところまでご指導をいただき感謝申し上げます。

また本研究を行うにあたり、忙しい中快くインタビューに応じていただき、丁寧にお答えくださった TV 番組制作関係者の皆様、J リーグ関係者の皆様、平田研究室の学生修士の皆様、苦楽を共にした平田研究室 17 期の皆様にも感謝申し上げます。

この研究の成果を他のサッカー解説者や番組制作関係者にも共有することで、広くサッカー界に貢献していけるように尽力してまいります。

皆様のお陰で自分の成長を感じることができました。ありがとうございました。

参考文献

- NHK アーカイブス；https://www2.nhk.or.jp/archives/search/special/detail/?d=news-sports004（最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
- ビデオリサーチサッカー総合「週間高世帯視聴率番組」；https://www.videor.co.jp/tvrating/past_tvrating/sport/football/01/post-17.html （最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
- 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」；https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/index.html（最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
- FIFARanking.net ；https://fifaranking.net/nations/jpn/ranking_d.php（最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
- DAZN 公式 HP；https://www.dazn.com/ja-JP/welcome（最終閲覧日 2022 年 10 月 1 日）
- テレビ朝日，カタールワールドカップアジア地区最終予選オーストラリア戦，2021 年 10 月 21 日
- テレビ朝日，カタールワールドカップアジア地区最終予選中国戦，2022 年 1 月 27 日
- テレビ朝日，カタールワールドカップアジア地区最終予選サウジアラビア戦，2022 年 2 月 1 日
- テレビ朝日，カタールワールドカップアジア地区最終予選ベトナム戦，2022 年 3 月 29 日
- ABEMA 公式サイト「ドイツ vs 日本」；https://abema.tv/live-event/650b34c2-2203-44cd-875c-94039e5a5e28 （最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
- ABEMA 公式サイト「日本 vs スペイン」；https://abema.tv/live-event/8f7fe9e8-a6ef-4590-b8c2-a221f6fd1f0a （最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
- ABEMA 公式サイト「日本 vs クロアチア」；https://abema.tv/live-event/9c8643c5-0550-4219-8de2-6576b077f8f5 （最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
- NHK，カタール W 杯本大会「ドイツ vs 日本」，2022 年 11 月 23 日
- フジテレビ，カタール W 杯本大会「日本 vs スペイン」，2022 年 12 月 2 日
- フジテレビ，カタール W 杯本大会「日本 vs クロアチア」，2022 年 12 月 6 日
- You Tub，チャンピオンズリーグ決勝「リバプール vs レアル・マドリード」；https://www.youtube.com/watch?v=ABciJ8MY7-s （最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
- BBC「MATCH OF THE DAY」；https://www.bbc.co.uk/programmes/b007t9y1 （最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
- You Tube ， Match of the day 2008 年 8 月 30 日放送；https://www.youtube.com/watch?v=23Oj9nC23d0 （最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）

・ footballorgin , Match of the day 2022 年 10 月 30 日放送，https://www.footballorgin.com/bbc-match-of-the-day-motd-30-october-2022/ （最終閲覧日 2023 年 1 月 12 日）
・ 田中晃；準備せよ。 スポーツ中継のフィロソフィー，初版，173，文藝春秋，2019.
・ 三宅和子；スポーツ実況放送のフレーム ― 放送に向けられた視聴者の不快感を手がかりに， 社会言語科学, 2003.
・ 多々良直弘；スポーツ実況中継のコミュニケーションスタイル ― 実況中継の相互行為に現れる社会文化的価値観とその再生産，桜美林論考，言語文化研究, 2015.
・ 伊藤 隆佑；歴代オリンピック名場面における実況アナウンスの成功要，早稲田大学修士論文，2019.

付録

第１節　　テレビ番組制作デスクＡ氏インタビュー(2022 年 11 月 8 日　2 7 分５１秒)

福西；中継の中でボランチ解説をもっとできるようにするにはどうするか？
中継の中でできない場合はどうするとできるようになるか？

ボランチが得点やアシストとその１つ２つ前のシーンで関わっている場合が多く、得点シーンのあとにゴール解説をするのは当たり前だと思うけど、得点やアシストの１つや２つ前のシーンもスローVTR でボランチの解説ができるかどうかを聞かせてもらってもいいですか？

A：まずサッカー中継において、スローVTR がどう出ているかという仕組みの話になりますが、数人 VTR 担当がいてそれぞれいろんな角度の VTR を持っていて、どこから出すのかを常に探っているんですね。
中継は基本的には、試合を生中継するのが大前提。ゴールが決まったらディレクターないし、VTR 担当が「ここからが起点だ」っていうことを、生中継をやりながら判断して VTR を出していきます。なので、例えば自分がディレクターだったとき、「今の縦パスが起点だからそこで持っておいて」というような指示を出しています。
ただ、結局はライブなので、そこから VTR を出そうと思ったら、一旦ボールが戻ってしまって、更にサイドに展開してクロス上がって、ゴールってなったときに、それを全部出しちゃうと、VTR をだすには時間がかなりとってしまうということもあるんですよね。
そうなったときに、VTR の 1 回目は「起点がわかるところから」を出そう、でも 2 回目はクロスから決めたゴール前のところだけを出そう、3 回目はゴールのシーンをもう 1 回違う角度から出すみたいな形で、一応起点から出す意識はディレクターだったらあるのですが、全部起点から出しちゃうと時間がかかって試合が始まってしまいますし・・・

福西：要するに、丁寧に解説しようとすると時間がかかってしまうというのが 1 番の問題点ってことですか？

A:その通りです。それと、初見でそれを的確に解説できるかっていう課題。福西さん　　はやられていると思うんですけど、本当にきちんとボランチを解説するってなったら、視聴者にちゃんと理解してもらうには、1 回出した後に、もう 1 回同じシーンを出してちゃんと丁

寧になぞっていく、そこまでしないと伝わらないと思うんです・・・

福西：何度もしたほうが、視聴者がわかりやすいということですか？

A：そうですね。ただ、やっぱり生中継でやっていくには、起点から 1 回は出すけども、その後にやっぱりゴール前のシーンとか、いわゆる強い絵と言うんですけど、そういう VTR を優先して、尺も短いしどんどん重ねていって、肉付けしてくというのが VTR の基本的な考え方ではあるんですよね。

福西：それにボランチがアシストとかに絡んでいればもちろん出てくるけども、結果そのまえだとかは、難しくなりますか？

A：ボランチが起点になっているのを気づいて出せればいいんですけど、例えばボランチが何気なく右から来ているものを、すぐに左に流して、相手の陣形がずれてギャップが生まれてーというようなシーンは、何回も観てやっと分かる。僕らも福西さんみたいなトッププロの選手じゃないから、やっぱりそこをわかる人とわからない人はいるし、指示できるかどうかというと、正直なかなかできないのはありますよね。

福西：確かにそれはそうですね。
では、そうなったときにハーフタイムにコーナーを設けて、得点に関するボランチの解説をできる時間はありますか？

A：あるかないかで言えば、あります。サッカーにおいてはハーフタイムが 15 分あるので、前半を受けていわゆるここがポイントだったというところを、事前に解説者の方と打ち合わをしておいて、例えば前半に大島のこういうプレーが出たら必ず出そうと決めておき、そのシーンがでればハーフタイムで紹介して、何回も VTR で出して、画面にペンとかでも書いて解説することはできます。

福西：ということは試合終了後のハイライトのところでボランチ解説を入れるというのは、逆にハイライトだから難しいですか？

A：そうですね。試合のハイライトとなると残り尺との関係で一番シビアです。テレビだったとしたら次の 16 時で終わらないといけないとなると、ハイライトも 1 分バージョンと 30 秒バージョン、あと得点シーンのみとか持っておいて、それを残り尺で出すみたいな。後枠がしっかりあればできますけど、なかなかテレビで・・・

福西：基本的には時間がないですよね。
A：そうですね。

福西：得点シーンと一緒で終了後も時間がなくてって言うのが大きいですかね。
あとは、解説してる人の特徴やポジションも関係してきますよね？
A：そうですね。僕らも思うんですけど、ボランチってほんとみんな解説できるのかなって思いながら。

福西：FW の人がボランチについての解説をできるかどうかとか。
A：そうです。やっぱりどうしても FW 出身の人だったらそのゴール前の体の使い方とか、コースの狙い方とか、どうやってこの選手が得点を狙ったんだというところが中心になりますし、ボランチの福西さんだと全体の話はできると思いますし、GK 出身の目線も違いますし。

福西：そうしたら、試合終了後の得点シーンの解説コーナーも、時間もないからなかなか難しいっていうことになりますね。
A：そうですね。

福西：中継の中でできない場合となったときに J リーグハイライト番組があるじゃないですか。海外の MATCH　OF　THEDAY が見てみたら、１試合１試合のハイライトをして、その試合のハイライトについて１個１個解説、得点シーンなのか、DF の人の守備ラインの戦術の違いなのかとか１個１個やっているんだけど、こういうハイライト番組の中でボランチの解説コーナーとかポジション別のコーナーとかを作るのはできますか？
A：これは番組の演出の話だと思うのですけど、ディレクターなりプロデューサーが面白いと思ったらできますよね。ただ、ハイライト番組でいうと例えば番組尺が４０分として、そこで J1 を９試合紹介しないとなったとき、やっぱり１試合３分、９試合×３分で２７分くらいになるじゃないですか、つなぎのスタジオも合わせて３０分くらい使っちゃうと残り１０分もない、スタジオで順位表を紹介やゲストに解説してもらうとなると、もうほとんど構成がパッケージ化されちゃっているんですよね。

福西：これは（時間を）伸ばすとかは可能ですか？
A：そこは編成との話し合いです。やっぱりサッカーの専門チャンネルではないので。J リーグハイライト番組のあとにはニュースもありますし、J リーグ単体の番組を４０分尺で編成することも結構ギリギリなんですよね。サッカーに特化したコンテンツって地上波ではほとんどなくなって、J リーグハイライト番組はやっぱりサッカーファンには支持されているし、関係者の間でも見ている人も多いし、「うちの中でも大切な番組だ」っていうのは局

内でもプレゼンはするんですけど、全体的に単一競技の番組って、これは日本特有かもしれないんですが、なかなか需要が少ないんですよね。日本っていわゆる総合スポーツニュースが多いじゃないですか。単体の番組ってその競技のファンしかつかないってところがあって。

福西：そうなるとテレビ局も作りづらくなるというか、作らなくなるというのがありますよね？
A：サッカーの人気が全体的に落ちてるのと連動してサッカー番組がなくなってるというのは、そういうことだと思います。だから、幕の内弁当みたいなのが多くなっていると個人的には思います。

福西：総合スポーツ番組のうちの１つのコーナーなので時間がないってのがもちろんあるので、試合中継直後に５分の番組でも作るとなるとやっぱり難しいですか？
A：サッカー中継もらっている尺の中で僕らは考えなきゃいけない。そこにプラスして５分の枠が欲しいってなると、なんでその５分が必要なのかを編成に納得してもらう必要があります。

福西：なるほど。１週間以内でどこかの枠で番組をとなると、イギリスを調べたら試合事前情報番組で１時間あって、土曜日の正午に、土曜午後１６時に試合終了後速報のハイライト番組やって、午後の２２時３０分にさっきの MATCHOFTHEDAY１時間半番組がダイジェスト番組であるみたいな、日曜日にも２つくらい再放送と１時間番組があるみたいなのがあるんだけど、結果、日本も総合番組だからとかサッカーの人気とかを考えたら、テレビ局的に作るのは難しくなりますよね？
A：そのとおりですね。多分、イギリスでそういう番組があるってことはニーズがあるってことで、結果、なんでニーズがあるかっていうのは、正直サッカーの文化が根づいていて、見る人がいるってことだと思うんですよね。ただ鶏が先か卵が先かと同じで、そういう番組があるからファンもできているとも言えます。日本でサッカー番組をそれだけ長尺でやるというのは、なかなか難しいです。この間、サッカー中継の後枠を伸ばしたのですが、W杯をプロモーションするってことでできました。追加１５分ぐらいだったんですけど、ああいうのを普通の中継でやるとなったときには相当の理由がないと。

福西：ハードルは高いってことですね。
A：高いですね、相当。

福西：基本的には中継内で解説できるのが１番いいですか？
A：地上波の中継は全国放送だと今年は８本だったのかな、最終戦の５本と前半戦３本で合

計８本だったんですけど、やっぱりそれ以上増やすのも大変で、今年は多い方だったんですよ。

福西：W杯の年だからってのもあるかもしれないですよね。
A：なかなか枠を取りづらいというか、みんなが見る人気のスポーツだったら取れますけど、Ｊリーグはそういう状況ではない。で、さらに何かに特化した演出、サッカーに特化した番組かつボランチ専門の解説という形になると、広く受け入れられるのは地上波だと難しいですね。面白いと思うんですけど。

福西：地上波では難しいってなっちゃうかも。お金払ってでも見たいってなればありえるかもしれないけれど。
A：だから、やっぱり専門的なものをやるんだったら、今は有料配信サービスになりますよね。ジャッジだけに特化した番組とか、いわゆる専門番組、お金払って見る人イコール「コアに見たい人」。そういう人たちはとことん深く見たがっている。配信とか衛星放送だと枠は比較的自由で、予算的に番組が成り立てばもうはめればいいだけなんで。特化すればするほど、専門店みたいな売り方をしているサービスとはピッタリだと思います。

福西：なるほど。
A：ただ個人的には、視聴者が限定している中でやっていっても結局全員の偏差値レベルって上がらないじゃないですか。だからチャレンジしていかなきゃいけないのは、我々テレビだと思ってます。今まで僕が言ったのって、現状説明なんですけど、逆にボランチを特化してみんなの理解を深めていったら、サッカーに対する見方が変わるかもしれない。なんでヤットがすごいとか、なんでイニエスタがすごいとか、みんな「なんとなくすごい」って分かってても言葉にできないんですよね、僕も含めてなんですけど。でも、競技理解を深めるには言葉にしていかなきゃいけないって強く思うんですよ。
だから、どういうところがほんとすごいのかってことを、コーナー作って、そういう１つ１つの、なんかぼんやりしたものの解像度を高めていく作業はしっかりやっていかないと、メディアも成長しないし、視聴者にも新しいものを届けることができるのかなと思ってます。

福西：僕は（サッカーを）やってた方でもあるから、そういうものを言葉にできたらいいし、解説コーナーじゃないけど、サッカーの得点の前の前みたいなのでもあったらいいなと思ってて作りたいってあります。
A：生中継においてはやっぱり、ほんとにゲームの流れを瞬時に判断して、それをすぐに言葉にしてなると、なかなか作り手がついて来れないところがあるかなと思ってて、そうだとすればハイライト番組とかで、とことん福西さんと意見交換しながら、福西さんの分析をしっかり VTR で表現して、３０分もボランチについて議論できないかもしれないですけど、

３分のコーナーで紹介することが増えていけばと思います。

福西：確かにこれはいい話かも。作り手の人のレベルが上がれば、もしかしたら中継のレベルも上がるかもしれないっていう提言はできると思います。
A：それはあると思います。
ただ、難しいんですよ。「サッカーをやってた人」と「やってない人」の壁って、かなり大きくあるんですよ。なんとなく理解して出来てる風に見えるのと、ちゃんとサッカーを理解してやってるレベルの差は相当あると思います。
解説者の話しを聞いて、理解するのは僕でもできます。ただ僕らが解説者と話をするときには、事前に専門誌を読んだり、試合を何度も見てから話をするんですが、本当にサッカーを理解している人って多分、その現象を見ただけで、今ここにギャップが生まれてるだとか、今こうずれたからチャンスが出来たというのを、そのパッと見てわかると思うんです。それは、僕はわからないんですよね。
解説者の見てる景色を自分の頭の中にコピーはできてないのはあります。

福西：なるほど。それは確かにいい話。ありがとうございます。

A：こんなイチ個人の話でもいいですか。
福西：もちろん。

A：試合中継中は、ボールデッドで VTR をスタートします。VTR は、1 つ出すのか、2 つ出すのか、どこから出すのかっていうことを、試合中にずっと指示してなきゃいけないんですよね。でも常に修正の連続なんですね。「やっぱり起点を遅くして、さっきのコンタクトのシーンだけで出すよ」とどんどん修正して次に備えます。中継もサッカーと同じで、選択の連続なんで、絶対に失敗も起こるし、ドラマのカット割りみたいな思い通りの展開にはならないんですよ。

福西：なるほどね、すごい。
A：選手をこう映してこっち振り向けと思ったら、ずっと背中だったりして。
福西選手、こっち向いてよと思ってました。

福西：使えないじゃんみたいな。
A：そうそう、そして、ああ向いた、でももう長くなっちゃった VTR はやめようとか。自分の思い通りに試合が動いてくれないので、ある程度予測しながらカット割りしていく。瞬時の判断が必要なので、その精度を上げるのが中継の出来不出来を分けると思います。あとは他の競技全部に対しても言えるんですが、その競技への理解を深めてって、どこがキモな

のか、今なんでこれが起きてるのかをちゃんと理解すること。それが噛み合った時がすごいいい中継ができる。チャンピオンズリーグとかプレミアリーグとかの、うぁーみたいな中継はディレクターが相当優秀だと思います。

福西：本当に、実況解説者プラスディレクターですね。
A：まさにそうです。だから、ちゃんと事前に実況／解説と中継の狙いを決めて、こういうシーンがあったら絶対出しますんで解説してくださいとプライオリティを決めてやります。狙いがはまるといい中継だし、はまらないとアララ。。みたいな。全然違う展開だったら途中からもう事前の狙いはこだわらなく、もう違う話で持ってた方が面白いってのいうのもありますし。

福西：そしたら、ディレクターが方向性変えなきゃいけないっていうのもありますね。
A：そうです。

福西：なるほど、プロデューサーがいて、デスクがいて、ディレクターがいる。誰が指示をしてるんですか？
A：基本はディレクターですね。

福西：ディレクター。NHK でいうと総合 PD ですね。
A：そうです。
だから、打ち合わせとかでは全部ディレクターが説明します。いわゆる演出の責任者ですね。

福西：なるほど。
A：デスクはいわゆるそのそこまでにいくまでに、出演者のブッキングとか、編成枠確認したりとか、あと当日はハイライトとか作ったりする、見守る人みたいな形です。
プロデューサーはもう本当、安全管理含めて、最終的にはプロデューサーが全部決定権持ってるんですけど、プロデューサー的には、当日、何も慌てないのが 1 番いいという感じですね。何かあったときのトラブル対応です。

福西:最後に起点という解釈を伴う指示ではなく 2 つ 3 つ前をリプレイ映像にするという指示ならできますか？
A:それはもちろんできます。起点から紹介できる可能性も高まると思います。

福西：ありがとうございました。

第 2 節　　テレビ番組制作ディレクターB 氏インタビュー(2022 年 11 月 24

日）

NHK　B ディレクターインタビュー 2022 年 11 月 24 日
１４分２８秒

福西：得点シーンをハイライトなり、解説するのは
普通にありますが、その得点やアシストの１つ、2 つ前のシーンから切り取って、解説するっていうことが、中継中にできるかどうかっていうのを教えてください。
B：そうですね。
まずは通常のハイライトとは別に、
テレビ中継で素材はたくさん各アングルがあるので、特に、展開系のベースカメラであったり、オフサイドカメラであったり、クローズアップしてるカメラもあるので、視聴者が本当に見たい角度から遡ってプレイバックして、まずは視覚的には見れるというのが 1 点と、福西さんもよく使っていただいてますけど、そこに対してさらにボランチに目線が行くように、チョークボード使ったり、また別のピエロっていう作画システム、NHK で使ったりしてますけど、ボランチにフォーカス目線が行くようにさらに視覚的に誘導するっていうことで、アングルもそうですし、目線誘導も含めてボランチにフォーカスするっていうことは、間違いなくできるとは思いますね。

福西：そうしたら、解説者にもよるだろうし、そのディレクターにもよるっていうことですよね？
B：そうですね。

福西：出すための時間はありますか、ないですか？
B：それはハーフタイムだったですか？

福西：例えばハーフタイムにその解説するっていう時間は設けられますか？
B：通常のハイライトとは別に設けられますね。
これまでの多少ね、それは事前にもちろん福西さんだったら福西さんの解説者の方の見立てと、それに対してプレーが本当に紐づいてくるというか、
実際にボランチがどれぐらい関与してたかっていうのにもよりますけど、そういうシーンを、何も関与してないのにやるわけにもいかないので、
まずは専門家のプロの解説の方の目線で抜き出していただくっていう形が前提ですね。

福西：もちろんね。
B：仕組み的に言うと、時間的には捻出することはできると思います。

福西：それは、試合終了後も含めてですか？
B：おっしゃる通りです。
編成の許しをえて、時間をさく時間があればできますね。

福西：なるほど。ということは、試合終了中継後に出すっていうことは難しいから、
中継内にその時間を設けるしかないってことですね。
B:そうですね。別番組でするということですか？

福西：はい。
B：それはでも、j リーグハイライト番組とかとは別にするということですね。

福西：この中継の中で得点シーンはもちろんやらなきゃいけないことだと思うのですが、
例えばボランチが関わってますよっていうのがわかった時に、そこから切り出して映像を作るっていうことは難しいですか？
よく専門家、僕たちのような解説者の専門家が映像をここから切ってこうしてくださいっていうのは、よくできると思うけれど、中継中はする時間がないし、
その時にどこから起点になってるとかボランチが関わってるって判断は、ディレクターの力っていうのは影響しますか？

B：それはかなりしますね。かなりします。
それはやっぱり、サッカーに触れ合ってきた人間が、VTR を担当して、今の潰しが良かったなと、ここから起点になったなっていうのをまず、気づけるか、気づけないか、っていうのが 1 つあります。
それは VTR をさわる人間じゃなくてもメインでやってるディレクターだったり、放送席にいるデスクだったり、誰かが共有できる人間がいれば、映像を見てなくても、
起こった時に、その映像見ていれば、今の潰し、今のくさび 1 本からどこが起点だったかっていうのを気づけるか、気づけないかっていうのが 1 番になります。

福西：サッカーしてる人だったら、これそうだなって思うこともあったり、全然知らないような人だったら、その先のアシストだけを切り取ったり、っていう可能性はあるってことですよね？
B：我々も自分たちで気づけない場合は、コメンタリーの解説を聞いていい縦パス入りましたね。とかっていう話に引っ張られて気づくことはできるし、っていう感じですかね。

福西：そうなら、解説者に応じて、ボランチの解説者だったらボランチのところの部分をそ

ういう風な、ちょっと尺を取ってでも、解説した方がいいと僕は思うし、FW だったらその前の動き出しの解説をしてもらうだろうし、っていうのは、解説者によってその中身を変えていくということですよね。
B：そうですね。変えてくもありますね。

福西：それでも僕は、他の人でもこの得点に生まれてる中身にボランチが関わってることが多いから、それを視聴者に知ってもらうことによって、サッカーの知識が伝わるんじゃないかっていうのは考えていて、
それをディレクターなり、制作側が映像をぱっと切り取ることができたら、解説ができると思ってます。
B：全部言えると、僕も常日頃から多少なり、サッカーに関わってきてた人間なので、まさにおっしゃるようにハイライトだけやるのもそうなんですけど、できればさっき見せたハイライトで見せたここから完結までの部分を、その前に何があったのかを巻き戻って見てみましょうっていうことを、深くまで教えてほしいなっていう時がたくさんあるんですよね。
それが福西さんおっしゃったように、バッて巻き戻したら、ボランチのところで潰したところから始まってましたとか、もしくはハイライトには映ってこないけど、実はゴールキーパーから 1 回も奪われずに来てました。
そこの起点に必ずやっぱ、この試合できいてたボランチの選手が、やっぱり 1 回ボール受けてましたって。
あのやっとさんの解説していただいた時みたいな、
なんでもないようだけど、1 回、ここで経由してるとか。
必ず経由してるみたいなのはハイライトに映ってこないところで、1 個前、2 個前ぐらいからもっとビルドアップのもっと前から入ってる可能性あるじゃないですか。
そこまで巻き戻って深掘りすることって、ほとんど中継の世界の中ではないので。

福西：これなんでないんでしょうね？
B：時間の問題が、まず 1 つなのと、やっぱりまずシンプルに 1 番のサッカーのハイライトは得点シーンって考えると、それがなんで起こったかっていうとこまで興味を持たない人が多いっていうのが 1 番かもしれないですね。

福西：特にサッカーを知ってる人以外は難しいってことだね。
B：多分、頭がついていかないっていう。
だって、シュートがうまかったんでしょっていう結果ね。

福西：それで、最後はシュート決めたでしょっていうところに、

行きつくっていうのはそうですね。
B：福西さんの話で言うと、例えそこにボランチがボールに触ってなかったとしても、全体の動きのなかで、おとりの動きとかポジションの立ち位置をそのヤットさんとかイニエスタの中継の時は、その立ち位置の話までしてくださってたので。
そこまでいくとすげえ、面白いなっていう部分はあるんで、ボールに関わってないけど、こうっていうとこまで言ってくれると、僕は目が追いつくっていう感じです。

福西：もう、その中継テーマをボランチとかにしたら、そういうのはありえるってことですか？
B：そうです。ありえますね。

福西：コーナーを用いるのも中継自体をそのテーマにするっていうのも 1 つの策ってことですか？
B：おっしゃる通りです。
もうちょっと質問に、それて申し訳ないですけど。
先日、福西さんが 1 回言ってくれた、試合全体を映してるベースカメラのサイズを変えるっていうのも 1 つ手ですね。
1 回寄りすぎてて見づらい時があった試合。
あれを本当に全体が見える、もしくはボランチを必ず、
映してるって全体をうつした状態で。

福西：そうしたら、解説者が話すところは増えますね。
B：そうですね。
話すところは増えるけど、視聴者的には豆粒になって見づらいっていうとこもあったりするんで、サイズ変えたりしてます。

福西：それを変えるっていうのも 1 つですね。
シーンを切り出すっていうのより、ベースカメラをメインにして、そこで解説に話してもらうっていうのは 1 つの方法ですかね。
その中継の中でできない時にハイライト番組ができるかどうかですが、j リーグハイライト番組はある。それで、海外とかも MATCHOFTHEDAY とかある。
それでもボランチとかのコーナーとか、ポジション別っていうのはできますか？
B：全然できると思いますし、仮に j リーグハイライト番組では、
速報性を 1 番テーマにしてますけど、あの福西さんがこられた時は、そういうボランチに特化するなりしたものは作れる。
端的にいうと作れるとは思います。

福西：ポジション別っていうことに関しては、プレイヤー解説者のテーマに応じたことができるってことですね。
B：そうですね。

福西：今のところそうゆう機会が少ないなと思っていて、それができるために何か方法はないか、案はありますか？
B：そういう番組を…難しいですね。

福西：だから編成のところに、落ち合わなきゃいけないとかですか？
この内容でいいのかっていう視聴者も含めては、受けてくれてるかというのを加味した上での、番組構成というか？
B：そうですね。
ボランチだけっていうわけにはいかないかもしれないですけど、こういうポジション別のコーナーを作ることはできるかどうかは、編成の部分があるんで、テレビ屋さん的には絶対できますとは言えないですけど。
例えば、中継がナイトゲームで 7 時、キックオフ 9 時までいつも番組やってます。試合終了がいつになるかわかんない中で、それこそミニマムで 5 分ぐらいのミニ解説番組みたいなのが、J リーグ中継とかの後ろに必ずくっつくものとして、
そういう枠を設けて、福西さんの時であれば福西さんので、別の解説の方であれば解説の方のポジション別のピックアッププレーの徹底分析コーナーみたいなのは、あったら面白いかもしれないですね。

福西：そしたら中継枠の外になりますよね。
B：枠的には外にはなります。外にはなりますね。

福西：（デスクにインタビューしたら）もう中継の中か、もう外になったら外の番組を取らなきゃいけないから、もうやるんだったら中継の中の方が可能性は高いんじゃないですかと。
B：そうですね。中継の枠を延伸してやるという。

福西：そう。そうしたら、その延伸分を、勝ち取らなきゃいけないという。
B：そうです。

福西：そうですよね。枠を取らなきゃいけない。
B:インタビューをやってるわけでもない、なんでもない。

試合終わってるのに、なんで延伸するのっていうことになってくるので。

福西：なるほどなるほど。なるほど了解しました。
ありがとう。

第3節　　Jリーグ担当者インタビュー内容　(2022年12月13日)

C：DAZNでの生中継の映像制作、あとは2次利用する映像の管理。あと、スタッツデータの制作管理等をうちの部署でやっています。
立ち上げの時からずっとジャッチリプレイはうちの部署が作ってます。

福西:ちょっと可能性も僕はあるんじゃないかと感じていて、ジャッジリプレイみたいにシーンを抜き出して、
Jリーグで取った得点の中で、ボランチがよく関わってるっていうシーンを抜き出して、そこで、だからこういう得点が生まれたんだっていうのを伝えていければいいなとは思っていて、番組を作ることが出来る可能性についてお聞きしたいです。

C：やっぱりジャッジリプレイの時も、いきなりテレビやDAZNに持っていっても、お金出してやってくれるかどうかっていうのはわかんなかったんですね。
それで、Jリーグのオンドメディアの YouTube でとりあえず、トライラルで3回やってみようって始めました。
それで、3回やって、視聴者のいいね数とかコメントを見てポジティブが多かったので、関係者も審判とかも、その仮にミスジャッジをしたとしても解説してくれることで、助かった部分があるっていうのを聞けました。
では、本格的にやろうと、DAZNに持っていったらDAZNもお金出すとなり実現したっていうのがあります。
他も一応、パイロット版をYouTubeで作り、局に持っていくっていうのが、これまでのやり方ではあるので、簡単にやるなら本当にYouTubeです。
例えば、Jリーグのうちの部は番組制作もやってるので、一緒にそういう番組を作ってみるとかで、何個かトライアル作って局に持っていく。

福西：それって可能性はあるものなんですか？
Jリーグでやるのか、また他のYou Tubeでやるのか。
C：JリーグのYou Tubeがいいと思います。まずは。
結構、地上波は厳しいのでOTTで、あのDAZNとか、どこでしょうね。

福西：OTT で言うと DAZN ですか？
もう、J リーグの You Tube ですね。
C：はい。J リーグの You Tube の方で。今、登録者数は 72 万ですかね。

福西：それで世論の声も聞けますよね。
C：はい

福西：それは、予算もかかるじゃないですか。
例えば、じゃあ映像を僕とか他の人が買って、そういうことを、例えば局でやるってなったら可能性ってありますか？
C：有料になりますけども、映像の貸し出しと使用料をもらってます。
ただ、本当にその編集に立ち会わないといけなくなりますね。
福西さんが立ち会ってこの点だよっていえば、そこからカットしてく形でダウンロードするので。それができれば番組は作れると思うんですよ。
ジャッチも、元審判の方とかうちのメンバーが試合見ながら、このシーンこのシーンって全部指定してるんですね。
それを制作会社が編集して見せてるっていうのがあるので、そこまで関わるといい番組作りにはなるかなと思いますね。

福西：自分が関われるかの問題も出てきますよね。
C：普通に試合を見て、あの何分のこのシーンですっていうの、もうベタ打ちでメールもらうぐらいでもできます。
本当に番組しようと思ったら、司会がいるのかとか、福西さん 1 人でやるのかとか、回しの人、アナウンサーがいるのかとか、そういうので予算がかかってきます。

福西：そうですね。番組となれば。
C：本当 1 人で 1 人喋りで、一旦映像を見ながら福西さんが喋ります。
それで、取り終わった後に喋ってるのに合わせて、見てた映像を編集で
変えていくのも、1 つの番組にはなりますけど。
それが 1 番予算はかかりません。

福西：だから、J リーグの YouTube が 1 番可能性高く、他のところでするならお金が必要ですよと。
C：YouTube も、YouTuber がお金をもらってるように、それ広告つけて稼ぐことはできますので。

あと、さっき言ったスタッツデータとかがトラッキングで、そのボランチがどういう動きしてるかとか何回ボール触って、この得点シーンはどこにあるみたいな、データもあります。生データはあるので、もし活用いただけるならできます。

福西：J リーグさんが良ければ、できなくないですね。

C：そうです。はい。